

年報

青森県立美術館

令和元年度

目次

青森県立美術館の沿革

展覧会

- 006 企画展
- 038 コレクション展

学芸

- 048 美術資料収集
- 054 美術資料貸出状況
- 055 作品保存修復

教育普及

- 058 スクールプログラム
- 060 普及プログラム
- 062 サポートスタッフ

パフォーマンスアーツ

- 066 演劇
- 071 音楽
- 076 映画

サービス等

- 080 貸館
- 082 図書室
- 083 キッズルーム
- 084 博物館実習
- 085 サポートシップ倶楽部

資料

- 088 広報
- 089 広聴
- 090 入館者数
- 091 運営予算・決算
- 092 組織
- 093 関係規程等
- 096 施設設備概要

青森県立美術館の沿革

1990年3月	美術館の設置について検討を開始することを表明
1991年1月	美術館、音楽・演劇ホール等の複合文化ゾーンである「総合芸術パーク」の検討開始
1996年2月	総合芸術パークの建設場所を三内丸山遺跡に隣接した移転予定の総合運動公園跡地に決定 総合芸術パークの核となる美術館を先行し整備することが決定
1999年度	美術館設計競技を実施、最優秀者に青木淳氏
2000年度	建築基本設計
2001年度	建築実施設計
2002年度	美術館建築工事着工
2003年度	別棟で建築予定であったアトリエとレジデンスを休止、同じく別棟で建築予定であったレストラン、ミュージアムショップを美術館本体に組み込むなどの見直しを行う
2005年9月20日	美術館竣工
2005年10月17日	「青森県立美術館条例」制定
2006年3月17日	第1回「運営諮問会議」
2006年4月1日	青森県立美術館開館準備室設置
2006年6月13日	開館プレス発表開催
2006年7月13日	開館（館長 三村申吾）
2007年7月24日	博物館法に基づく博物館相当施設登録（青森県教育委員会告示第11号）
2007年9月13日	「県民のための美術館づくり懇話会」設置
2008年7月19日	あおり犬屋外連絡通路開通
2008年7月20日	青森県立美術館2周年記念シンポジウム開催
2009年1月1日	新館長 鷹山ひばり 就任
2010年5月7日	入館者150万人達成
2010年7月8日	あおり犬えさ皿完成
2011年7月11日	入館者200万人達成
2011年7月13日	開館5周年
2012年11月14日	入館者250万人達成
2013年11月14日	入館者300万人達成
2015年4月1日	新館長 杉本 康雄 就任
2016年3月	入館者350万人達成
2016年3月19日	「青森県立美術館アドバイザー・ボード」設置
2016年7月13日	開館10周年
2016年12月23日	八角堂リニューアル 《miss forest / 森の子》完成
2018年5月25日	入館者400万人達成

展覧会

企画展

アルヴァ・アアルト—もうひとつの自然

子どものための建築と空間展

青森 EARTH 2019：いのち耕す場所—農業がひらくアートの未来

コレクション展

コレクション展Ⅰ

コレクション展Ⅱ

コレクション展Ⅲ

コレクション展Ⅳ

凡例

- 1 出品作品の項は、出品番号、作家・作品名、制作年、材質技法、寸法（高さ×縦×横、cm）、所蔵先の順に記した。
- 2 掲載記事は新聞記事を主として記載している。

アルヴァ・アアルトーもうひとつの自然

開催概要

2019年4月27日(土) - 6月23日(日)

開催日数：55日

開館時間：9:30 - 17:00 (最終入場 16:30、5月末まで)
9:00 - 18:00 (最終入場 17:30、6月から)

休館日：5月13日、27日、6月10日

会場：青森県立美術館 企画展示室

主催：アルヴァ・アアルトーもうひとつの自然展実行委員会 (青森放送、青森県観光連盟、青森県立美術館)、読売新聞社、美術館連絡協議会

協賛：ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、インターオフィス

協力：ルフトハンザ ドイツ航空、ルフトハンザ カーゴ AG、青い森鉄道株式会社、株式会社JR東日本青森商業開発

後援：フィンランド大使館、NHK 青森放送局、青森ケーブルテレビ株式会社、青森県教育委員会

総入場者数

12,858人

有料入場者数

10,111人 (目標値 22,000人 達成率 46.0%)

関連行事

【1】記念講演会1「アルヴァ・アアルト入門—ヒューマニズムの建築家」

日時：4月27日(土) 14:00 - 15:30

場所：青森県立美術館 シアター

講師：和田菜穂子 (建築史家、東京建築アクセスポイント代表)

入場料：無料

参加者：49人

【2】記念講演会2「フィンランドの風土とアアルト建築の光」

日時：5月11日(土) 14:00 - 15:30

場所：青森県立美術館 シアター

講師：小泉隆 (九州産業大学建築都市工学部教授)

入場料：無料

参加者：66人

※青森県立美術館サポートシップ倶楽部との共催事業

【3】担当学芸員によるギャラリートーク

日時：①5月18日(土)、②5月25日(土)、③6月1日(土)、

④6月8日(土)、⑤6月15日(土)、⑥6月22日(土)

各 14:00 - 15:00

場所：青森県立美術館 展示室

入場料：無料 (ただし、当日有効の本展観覧券が必要)

参加者：①11人、②6人、③11人、④17人、⑤17人、

⑥25人

展覧会カタログ

アルヴァ・アアルトーもう一つの自然

20.5 × 25.4cm 388頁

2018年10月25日 初版第1刷発行

編集：和田菜穂子 (建築史家、国際巡回展日本展担当コーディネーター)

執筆：水沢勉 (神奈川県立近代美術館長)、マーク・ツェントナー (ヴィトラ・デザイン・ミュージアム館長)、マテオ・クリース (ヴィトラ・デザイン・ミュージアム館長)、トンミ・リンダ (アルヴァ・アアルト財団 マネージング・ディレクター)、ヨッヘン・アイゼンブラント (ヴィトラ・デザイン・ミュージアム チーフキュレーター)、和田菜穂子、靱山昌夫 (神奈川県立近代美術館学芸員)、林アンニ (アルテック (Vitra 株式会社))、松本淳 (建築家)、垣野義典 (東京理科大学理工学部建築学科准教授)、鷹野敦 (鹿児島大学大学院理工学域工学系准教授)、中村暁子 (名古屋市美術館学芸員)、三宅理一 (建築史家、東京理科大学客員教授)、坂茂 (建築家)、藤本壮介 (建築家)、堀部安嗣 (建築家)

翻訳：靱山昌夫、中村暁子、柚花文 (東京ステーションギャラリー学芸員)、池田亨 (青森県立美術館学芸員)、宇井久仁子、三木はるか (学習院大学大学院人文科学研究科博士後期課程)、クリストファー・スティヴンズ

フィンランド語監修：宇井久仁子

装丁・デザイン：色部デザイン研究室 (色部義昭+足立拓巳+荒井胤海)

発行：株式会社国書刊行会



展示風景

フィンランドを代表する建築家アルヴァ・アアルト（1898-1976）はモダニズムの中に人間の生理に即した要素をとり入れ、建築を人間にとっての「もうひとつの自然」となるよう、人々の暮らしをよりよくするための建築や家具デザインなどを追求した。代表作のパイミオのサナトリウム（1933）、マイレア邸（1939）、ヴォクセニスカの教会（1958）などは、建築における有機的な形態と素材のすぐれた相互作用を体験し、世界的にも高く評価されている。アアルトはドアノブから照明器具、家具に至るまで、小さなデザインに対してもディテールにこだわり、空間全体の調和を試み、パイミオチェア（1931-32）、S 60 スツール（1933）、サヴォイベース（1936）等は、今やフィンランド・デザインのシンボルとなっている。

本展覧会はヴィトラ・デザイン・ミュージアムが企画し、アルヴァ・アアルト財団の協力によって実現した、世界で初めての大規模な回顧展である。おおよその時系列に沿ってアアルトの生涯を紹介するが、建築模型、オリジナル・ドローイング、家具、ガラス製品、写真等を以下の5つの章立てで展示した。

1. Elective Affinities 選択的親和力

2. Multisensory Environments 多感覚的空間

3. Art and Life 芸術と生活

4. Better Things for Everyday Life より良いものを毎日の生活に

5. Architecture of Synthesis 統合的建築

本展は、国内では美術館連絡協議会による4館の巡回展であり、建築関係者・建築ファンのみならず、若～中年層を中心に熱心な来館者を集めた。家具やガラス器の制作過程の紹介をはじめとする豊富な映像による解説展示など、鑑賞者の満足度は高かったように思われる。また、アアルトのデザイン家具の現行品を販売するアルテック・ジャパンの協力による家具の体験コーナーの設置も行い、アレコホール、エントランスにアアルトデザインのツール等を展示し、とりわけ人気であった。一般によく知られたフィンランドの代表的なコンテンツであるムーミンやマリメッコなどがなくても、一万人を越える来館者があったことから、県内外の多くのフィンランドファン、建築ファンの需要を満たしたことがうかがわれ、意義のある展覧会だったと思われる。

出品作品

1 選択的親和力

アルヴァ・アアルト
ムーラメの教会
フィンランド、1926-29年

1-1
内観透視図
グラファイト、紙
アルヴァ・アアルト美術館

1-2
鐘様の立面スケッチ
墨、トレーシングペーパー
アルヴァ・アアルト美術館

1-3
家具のデザイン
墨、トレーシングペーパー
アルヴァ・アアルト美術館

1-4
聖具室のための椅子
1928年
鉄、革
アルヴァ・アアルト美術館

アルヴァ・アアルト
トイヴァッカの教会
フィンランド、1923年

1-5
燭台
鉄
アルヴァ・アアルト美術館

1-6
窓のデザイン
グラファイト、紙
アルヴァ・アアルト美術館

1-7
聖歌隊席のステンドグラスのためのスケッチ
グラファイト、色鉛筆、紙
アルヴァ・アアルト美術館

アルヴァ・アアルト
ヤムサの教会
フィンランド、1925年頃（実現せず）

1-8
景観のスケッチ
グラファイト、トレーシングペーパー
アルヴァ・アアルト美術館

1-9
オルガンのある内観透視図
グラファイト、水彩、厚紙
アルヴァ・アアルト美術館

アルヴァ・アアルト
ヴァッリラの教会
ヘルシンキ、フィンランド
1929年頃（実現せず）

1-10
断面図、祭壇、音響のスケッチ
グラファイト、紙
アルヴァ・アアルト美術館

アルヴァ・アアルト
墓地礼拝堂
ユヴァスキュラ、フィンランド
1925年、1930年（実現せず）

1-11
外観透視図、平面図
1930年
グラファイト、紙
アルヴァ・アアルト美術館

1-12
立面図、1階平面図
1925年
グラファイト、トレーシングペーパー
アルヴァ・アアルト美術館

2 多感覚的空間

アルヴァ・アアルト
トゥルク市700周年記念 第3回
フィンランド博覧会の会場デザイン
フィンランド、1929年

2-1
広告館の透視図
墨、色鉛筆、厚紙
アルヴァ・アアルト美術館

2-2
広告塔の透視図
墨、色鉛筆、トレーシングペーパー
アルヴァ・アアルト美術館

2-3
アルヴァ・アアルトとエリック・ブリュッ
マン
円形レストランの透視図のある宣伝用チラシ
印刷、紙
アルヴァ・アアルト美術館

アルヴァ・アアルト
トゥルン・サノマツ新聞社
トゥルク、フィンランド、1928-30年

2-4
透視図
インク、トレーシングペーパー
アルヴァ・アアルト美術館

2-5
新聞が投影されたウィンドウ・ディスプレイ
グラファイト、トレーシングペーパー
アルヴァ・アアルト美術館

2-6
6階住居の色彩計画（平面図、内観透視図）
墨、色鉛筆、トレーシングペーパー
アルヴァ・アアルト美術館

アルヴァ・アアルト
南西フィンランド農業協同組合ビル
トゥルク、フィンランド、1927-28年

2-7
断面図
グラファイト、墨、水彩、厚紙
アルヴァ・アアルト美術館

2-8
トゥルク市立劇場内観透視図
写真
アルヴァ・アアルト美術館

アルヴァ・アアルト
スオメン・ビオグラフィ（フィンランド・シ
ネマ）
トゥルク、フィンランド
1928年（実現せず）

2-9
断面図
墨、トレーシングペーパー
アルヴァ・アアルト美術館

2-10
スクリーンとオーケストラピットの透視図
グラファイト、トレーシングペーパー
アルヴァ・アアルト美術館

アルヴァ・アアルト
トゥルク市立劇場（南西フィンランド農業協
同組合ビル）
フィンランド、1930年

2-11
ハガル・オルソン演劇
「S.O.S.」の舞台装置のためのデザイン・ス
ケッチ
グラファイト、墨、紙
アルヴァ・アアルト美術館

2-12
演劇「S.O.S.」のポスター
印刷、紙
アルヴァ・アアルト美術館

2-13
ハガル・オルソン演劇「S.O.S.」のため
の投影

ハガル・オルソン演劇「S.O.S.」のため
の舞台装置

トゥルク市立劇場、1930年代
映像
アルヴァ・アアルト美術館 / Åbo Akademi
Picture Collections

2-14
アイノ・アアルトによる、またはアアルト夫
妻に関する写真
アルヴァ・アアルト美術館
(No.2, 11, 12: Alvar Aalto Estate)

1. バイミオのサナトリウムの外気浴棟、
1932年

2. バイミオのサナトリウムの外気浴棟に立つ
人、1932年

3. バイミオのサナトリウムの食器棚、1932
年

4. トゥルン・サノマツ新聞社の煙突、
1932年

5. アアルトのポートレート、1930年代

6. トゥルン・サノマツ新聞社の煙突、
1930年頃

7. トッピラ=ヴァーラ・バルブ工場、1931
年

8. トッピラ=ヴァーラ・バルブ工場、1931
年

9. バイミオのサナトリウムの屋上に立つア
アルト、1930年頃

10. 汽船、1928年頃

11. ロンドンのロイヤル・バレードをカメラ
で追うモホイ=ナジ・ラースローとアイノ・
アアルト
1933年
(撮影：アルヴァ・アアルト)

12. トゥルクのアアルトのアパートメント、
1930年代初頭

13. トゥルクのアアルトのアパートメント、
1930年代初頭

14. ニューヨーク万博フィンランド館でのア
アルト、1939年
(撮影：エイノ・マキネン)

15. トゥルクのアアルトのアパートメント、
1930年代初頭

16. トゥルクのアアルトのアパートメント、
1930年代初頭

17. 自邸の庭のアアルト、1940年代

2-15
アルミン・リンケ
バイミオのサナトリウム、フィンランド、
1928-33年
2014年 映像（1分47秒）

アルヴァ・アアルト
 バイミオのサナトリウム
 フィンランド、1928-33年

2-16
 病室の技術的詳細の展示パネル
 墨、写真、厚紙
 アルヴァ・アアルト美術館

2-17
 鳥瞰写真
 1929-30年
 アルヴァ・アアルト美術館

アルヴァ・アアルト
 バイミオのサナトリウム
 フィンランド、1928-33年
 病室の内装と家具

2-18
 ウォール・ランプ 7239
 ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

2-19
 テーブル・ランプ 5267
 ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

2-20
 洗面器、取り付け具
 ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

2-21
 ワードローブ
 ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

2-22
 ベッド
 ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

2-23
 キャビネット
 ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

2-24
 ベッドサイド・テーブル
 ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

2-25
 蛇口
 ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

2-26
 洗面棚
 ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

2-27
 ウォール・ランプ
 ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

2-28
 取り付け具（オリジナル）と鏡（後補）
 ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

アルヴァ・アアルト
 ヴィープリ（ヴィーボルク）の図書館
 ロシア、1927-35年

2-29
 講堂のための音響のスケッチ
 1933年
 グラフアイト、色鉛筆、トレーシングペーパー
 アルヴァ・アアルト美術館

2-30
 図書館覧室のための照明のスケッチ
 1933-35年 コピー、紙
 アルヴァ・アアルト美術館

2-31
 講堂の天井のためのスタディ模型
 1933年頃
 バイン材
 アルヴァ・アアルト美術館

2-32
 コンセプトスケッチ
 『アルキテヘティ』1948年1-2号掲載
 Vitra Design Museum Archive

2-33
 アルミン・リンケ
 ヴィープリ（ヴィーボルク）の図書館、ロシア、
 1927-35年
 2014年 映像（1分4秒）

3 芸術と生活

3-1
 ジャン・アルプ
 星団
 1955年
 リトグラフ、紙
 Artek Collection

3-2
 ジャン・アルプ
 配置
 1955年
 リトグラフ、紙
 Artek Collection

3-3
 フェルナン・レジェ
 花
 1935年
 グアッシュ、紙
 Artek Collection

3-4
 フェルナン・レジェ
 対照のコンポジション
 1937年
 グアッシュ、鉛筆、紙
 Mairea Foundation

3-5
 アルヴァ・アアルト
 マテリアル・スタディ（レリーフ）
 1933年
 曲げ加工されたバーチ積層材、木板
 アルヴァ・アアルト美術館

3-6
 アルヴァ・アアルト
 マテリアル・スタディ（レリーフ）
 1933年
 曲げ加工されたバーチ積層材、木板
 アルヴァ・アアルト美術館

3-7
 アルヴァ・アアルト
 マテリアル・スタディ（レリーフ）
 1934年 曲げ加工された積層材、木板
 アルヴァ・アアルト美術館

3-8
 アルヴァ・アアルト
 マテリアル・スタディ（レリーフ）
 1947年
 木、バイン材の板
 アルヴァ・アアルト美術館

3-9
 アルヴァ・アアルト
 フォールディングスクリーン 100
 1935-36年
 バイン材、銅線
 ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

アルヴァ・アアルト
 マイレア邸
 ノールマルック、フィンランド
 1938-39年

3-10
 南側立面図
 グラフアイト、色鉛筆、トレーシングペーパー
 アルヴァ・アアルト美術館

3-11
 リビングルームの可動展示壁のスケッチ
 グラフアイト、トレーシングペーパー
 アルヴァ・アアルト美術館

3-12
 平面と立面のスケッチ
 グラフアイト、トレーシングペーパー
 アルヴァ・アアルト美術館

アルヴァ・アアルト
 ルイ・カレ邸
 バジシュ＝シュル＝ギヨンヌ、フランス
 1956-59年

3-13, 14
 平面と断面のスケッチ
 グラフアイト、トレーシングペーパー
 アルヴァ・アアルト美術館

3-15
 鳥瞰
 アルヴァ・アアルト美術館

3-16, 17
 竣工記念パーティー、1959年秋
 アルヴァ・アアルト美術館

3-18
 アルヴァ・アアルトの家具のあるリビング
 ルーム
 Photo: Heikki Havas
 アルヴァ・アアルト美術館

3-19
 アンリ・ローランスとフェルナン・レジェの
 作品のあるエントランスホール
 アルヴァ・アアルト美術館

4 よりよいものを毎日の生活に

4-1
 アルヴァ・アアルト
 子ども用チェア 1023
 1929年
 バーチ材、バーチ材合板
 ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

4-2
 アルヴァ・アアルト
 チェア 23
 1929年（展示品はチューリッヒのヴォンペ
 ダルフ社 1932年製）
 ニッケルメッキのスチールパイプ、バーチ材
 成形合板
 ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

4-3
 アルヴァ・アアルト
 チェア 103
 1931-32年 曲げ加工されたバーチ材積層
 合板、成形合板
 ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

4-4
 アルヴァ・アアルト
 ハイバック・チェア
 1932年
 曲げ加工されたバーチ材積層合板、バーチ材
 成形合板
 ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

4-5
 アルヴァ・アアルト
 バイミオ・スツール
 1932年
 ラッカー仕上げのスチールパイプ、ラッカー
 仕上げの合板
 ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

4-6
 アルヴァ・アアルト
 アームチェア
 1932年
 ラッカー仕上げのスチールパイプ、ラッカー
 仕上げのバーチ材成形合板、ラッカー仕上げ
 の木材
 アルヴァ・アアルト美術館

4-7 アルヴァ・アアルト アームチェア 26 バイミオのサナトリウムのためにデザイン 1932年 ラッカー仕上げのスチールパイプ、ラッカー 仕上げのバーチ材成形合板 ヴィトラ・デザイン・ミュージアム	4-15 アルヴァ・アアルト ティー・トロリー 900 1937年 曲げ加工されたバーチ材積層合板、バーチ材、 タイル、ラタン製バスケット ヴィトラ・デザイン・ミュージアム	4-24 アルヴァ・アアルト 特許「弾力性のある家具の開発について」 1935年7月8日 Vitra Design Museum Archive, Anton Lorenz estate	4-36 フォートナム&メイソン百貨店、ロンドン フィンランド家具展招待状 1933年 アルヴァ・アアルト美術館 / Artek Collection
4-8 アルヴァ・アアルト アームチェア 31 1932年 曲げ加工されたバーチ材積層合板、成形合板 ヴィトラ・デザイン・ミュージアム	4-16 アルテックのマニフェスト 1935年 タイプ、インク、紙 アルヴァ・アアルト美術館 / Artek Collection	4-25 特許「曲げ木の工程とその関連製品の開発に ついて」 1935年2月6日 Vitra Design Museum Archive, Anton Lorenz estate	4-37 スティルクレーレル社のカタログ 1935年 ヴィトラ・デザイン・ミュージアム
4-9 アルヴァ・アアルト アームチェア 31 1932年 曲げ加工されたバーチ材積層合板、ラッカー 仕上げの成形合板、子牛革張り ヴィトラ・デザイン・ミュージアム	4-17 アルテックの流通ネットワーク図 1935年 墨、紙 アルヴァ・アアルト美術館 / Artek Collection	4-26 特許「曲げ木の家具の製造方法について」 オーストリア特許庁 1936年3月15日 Vitra Design Museum Archive, Anton Lorenz estate	4-38 ヴォンペダルフ社のカタログ 「アアルトの新しい木製家具」 表紙デザイン：ヘルベルト・バイヤー 1933年 ヴィトラ・デザイン・ミュージアム
4-10 アルヴァ・アアルト アームチェア 41 バイミオ 1932年 曲げ加工されたバーチ材積層合板、ラッカー 仕上げの成形合板 ヴィトラ・デザイン・ミュージアム	4-18 フェルナン・レジェが生徒に宛てた書簡 1937年頃 インク、紙 Private Collection	4-27 フェルナン・レジェ & アレクサンダー・コー ルダール展、1937年 アルヴァ・アアルト美術館 / Artek Collection	4-39 アルテック社のカタログ 1930年代後半 アルヴァ・アアルト美術館 / Artek Collection
4-11 アルヴァ・アアルト サイドテーブル 915 バイミオ 1932年 ラッカー仕上げのバーチ材積層合板、ラッ カー仕上げの成形合板 ヴィトラ・デザイン・ミュージアム	4-19 アルヴァ・アアルト チェア・チャイナ III トーネット＝ムンドゥス社の家具コンペ応募案 1929年 インク、厚紙 アルヴァ・アアルト美術館	4-28 フランス・グラフィック展、1938年 アルヴァ・アアルト美術館 / Artek Collection	4-40 フィンズベン社の広告 1940年頃 アルヴァ・アアルト美術館 / Artek Collection
4-12 アルヴァ・アアルト スツール 60 1933年頃 バーチ無垢材、バーチ積層材等 ヴィトラ・デザイン・ミュージアム	4-20 トート・テーブル トーネット＝ムンドゥス社の家具コンペ応募案 1929年 インク、厚紙 アルヴァ・アアルト美術館	4-29 アレクサンダー・コールドー & エイノ・E. マ キネン展、1938年 アルヴァ・アアルト美術館 / Artek Collection	4-41 フィンズベン社のカタログ 1947年 アルヴァ・アアルト美術館 / Artek Collection
4-13 アルヴァ・アアルト アームチェア 400 タンク 1936年 曲げ加工されたバーチ材積層合板、染色した 布張り ヴィトラ・デザイン・ミュージアム	4-21 特許「積み重ね可能なスチールパイプ・チェア」 1932年申請、1935年取得 Vitra Design Museum Archive, Anton Lorenz estate	4-30 ポール・ゴギャン展、1938年 アルヴァ・アアルト美術館 / Artek Collection	4-42 フィンマー社のカタログ 1947年頃 アルヴァ・アアルト美術館 / Artek Collection
4-14 アルヴァ・アアルト リクライニング・チェア 39 1937年 曲げ加工されたバーチ材積層合板、ウェビ ングテープ張り ヴィトラ・デザイン・ミュージアム	4-22 トーネット＝ムンドゥス社 アアルトによる積層材の家具に関する書類 1934年9月10日 Vitra Design Museum Archive, Anton Lorenz estate	4-31 トールゲル・エンケル&サム・ヴァンニ展、 1944年 アルヴァ・アアルト美術館 / Artek Collection	4-43 メッツ&カンパニーのカタログ 1937年 アルヴァ・アアルト美術館 / Artek Collection
	4-23 トーネット兄弟商会、ベルリン アアルト宛て書簡 1934年10月3日 Vitra Design Museum Archive, Anton Lorenz estate	4-32 フランス・グラフィック展、1947年 アルヴァ・アアルト美術館 / Artek Collection	4-44 ニュー・ファーニチャー社のカタログ 1930年代後半 アルヴァ・アアルト美術館 / Artek Collection
		4-33 ピカソ展、1948年 アルヴァ・アアルト美術館 / Artek Collection	4-45 フィンランド家具 1930-40年代 アルヴァ・アアルト美術館 / Artek Collection
		4-34 ゴギャン、マティス、モディリアーニ展、 1952年 アルヴァ・アアルト美術館 / Artek Collection	
		4-35 ル・コルビュジエ展、1953年 アルヴァ・アアルト美術館 / Artek Collection	

5 自在な形

5-1
アイノ・アアルト
ピッチャー 4644
ボルゲブリック・シリーズ
1932年
カルフラ＝イッタラ
型押しガラス
Artek Collection, Helsinki

5-2
アイノ・アアルト
タンブラー 4644
ボルゲブリック・シリーズ
1932年
カルフラ=イッタラ
型押しガラス
Artek Collection, Helsinki

5-3
アルヴァ・アアルト
5点組の器
リーヒマキの花 6217:1-5
1933年 ガラス
Artek Collection, Helsinki

5-4
アイノ・アアルト
フルーツボウル 4279
ボルゲブリック・シリーズ
1936年
カルフラ=イッタラ
型押しガラス
Artek Collection, Helsinki

5-5
アルヴァ・アアルト
サヴォイ・ベース 9744
1937年
カルフラ=イッタラ
鑄造ガラス
Artek Collection, Helsinki

5-6
サヴォイ・ベースの型
1937年頃
木
Design Museum, Helsinki

5-7
アルヴァ・アアルト
ボウル 9746
1937年
カルフラ=イッタラ
鑄造ガラス
Artek Collection, Helsinki

5-8
アルヴァ・アアルト
サラダ・ディッシュ 9770
1939年
ガラス
Artek Collection, Helsinki

アルヴァ・アアルト
ニューヨーク万国博覧会
フィンランド館
アメリカ、1939年

5-9
スタディ模型
1938年頃
厚紙、木
アルヴァ・アアルト美術館

5-10
展示のための平面図
1939年
グラフィック、色鉛筆、トレーシングペーパー
アルヴァ・アアルト美術館

5-11
「スオミ・コーリング」
フィンランド館においてアアルト夫妻が上映した、アホ&ソルダン社撮影によるフィンランドのドキュメンタリー映像
1939年 映像 (21分31秒)
©Jussi Brofeldt

5-12
内観、オーロラの壁
エスト・フォトグラフィクス
撮影：エズラ・ストラー

5-13
ニューヨーク万国博覧会
フィンランド館、アメリカ、1939年
3D映像
トーマス・ウェスターホルム
3Dレンダー社
2004年

6 融通性のある規格化と再構築

6-1, 2, 3, 4, 5, 6
規格化住宅
写真
アルヴァ・アアルト美術館

6-7, 8, 9
冊子『A talo (Aハウス)』
アアルトのA.A.システムに基づきアアルトの助手ポール・ベルヌリが発展させた規格化住宅Aハウス
1943年
アルヴァ・アアルト美術館

アルヴァ・アアルト
ロヴァニエミの復興計画案
フィンランド、1944-45年 (実現せず)

6-10
「トナカイの角」マスタープラン
1944年 ドローイングの写真
アルヴァ・アアルト美術館

6-11
住宅地区計画
1944年 ドローイングの写真
アルヴァ・アアルト美術館

7 照明—合理性と人間性

7-1
アルヴァ・アアルト
ペンダントランプ A201
1951年頃
ラッカー仕上げのステール、真鍮
ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

7-2
アルヴァ・アアルト
ペンダントランプ A110
1952年
ラッカー仕上げのステール、真鍮
ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

7-3
アルヴァ・アアルト
ペンダントランプ A330
1953年
ラッカー仕上げのステール
ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

7-4
アルヴァ・アアルト
ペンダントランプ A330
ゴールドデンベル
1953年
真鍮
ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

7-5
アルヴァ・アアルト
ペンダントランプ A331
ビーハイヴ (ハチの巣)
1953年
ラッカー仕上げのアルミニウム、真鍮
アルヴァ・アアルト美術館

7-6
アルヴァ・アアルト
ペンダントランプ A333
1954年頃
ラッカー仕上げのステール、真鍮
ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

7-7
アルヴァ・アアルト
ペンダントランプ A335
1955-56年
ラッカー仕上げのステール
ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

7-8
アルヴァ・アアルト
ペンダントランプ A334
1956年頃
ラッカー仕上げのステール、真鍮
ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

7-9
アルヴァ・アアルト
ペンダントランプ A337
1956年頃
ラッカー仕上げのステール
ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

7-10
アルヴァ・アアルト
ペンダントランプ
1957年頃
ラッカー仕上げのステール
ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

7-11
アルヴァ・アアルト
ペンダントランプ A338
ベルベリー (コケモモ)
ルイ・カレ邸のためにデザイン
1958年頃
ラッカー仕上げのステール
ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

7-12
アルヴァ・アアルト
ペンダントランプ A111
1961年
ラッカー仕上げのステール、真鍮
ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

7-13
ポール・ヘニングセン
ペンダントランプ
1927年
ニッケルメッキのステール、艶消しガラス
ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

8 総合的建築

アルヴァ・アアルト
スニラ・バルブ工場と住宅地区
コトウカ、フィンランド、1936-39年

8-1
模型
厚紙、ラッカー仕上げの合板
アルヴァ・アアルト美術館

8-2
配置図
複写、紙
アルヴァ・アアルト美術館

アルヴァ・アアルト
アヴェスタの市民センター
スウェーデン、1944年 (実現せず)

8-3
模型
木
アルヴァ・アアルト美術館

8-4
立面のスケッチ
グラフィック、色鉛筆、トレーシングペーパー
アルヴァ・アアルト美術館

アルヴァ・アアルト
サウナツァ口のタウンホール
フィンランド、1949-52年

8-5
議会場の天井構造の模型
木
アルヴァ・アアルト美術館

8-6, 7, 8 議会場の屋根構造のスケッチ グラファイト、トレーシングペーパー	8-17 ハンス・クルリス 「ベルリン世界建築展」 1957年	アルヴァ・アアルト シラーズの美術館 イラン、1969年（実現せず）	8-40 模型 厚紙、合板 アルヴァ・アアルト美術館
外観写真 Photo: Eino Mäkinen アルヴァ・アアルト美術館	エバーハート・リスケ 「ハンザフィアテルの大規模建設 工事現場」 1959年	8-25 天窓採光のある断面模型 厚紙、木板 アルヴァ・アアルト美術館	8-41 水辺からの景観 Photo: Ådhäm Fethulla アルヴァ・アアルト美術館
8-9 配置図 グラファイト、墨、トレーシングペーパー アルヴァ・アアルト美術館	映像（計約3分） アルヴァ・アアルト バグダッドの美術館 イラク、1957年頃（実現せず）	8-26 立面図 墨、インク、厚紙 アルヴァ・アアルト美術館	8-42, 43, 44, 45 その他の外観および内観写真 Photos: Kari Hakli アルヴァ・アアルト美術館
セイナヨキの市民センター フィンランド、1958-87年	8-18 模型 厚紙 アルヴァ・アアルト美術館	8-27 平面のスケッチ グラファイト、トレーシングペーパー アルヴァ・アアルト美術館	8-46 家具の脚 Y-レグ (L-レグ [1933年] の組合せ) 1946-47年 バーチ材 アルヴァ・アアルト美術館
8-10 模型 厚紙、木 アルヴァ・アアルト美術館	8-19 立面のスケッチ グラファイト、トレーシングペーパー アルヴァ・アアルト美術館	8-28 断面のスケッチ グラファイト、トレーシングペーパー アルヴァ・アアルト美術館	8-47 レリーフの素材の一部 家具の脚としても使用した素材 (マカロニ・レグ) 木 アルヴァ・アアルト美術館
8-11 セイナヨキのタウンホールの建設 1961-62年 映像（9分34秒） 提供：セイナヨキ市	ヴォルフスブルクの文化センター ドイツ、1958-62年	8-29 配置図 グラファイト、トレーシングペーパー アルヴァ・アアルト美術館	
アルヴァ・アアルト セイナヨキのタウンホール フィンランド、1958-62年	8-20 スタディ模型 厚紙、合板 アルヴァ・アアルト美術館	アルヴァ・アアルト 国民年金局 ヘルシンキ、フィンランド、1948-57年	8-48 家具の脚 X-レグ 1954年 バーチ材 アルヴァ・アアルト美術館
8-12 立面図 グラファイト、インク、トレーシングペーパー アルヴァ・アアルト美術館	アルヴァ・アアルト ヴォルフスブルクの聖霊教会 ドイツ、1959-62年	8-30 模型 木、厚紙 アルヴァ・アアルト美術館	8-49, 50 国民年金局の家具の脚 1956年 木、金属 アルヴァ・アアルト美術館
アルヴァ・アアルト セイナヨキの市民センター フィンランド、1958-87年	8-21 平面、立面等のスケッチ グラファイト、トレーシングペーパー アルヴァ・アアルト美術館	8-31 地区計画図 墨、トレーシングペーパー アルヴァ・アアルト美術館	8-51, 52, 53 パミオのサナトリウムのためのドアハンドル 1928-33年 金属 アルヴァ・アアルト美術館
8-13 鳥瞰写真 Photo: Kalevi A. Mäkinen アルヴァ・アアルト美術館	アルヴァ・アアルト ヴォルフスブルクの文化センター ドイツ、1958-62年	8-32, 33, 34, 35, 36, 37 外観および内観写真 Photos: Heikki Havas アルヴァ・アアルト美術館	
8-14 スケッチ グラファイト、トレーシングペーパー アルヴァ・アアルト美術館	8-22 透視図 グラファイト、トレーシングペーパー アルヴァ・アアルト美術館	アルヴァ・アアルト ヴォクセンニスカの三つ十字の教会 イマトラ、フィンランド、1955-58年	8-54, 55 ラウタ・タロ事務所ビルのために初めて使用 されたドアハンドル 1951-55年 ブロンズ アルヴァ・アアルト美術館
アルヴァ・アアルト ペーカーハウス学生寮（マサチューセッツ工 科大学） ケンブリッジ、アメリカ、1946-49年	アルヴァ・アアルト リオラの教会と教区センター ヴェルガート、イタリア、1966-85年	8-33 模型（天地反転） 合板 アルヴァ・アアルト美術館	8-56 棚の支え 1938年頃 バーチ材 アルヴァ・アアルト美術館
8-15 透視図 グラファイト、色鉛筆、紙 アルヴァ・アアルト美術館	8-23 配置図 グラファイト、墨、トレーシングペーパー アルヴァ・アアルト美術館	8-39 透視図と構造のスケッチ グラファイト、色鉛筆、トレーシング アルヴァ・アアルト美術館	8-57, 58, 59 文化の家のためのレンガ（プロトタイプ） 1956年 アルヴァ・アアルト美術館
ハンザフィアテルの集合住宅 ベルリン、ドイツ、1955-57年	8-24 教会の外観写真 アルヴァ・アアルト美術館	アルヴァ・アアルト フィンランディア・ホール ヘルシンキ、フィンランド、1962-71年	
8-16 住宅の模型 厚紙、合板 アルヴァ・アアルト美術館			

8-60, 61, 62, 63, 64 内壁および外壁用のタイル 釉薬をかけた陶 アルヴァ・アアルト美術館	AL04 ヴェネツィア・ビエンナーレのフィンランド館 イタリア、1955-56年
フィンランディア・ホール ヘルシンキ、フィンランド、1962-71年	AL05 ルイ・カレ邸 バヅシュ=シュル=ギヨンヌ、フランス、 1956-59年
8-65 会議棟のファサードのためのスタディ模型 木、厚紙 アルヴァ・アアルト美術館	AL06 アルヴァ・アアルトのスタジオ ヘルシンキ、フィンランド 1954-56年
アルヴァ・アアルト アアルトの夏の家（実験住宅） ムーラツァロ、フィンランド 1952-54年	AL07 文化の家 ヘルシンキ、フィンランド 1952-58年
8-66 平面図 墨、トレーシングペーパー アルヴァ・アアルト美術館	AL08 ヴォクセンニスカの三つ十字の教会 イマトラ、フィンランド 1955-58年
8-67 断面図 墨、トレーシングペーパー アルヴァ・アアルト美術館	AL09 セイナヨキのタウンホールと教会 フィンランド、1958-62年
アルヴァ・アアルト 文化の家 ヘルシンキ、フィンランド、1952-58年	AL10 ヴォルフスブルクの文化センター ドイツ、1958-62年
8-68 配置図のスケッチ グラファイト、トレーシングペーパー アルヴァ・アアルト美術館	AL11 ヴォルフスブルクの聖霊教会 ドイツ、1959-62年
アルヴァ・アアルト 国民年金局 ヘルシンキ、フィンランド、1948-57年	AL12 アアルトの夏の家（実験住宅） ムーラツァロ、フィンランド 1952-54年
8-69 棒状のタイルのドローイング グラファイト、トレーシングペーパー アルヴァ・アアルト美術館	
アルミン・リンケによる建築写真	
アルミン・リンケ 2014年 Cプリント、アルディボンド板	
AL01 バイミオのサナトリウム フィンランド、1928-33年	
AL02 ヴィープリ（ヴィーボルク）の図書館 ロシア、1927-35年	
AL03 マイレア邸 ノールマルック、フィンランド 1938-39年	

掲載記事

建設新聞社

2019年5月20日
アルヴァ・アアルト展 青森県立美術館
6月23日まで開催

毎日新聞

2019年6月5日
北欧家具の原点をたどる 23日まで 県立
美術館アアルト展

陸奥新報

2019年4月14日
建築家アアルトの魅力 県美で図面や模型
など

日本住宅新聞社

2019年4月25日
(イベント) アルヴァ・アアルト展 紹介

読売新聞

2019年4月27日
アアルトの家具や器 300点 県立美術館
きょうから回顧展

2019年5月21日
[アルヴァ・アアルトーもうひとつの自然]
展 上 陽光や防音 患者に配慮

2019年5月22日
[アルヴァ・アアルトーもうひとつの自然]
展 中 頭上に迫る 曲線の壁

2019年5月23日
[アルヴァ・アアルトーもうひとつの自然]
展 下 スツール世界の名作

2019年5月23日
アアルト展 学芸員が解説 県立美術館
ギャラリートーク開催

函館新聞

2019年4月27日
[アルヴァ・アアルト] 展覧会 紹介

日刊建設青森

2019年5月17日
アルヴァ・アアルト回顧展 県立美術館で
6月23日まで

北鹿新聞

2019年5月16日
イベント散歩 情報ステーション アルヴァ・
アアルトーもうひとつの自然展 紹介

子どものための建築と空間展

— こんなところで遊びたい こんなところで学びたかった

開催概要

2019年7月27日(土) - 9月8日(日)

休館日: 8月19日(月)

開催日数: 43日

主催: 子どものための建築と空間展実行委員会(青森朝日放送、東奥日報社、青森県観光連盟、青森県立美術館)

特別協力: クラレファスニング

協力: ちひろ美術館

後援: 文部科学省、一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本建築家協会、一般社団法人文教施設協会、NHK青森放送局、青森ケーブルテレビ、エフエム青森、青森県教育委員会

監修: 長澤悟(教育環境研究所所長、東洋大学名誉教授)

巡回、共同企画: パナソニック汐留ミュージアム

(2019年1月12日 - 3月24日)

観覧料: 一般 1,500円(1,300円)

高大生 1,000円(800円)

小中学生 無料

※()は一般のみ前売券及び20名以上の団体料金

※心身に障がいのある方と付添者1名は無料

入場者数: 13,431人

関連行事

(1) 展覧会記念対談会「子どものための建築、空間とは」

本展覧会にも出品している奈良県御杖村立御杖小学校(1998年)の設計者で、当館設計者である青木氏と本展監修者の長澤氏に語っていただいた。御杖小学校は長澤氏が基本構想を手がけた学校であるため、構想当時から設計に至るまでの経緯や現在の御杖小学校の様子などを写真等で紹介しながら、青木氏、長澤氏各々が考える子どものための建築や環境のあり方について意見が交わされた。

日時: 7月28日(日) 14:00 - 15:30

場所: 青森県立美術館展示室H

出演: 青木淳(建築家、京都市京セラ美術館館長)、長澤悟(本展監修者、東洋大学名誉教授、教育環境研究所所長)

参加人数: 31人

(2) 夏休み駆け込み工作教室「紙飛行機ブルースター号をつくらう！」

本展覧会に展示している『少年倶楽部』(大日本雄弁会講談社)の大型付録模型にちなみ、本県在住のクリエイターで、模型や少年・少女漫画の付録等も数多くコレクションしている飛内源一郎氏を講師に招き、飛内氏オリジナルの紙飛行機模型の工作

教室を開催した。当日は親子連れなど多くの参加者で賑わい、子どもから大人まで工作作業に没頭する様子が見られた。

日時: 8月25日(日) 14:00 - 16:00

場所: 青森県立美術館踊り場

講師: 飛内源一郎(クリエイター)

参加人数: 45人

(3) 東京子ども図書館スタッフによる出張おはなし会

子どもの本と読書を専門とする私立の図書館として1974年に設立された東京子ども図書館は、子どもと“子どもと本の世界で働くおとな”のための専門図書館であり、本展覧会では1997年に開館した同館建物を中心に紹介しているため、普段、同館で開催しているおはなし会を出張開催していただいた。現在、県内でも語りや読み聞かせの活動をおこなっている人は多いため、本事業への関心は非常に高く、参加者は熱心に東京子ども図書館スタッフによる「おはなし」に耳を傾けていた。

・大人のためのおはなし会

日時: 9月1日(日) 10:00 - 11:30

会場: 青森県立図書館集会室

出演: 張替恵子(東京子ども図書館理事長)、清水千秋(東京子ども図書館事務局長)

参加人数: 45人

・子どものためのおはなし会

日時: 9月1日(日) 11:00 - 12:00

会場: 青森県立図書館児童閲覧室おはなしコーナー

出演: 張替恵子氏(東京子ども図書館理事長)、清水千秋氏(東京子ども図書館事務局長)

参加人数: 26人

(4) 『アカデミック・トーク「羽仁もと子が築いた生き方の教育」』

八戸ブックセンターとの連携イベントとして、本展覧会で紹介している自由学園の創立者である羽仁もと子の生地・八戸市で開催した。岡本氏には、自身も卒業している自由学園での学生生活や羽仁もと子、千葉クラ姉妹の生涯について、福田氏には自由学園の建物およびその保存活用を中心にお話いただいた。参加者からは、自由学園や羽仁もと子について関心を深めるとともに、展覧会を見る上での参考になったとの感想が多く寄せられた。

日時: 8月24日(土) 10:00 - 11:30

会場: 八戸ポータルミュージアムはっち 2Fシアター2

出演: 岡本潤子(千葉学園幼稚園園長)、福田竜(自由学園明日館マネージャー)

参加人数：55人

展覧会カタログ（公式ブック）

総ページ数：277 ページ

サイズ：B6 変型版

監修：長澤悟

編集：パナソニック汐留ミュージアム+青森県立美術館

執筆：長澤悟他

デザイン：松田行正+日向麻梨子（マツダオフィス）

発行年：2019年1月

発行：鹿島出版会

来場者用鑑賞ガイド

「子どものための建築と空間展へ ようこそ」

サイズ：A3 二つ折

編集：竹浪彩矢子

デザイン：阿保奈津美

発行年：2019年8月

発行：青森県立美術館



ポスター（デザイン：片山尊奈）



展示風景



本展は、子どものためにつくられた建築と空間にスポットをあて、各時代の先駆的かつ独創的な児童施設の優作を、近現代の建築・デザイン史の観点から選りすぐって紹介した。調査・企画準備をパナソニック汐留ミュージアム（現：パナソニック汐留美術館／担当：大村理恵子学芸員）と共同で進め、東洋大学名誉教授で教育環境研究所所長の長澤悟氏に監修を務めていただいた。

建築作品では、子どもの「学び」の場の代表格といえる学校建築（初等教育）を中心に、幼稚園・保育園や児童図書館も加えた建築44作品を取り上げ、また一方で「遊び」の場にも注目し、子ども博覧会や児童遊園、遊具といったランドスケープデザインやプロダクトデザインの要素を併せ持つ作品26点も、図面や写真、模型の展示を通して紹介した。また、教育玩具や玩具、浮世絵、絵本、絵本の原画、子供服、学校家具なども併せて展示し、建築のみならずデザインの観点からも子どもの環境の変遷を追った。展覧会の構成は、日本の近代教育が始まった明治時代（第1章

「子どもの夜の夜明け」、大正自由教育が勃興し、児童文学がさかんとなった大正時代（第2章「子どもの世界の発見」、昭和戦前期（インターミッション「戦争前夜に咲いた花」、戦後復興期から高度成長期に入る前までの時代（第3章「新しい時代の到来、子どもたちの夢の世界を築く」、新しい教育「オープンスクール」が始まった1971年から1985年まで（第4章「おしゃべり、いたずら、探検—多様化と個性化の時代」、昭和60年代から平成時代（第5章「今、そしてこれからの子どもたちへ）」と時代ごとに5つのセクションでまとめ、各時代の中で求められた様々な課題に建築家やデザイナーが実現した作品を時代の流れに沿って見ていただいた。

会場デザインは、ヌーブ（代表：太田浩史氏）が担当した。時代ごとに青、赤、白、紫、黄、緑と色分けされたプレイグラウンドを各展示室に設置することで展覧会公式ブックのカラースキームと呼応させるとともに、休憩、プレイコーナーとして寛いだ雰囲気のなかで展覧会を楽しむことができるよう構成された。

出品作品

出品作品資料

■出品番号 [通番]、作品資料名、設計者・建築計画者・作者など、所在地、竣工年・制作年、素材・技法、サイズ (cm)、撮影者、提供先・所蔵先

■サイズは高さ×幅、あるいは高さ×幅×奥行で示した。

■出品番号 127、131 は、パナソニック汐留ミュージアムのみ展示した。68、69 は欠番。

1

上京第二十八区小学校 / 佐々木岩次郎

京都府京都市 / 1876 (明治 9) 年 (現存せず)

上京二十八区小学校

1-1 資

写真 (後の龍池小学校) 校舎外観

写真提供: 京都市学校歴史博物館

1-2 資

写真 上京三十区小学校 (後の柳池小学校)

講堂外観

写真提供: 京都市学校歴史博物館

1-3 資

写真 上京三十区小学校 (後の柳池小学校)

校舎外観

写真提供: 川島智生

2

旧開智学校 (国指定重要文化財) / 立石清重

長野県松本市 / 1876 (明治 9) 年

2-1 資

写真 校舎外観

写真提供: 旧開智学校校舎

2-2 資

写真 八角塔屋と車寄

写真提供: 旧開智学校校舎

2-3 資

写真 塔屋内部 時報の鐘

写真提供: 旧開智学校校舎

2-4 資

写真 1 階廊下照明

写真提供: 旧開智学校校舎

2-5 資

写真 竣工当時全体図

写真提供: 旧開智学校校舎

2-6 資

写真 講堂が音楽室となっていた頃

写真提供: 旧開智学校校舎

2-7 資

写真 教室 (『開智部卒業記念写真帳 昭和 8 年 3 月』より)

写真提供: 松本市立博物館

2-8

旧開智学校 平面図

1876 (明治 9) 年頃

和紙・墨

43.7 × 23.5

旧開智学校校舎蔵

2-9

旧開智学校 模型 1:100

昭和時代

ミクストメディア

28.0 × 70.0 × 115.0

旧開智学校校舎蔵

3

岩科学校 (国指定重要文化財) / 菊地丑太郎、

高木久五郎

静岡県賀茂郡松崎町 / 1880 (明治 13) 年

3-1 資

写真 正面外観

写真提供: 松崎町教育委員会

3-2 資

写真 正面玄関とバルコニー

写真提供: 同

3-3 資

写真 客室「鶴の間」

写真提供: 同

3-4 資

写真 教室

写真提供: 同

3-5 資

写真 学校落成式を伝える「函右日報」写真
国指定重要文化財 旧岩科学校解説図録 (松崎町教育委員会、2018 年) より

4

博物図第二 / 小野職愷 (おのもとよし) 選、
長谷川竹葉 画

1873 (明治 6) 年

紙・銅版、木版多色刷

81.0 × 58.0

旧開智学校校舎蔵

5

博物図第四 / 小野職愷 (おのもとよし) 選、
長谷川竹葉 画

1873 (明治 6) 年

紙・銅版、木版多色刷

81.0 × 58.0

旧開智学校校舎蔵

6

幻灯機

明治時代

ブリキ、真鍮、ガラス

30.0 × 21.5 × 36.2

玉川大学教育博物館蔵

7

種板

明治時代

ガラス絵

各 6.0 × 6.0

玉川大学教育博物館蔵

8

教育運動機広告 / 枡坂書店

明治時代

洋紙・印刷

39.4 × 54.8

玉川大学教育博物館蔵

9

唾鈴 (あれい)

明治時代

木

5.5 × 21.5 × 5.5 / 5.5 × 22.5 × 5.5

玉川大学教育博物館蔵

10

球竿 (きゅうかん)

明治時代

木

6.0 × 121.5 × 6.0

玉川大学教育博物館蔵

11

棍棒 (こんぼう)

明治時代

木

36.0 × 6.0 × 6.0

玉川大学教育博物館蔵

12

東京女子師範学校附属幼稚園

(現・お茶の水女子大学附属幼稚園)

東京都文京区 / 1876 (明治 9) 年 11 月 16 日
に開園

12-1 資

写真 東京女子師範学校附属幼稚園開園当時の
園舎

写真提供: お茶の水女子大学附属幼稚園

12-2 資

写真 東京女子師範学校附属幼稚園屋外保育
風景 (明治時代)

写真提供: お茶の水女子大学

12-3 資

東京女子師範学校附属幼稚園絵地図 創設の
設計図 (同園監事・小西信八氏より)

明治時代

卷子

28.0 × 82.0

お茶の水女子大学附属幼稚園蔵

12-4

お茶の水女子大学附属幼稚園園児椅子

制作年不詳 [1933 (昭和 8) 年以降]

お茶の水女子大学附属幼稚園蔵

12-5 資

写真 現園舎・遊戯室前のテラスにて子ども
たちと遊ぶ倉橋惣三 (卒業記念写真帖『みか
きあいて』より)

写真提供: お茶の水女子大学附属幼稚園

13

愛珠幼稚園 [現・大阪市立愛珠幼稚園] (国
指定重要文化財) / 中村竹松

大阪府大阪市 / 1901 (明治 34) 年

13-1 資

写真 園舎 (1980 年頃)

『愛珠幼稚園百年史』(大阪市立愛珠幼稚園百
周年記念事業委員会、1980 年) より

13-2 資

写真 廊下からみた遊戯室

写真提供: 同

13-3 資

写真 家庭室

写真提供: 同

13-4 資

写真 落成当日の園舎

写真提供: 同

13-5 資

写真 家庭室で食事の作法 (明治時代末～大
正時代初頃)

写真提供: 同

13-6 資

写真 遊戯室で遊戯をする子どもたち (明治
時代末頃)

写真提供: 同

14

第一恩物 六球法 / フリードリヒ・フレーベ
ル考案

大正～昭和時代初期

木、毛糸

箱: 31.5 × 7.9 × 6.5

枠棒: 29.4

枠板: 29.4

球直径: 4.5 ～ 5.0

お茶の水女子大学蔵

15

第二恩物 三球法 / フリードリヒ・フレーベ
ル考案

大正～昭和時代初期

木

箱: 7.7 × 24.7 × 6.7

球体: 径 4.5

円柱: 径 4.4、高さ 4.5

立方体 2 点: 4.5 × 4.5 × 4.5

枠棒 3 本: 支柱 2 本: 23.0、上 22.8

お茶の水女子大学蔵

16

第三恩物 積木 / フリードリヒ・フレーベル
考案

大正～昭和時代初期

木

箱: 7.5 × 7.5 × 7.0

積木: 2.9 × 2.9 × 2.9

お茶の水女子大学蔵

17

第四恩物 積木 / フリードリヒ・フレーベル
考案

大正～昭和時代初期

木

箱: 7.5 × 7.5 × 7.0

直方体: 6.0 × 2.9 × 1.5

お茶の水女子大学蔵

18

第五恩物 積木 / フリードリヒ・フレーベル
考案

大正～昭和時代初期

木

箱: 10.7 × 10.7 × 10.7

積木: 立方体 2.9 × 2.9 × 2.9

1/2 の三角柱 2.8 × 2.8 × 4.0 × 高さ 2.9

1/4 の三角柱 2.1 × 2.1 × 3.0 × 高さ 2.9

お茶の水女子大学蔵

19 第六思物 積木 / フリードリヒ・フレーベル 考案 大正～昭和時代初期 木 箱：11.5 × 11.5 × 11.5 積木：直方体 3.0 × 1.5 × 6.1 直方体 1.5 × 1.5 × 6.1 直方体 3.0 × 1.6 × 3.0 お茶の水女子大学蔵	26 長段 / マリア・モンテッソーリ考案 大正時代以降 木 四角柱：2.9 × 2.9 × 長さ 10 種 ① 91.0 ② 81.8 ③ 72.7 ④ 63.6 ⑤ 54.5 ⑥ 45.4 ⑦ 36.3 ⑧ 27.3 ⑨ 18.2 ⑩ 9.2 お茶の水女子大学蔵	35 小供風俗 動物園 / 宮川春汀 1897 (明治 30) 年 大判錦絵 35.1 × 24.2 公文教育研究会蔵	43 大橋図書館 / 久留正通 東京都千代田区 / 1902 (明治 35) 年頃 (現 存せず) 43-1 資 写真 開館当時の図書館全景 写真提供：三康図書館 [財団法人大橋図書館 第一年報] (1903 年 11 月) より 43-2 資 写真 雑誌閲覧室 大人に交じって少年たち の姿が見られる 写真提供：同 43-3 [世界建築年鑑] 分冊第 3 号 / 帝国建 築協会 1926 (昭和元) 年 雑誌 36.8 × 26.5 島田安彦コレクション蔵 * 青森会場のみ展示
20 第七思物 置板法 / フリードリヒ・フレーベル 考案 明治～大正時代 木、紙 箱：24.3 × 18.5 × 2.7 お茶の水女子大学蔵	27 小学入門 色図 / 二代歌川国貞 1874 (明治 7) 年 大判錦絵 36.8 × 24.2 公文教育研究会蔵	36 こども遊 唱歌 / 宮川春汀 1898 (明治 31) 年 大判錦絵 25.0 × 37.4 公文教育研究会蔵	44 [少年世界] 第壹巻第壹號 / 博文館 1895 (明治 28) 1 月 雑誌 22.8 × 15.3 青森県近代文学館蔵
21 第八思物 連板 / フリードリヒ・フレーベル 考案 大正～昭和時代初期 木 箱：4.0 × 13.5 × 2.2 板：11.5 × 1.1 × 0.1 お茶の水女子大学蔵	28 幼稚園用切紙 第七号 / 歌川国鶴 1891 (明治 24) 年 大判錦絵 36.8 × 24.2 公文教育研究会蔵	37 子供遊び まわりどうろ / 山本昇雲 1906 (明治 39) 年 大判錦絵 25.0 × 36.7 公文教育研究会蔵	45 東京市立日比谷図書館 / 三橋四郎 東京都千代田区 / 1908 (明治 41) 年 (現 存せず) 45-1 資 写真 正面外観 写真提供：東京都立中央図書館特別文庫室 45-2 資 写真 児童室 写真提供：東京都立中央図書館 [市立図書館 と其事業] 2 号 (東京市立日比谷図書館、 1921 年 11 月) より 45-3 資 写真 1921 (大正 10) 年 6 月に開催された 児童読物展覧会 写真提供：東京都立中央図書館 [市立図書館 と其事業] 1 号 (東京市立日比谷図書館、1921 年 10 月) より 45-4 資 写真 創立当時の一階平面図 写真提供：東京都立中央図書館 [市立図書館 と其事業] 4 号 (東京市立日比谷図書館、1922 年 1 月) より
22 第九思物 組板 / フリードリヒ・フレーベル 考案 大正～昭和時代初期 木 箱：4.0 × 25.9 × 2.0 板：0.7 × 24.3 お茶の水女子大学蔵	29 訓童小学校教導之図 / 肉亭夏良 (小林清親) 1874 (明治 7) 年 大判錦絵三枚続 35.5 × 71.3 公文教育研究会蔵	38 第 5 回内国勲業博覧会案内 / 来田基太郎発行 1903 (明治 36) 年 4 月 5 日 印刷物 39.7 × 54.7 東京都江戸東京博物館蔵	46 『日本一ノ画噺』 / 中西屋書店発行 (著：巖 谷小波、画：小林鐘吉、岡野栄、杉浦非水) 1911～1915 (明治 44～大正 4) 年 絵本 各 13.0 × 7.7 × 1.4 公文教育研究会蔵
23 第十思物 箸 / フリードリヒ・フレーベル考 案 大正～昭和時代初期 木 箱：17.5 × 9.0 × 2.0 木箸：3.0 角、赤 15.2、緑 12.1、黄 9.2、 紫 6.1、青 3.0、橙 1.5 お茶の水女子大学蔵	30 学校体操運動図 / 歌川国利 1886 (明治 19) 年 大判錦絵三枚続 36.0 × 72.6 玉川大学教育博物館蔵	39 第五回内国勲業博覧会ウオーターシュートち らし (博覧会余興松すべり) / 広田米七発行 1903 (明治 36) 年 印刷物 27.1 × 39.6 東京都江戸東京博物館蔵	
24 木製五彩球 / マリア・モンテッソーリ考案 大正時代以降 木 箱：33.7 × 33.5 × 3.4 球：直径 2.0 お茶の水女子大学蔵	31 学校体操運動図 / 歌川国利 1886 (明治 19) 年 大判錦絵三枚続 36.0 × 72.6 公文教育研究会蔵	40 『風俗画報臨時増刊号 上』より第五回内国 勲業博覧会 快回機 (複製) / 東陽堂発行 1903 (明治 36) 年 雑誌 26.0 × 18.7 東京都江戸東京博物館蔵	
25 棒さし / マリア・モンテッソーリ考案 大正時代以降 木 箱：33.3 × 33.4 × 4.0 台板：29.6 × 30.0 × 1.4 竹串：4.9 × 直径 0.2 お茶の水女子大学蔵	32 学校授業の図 / 歌川房種 明治時代 大判錦絵 37.0 × 25.0 公文教育研究会蔵	41 『日本の家庭臨時増刊号』3 巻 4 号よりこども 博覧会第四部展示室 (複製) / 同文館発行 1906 (明治 39) 年 写真 東京大学大学院法政学政治学研究所附属近代日 本法政史料センター 明治新聞雑誌文庫蔵	
	33 幼学べんきょうづくし / 四代歌川国政 明治時代 大判錦絵 37.0 × 25.0 公文教育研究会蔵	42 絵葉書 こども博覧会 (9 枚組) 1906 (明治 39) 10 月 印刷物 各 15 × 9 東京都江戸東京博物館蔵	
	34 小供風俗 ぞうりはきかえ / 宮川春汀 1897 (明治 30) 年 大判錦絵 35.1 × 24.1 公文教育研究会蔵		

47	自由学園明日館〔旧：自由学園校舎〕〔国指定重要文化財〕/ F.L.ライト、遠藤新 東京都豊島区 / 1922 (大正 11) ~ 1927 (昭和 2) 年	48-2 資 写真 南西側鳥瞰図 写真提供：株式会社安井建築設計事務所〔大阪市汎愛尋常高等小学校新築記念〕より (飯田健一所蔵)	50-7 資 写真 竣工当時の校舎と中庭 (『東京市教育施設復興図集』勝田書店、1932 年) より 写真提供：東京都立中央図書館	53-5 日比谷公園内児童遊園 / 公園児童指導で用いられていた木魚 年代不詳 木 11.0 × 9.0 × 8.0 公益財団法人東京都公園協会蔵
47-1 資 写真 外観 写真提供：自由学園明日館	48-3 資 写真 図画教室 写真提供：同	51 若竹の園 / 西村伊作 岡山県倉敷市 / 1925 (大正 14) 年	53-6 日比谷公園内児童遊園 / 公園児童指導で用いられていた呼鈴 年代不詳 金属 直径 9.5 × 28.0 公益財団法人東京都公園協会蔵	
47-2 資 写真 中央棟食堂内観 写真提供：同	48-4 資 写真 児童食堂 写真提供：同	51-1 資 写真 現在の園舎全景 撮影：株式会社プロテック		
47-3 資 写真 フランク・ロイド・ライト、遠藤新、羽仁夫妻と自由学園生徒たち 写真提供：自由学園	48-5 資 写真 屋上プール 写真提供：同	51-2 資 写真 現在の廊下 (旧ペランダ) 撮影：同		
47-4 資 写真 初等部 (小学校) 校舎 食堂外観 写真提供：同	48-6 資 写真 梁木運動場写真 (屋上プール閉鎖時) 写真提供：同	51-3 資 写真 現在の遊戯室 撮影：同	54 54-1 皇孫御誕生記念こども博覧会 / 皇孫御誕生記念こども博覧会ポスター 1926 (大正 15) 年 印刷物 77.0 × 26.5 東京都江戸東京博物館蔵	
47-5 中央棟正面透視図 1921 (大正 10) 年 紙・インク、鉛筆、色鉛筆 56.0 × 88.0 自由学園蔵	48-7 資 写真 屋上運動場 写真提供：同	51-4 資 写真 西村伊作のデザインによる木製椅子 撮影：同	54-2 皇孫御誕生記念こども博覧会 / 皇孫御誕生記念こども博覧会ポスター 1926 (大正 15) 年 印刷物 78.2 × 26.8 東京都江戸東京博物館蔵	
47-6 食堂用椅子 1922 (大正 11) 年 ラワン材 78.4 (SH37.3) × 33.0 × 39.7 自由学園明日館蔵	49 本町尋常高等小学校〔現：横浜市立本町小学校〕 / 横浜市建築課 神奈川県横浜市 / 1927 (昭和 2) 年 (現存せず)	51-5 資 写真 開園当時の園舎全景 写真提供：若竹の園、有限会社アルコプランニング〔若竹の園 75 年の保育のあゆみ〕 (財団法人若竹の園、2000 年) より	54-3 資 写真 『皇孫御誕生記念こども博覧会記念写真帖』よりスライドショー 東京都江戸東京博物館蔵	
47-7 模型 1 : 100 ミクストメディア 32.0 × 85.0 × 62.0 自由学園明日館寄託 (電通・谷川コレクション)	49-1 資 写真 校舎正面〔『創立百周年記念誌』横浜市立本町小学校〕 (横浜市立本町小学校、2004 年) より	51-6 資 写真 室内で遊ぶ子どもたち 写真提供：同	54-4 資 写真 『皇孫御誕生記念こども博覧会記念写真帖』よりスライドショー 東京都江戸東京博物館蔵	
47-8 資 写真 野外写生を指導する山本鼎 写真提供：自由学園	49-2 資 写真 正面玄関 同	51-7 資 写真 「食堂」で食事をする子どもたち 写真提供：同	55 賢母必携「子寶」 / 三越呉服店 (巖谷小波 編、杉浦非水 画) 1909 (明治 42) 年 紙・多色石版 29.0 × 23.5 × 3.0 株式会社三越伊勢丹蔵	
47-9 学生生活帖 / 自由学園本科 2 年生有志 (10 回生) ほか 1927 (昭和 2) 年 紙・鉛筆、水彩 31.0 × 45.0 × 5.0 自由学園蔵	49-3 資 写真 スロープ 同	51-8 資 写真 緑に包まれた広い庭での遊戯 写真提供：同	56 『オヒサマ』1 巻 1 号 / 資生堂編集部 (表紙：矢部季) 1922 (大正 11) 年 4 月 ~ 1923 (大正 12) 年 8 月 印刷物 22.2 × 15.3 資生堂企業資料館蔵	
47-10 資 映像 《生活即教育》 1931 (昭和 6) 年撮影 16mm フィルム 白黒、音声なし (18 分 15 秒) 自由学園蔵	49-4 資 写真 雨天体操場 同	51-9 資 写真 開園当時の平面図 写真提供：同	57 子供服 / 資生堂化粧品部 1922 (大正 11) ~ 1924 (大正 13) 年頃 コットン、シルク、リネン・ドビー織り (襟部分) 37.5 × 65.0 資生堂企業資料館蔵	
47-11 『建築世界』21 巻 7 号 (学校建築号) 1927 (昭和 2) 年 7 月 雑誌 25.8 × 18.5 島田安彦コレクション * 青森会場のみ展示	49-5 資 写真 校舎と校庭を見下ろす 同	52 『建築写真類聚 文化住宅 巻 1』洪洋社、より「森莊三郎邸小児室」 1923 (大正 12) 年頃 印刷物 13.5 × 19.0	57 子供服 / 資生堂化粧品部 1922 (大正 11) ~ 1924 (大正 13) 年頃 コットン、シルク、リネン・ドビー織り (襟部分) 37.5 × 65.0 資生堂企業資料館蔵	
48 汎愛尋常高等小学校 / 安井武雄 大阪府大阪市 / 1926 (大正 15) 年 (現存せず)	50 常盤尋常小学校〔現：中央区立常盤小学校〕 / 東京市建築課学校建設掛 東京都中央区 / 1929 (昭和 4) 年	53 日比谷公園内児童遊園 東京都千代田区 / 1903 (明治 36) 年開設、1925 (大正 14) 年第 1 次拡張	58 女児服 / 東京裁縫女学校 (現・東京家政大学) 1919 ~ 1922 (大正 8 ~ 11) 年 木綿 42.0 × 45.0 東京家政大学博物館蔵	
48-1 資 写真 校舎外観 写真提供：株式会社安井建築設計事務所	50-1 資 写真 校庭越しに見た校舎 写真提供：タラオ・ヒヒロ・アーキテクトゥ	53-1 資 写真 日比谷公園特設児童遊園の指導風景 写真提供：公益財団法人東京都公園協会		
	50-2 資 写真 エントランス周辺 写真提供：同	53-2 資 写真 運道器レボルピングバラレル (回転シーソー) 写真提供：同		
	50-3 資 写真 エントランスへと続くアプローチ通路 写真提供：同	53-3 資 写真 ローカバイスウィング 写真撮影：同		
	50-4 資 写真 廊下 写真提供：同	53-4 資 写真 日比谷公園平面図 (複写) 画像提供：同		
	50-5 資 写真 普通教室 写真提供：同			
	50-6 資 写真 音楽教室 写真提供：同			

59 女兒服 / 東京裁縫女学校 (現・東京家政大学) 1921 (大正 10) ~ 1923 (大正 12) 年 木綿 45.5 × 40.0 東京家政大学博物館蔵	66 自動ガラガラ 大正時代 ブリキ 9.0 × 3.6 三島市郷土資料館蔵	77 表紙 (『子供之友』 11 巻 3 号) 原画 / 村山知義 1924 (大正 13) 年 紙・水彩、インク 27.2 × 20.4 婦人之友社蔵	85 コドモノクニ イロハガルト / 東京社 (武井武雄 画、和田古江 作) 1929 (昭和 4) 年 10 月 印刷物 (読み札 47 枚 / 絵札 47 枚) 箱 : 4.7 × 18.3 × 9.5 札 : 7.1 × 7.1 イルフ童画館蔵
60 成城学園 1917 (大正 6) 年創立、1925 (大正 14) 年移転 60-1 資 写真 砧村移転時に新設された成城玉川小学校 成城学園教育研究所蔵 60-2 旧制成城高等女学校校章 / 富本憲吉制作 1927 (昭和 2) 年 磁器・ルリ釉 直径 2.5 成城学園教育研究所蔵 60-3 旧制成城高等女学校卒業記念ブローチ (第 1 回白百合・第 2 回紫苑・第 3 回芙蓉・第 4 回撫子・第 5 回單月・第 6 回百合) / 富本憲吉制作 1932 ~ 1937 (昭和 7 ~ 12) 年 色絵陶磁器 直径 3.7 ~ 4.3 成城学園教育研究所蔵	67 犬の人形 大正時代 木 7.4 × 9.2 × 1.0 三島市郷土資料館蔵 * 70 は東京会場のみ展示 71 『赤い鳥』 6 巻 1 号 (表紙: 清水良雄「お馬車」) / 赤い鳥社 1921 (大正 10) 年 1 月 印刷物 21.0 × 14.5 ちひろ美術館蔵 * 青森会場のみ展示 * 72 は東京会場のみ展示 73 おぼれ (『赤い鳥』 17 巻 5 号) 原画 / 清水良雄 1926 (大正 15) 年 板・油彩、水彩 33.0 × 24.0 ちひろ美術館蔵 * 青森会場のみ展示 74 『子供之友』 11 巻 9 号 (表紙 村山知義) / 婦人之友社 1924 (大正 13) 年 9 月 印刷物 25.6 × 18.6 大阪府立中央図書館 国際児童文学館蔵	78 裏表紙 (『子供之友』 11 巻 3 号) 原画 / 村山知義 1924 (大正 13) 年 紙・水彩、インク 25.8 × 18.5 婦人之友社蔵 79 せいの順 (『子供之友』 13 巻 1 号) 原画 / 村山知義 1926 (大正 15) 年 紙・水彩、インク 24.6 × 36.3 婦人之友社蔵 80 はねや (『子供之友』 8 巻 10 号) 原画 / 武井武雄 1921 (大正 10) 年 紙・水彩、インク 22.0 × 30.4 婦人之友社蔵 81 大時計 (『子供之友』 13 巻 4 号) 原画 / 武井武雄 1914 (大正 3) 年 紙・水彩、インク 25.8 × 37.1 婦人之友社蔵 82 『コドモノクニ』 4 巻 6 号 (表紙: 武井武雄「ポッポのお嬢様」) / 東京社 1925 (大正 14) 年 5 月 印刷物 25.5 × 19.8 大阪府立中央図書館 国際児童文学館蔵 83 『コドモノクニ』 4 巻 9 号 (表紙: 岡本帰一「わたしのポチ」) / 東京社 1925 (大正 14) 年 8 月 印刷物 25.5 × 19.8 青森県立美術館蔵 84 『コドモノクニ』 5 巻 6 号 (表紙: 武井武雄「ニンギョウ」) / 東京社 1926 (大正 15) 年 6 月 印刷物 25.5 × 19.8 青森県立美術館蔵	86 西脇尋常高等小学校 [現: 西脇市立西脇小学校] (兵庫県指定景観形成重要建造物等) / 内藤克雄 兵庫県西脇市 / 1934 (昭和 9) 年 ~ 1937 (昭和 12) 年 / 2017 (平成 29) 年 ~ 2019 (平成 31) 年保存改修工事 86-1 資 写真 改修工事前の校舎外観 (南棟) 写真提供: 足立裕司 86-2 資 写真 改修工事前の教室 写真提供: 同 86-3 資 写真 改修工事後、現在の校舎玄関 写真提供: 同 86-4 資 写真 1 階と 2 階をつなぐ階段 (改修工事後) 写真提供: 同 86-5 資 写真 改修工事後の教室 写真提供: 同 86-6 資 写真 小学校遠望 講堂と幼稚園が写る 写真提供: 西脇市 86-7 資 写真 建設当初図面 (配置図) 写真提供: 株式会社内藤設計 86-8 資 写真 建設当初図面 (玄関部分立面図と詳細図) 写真提供: 同 87 明倫尋常高等小学校 [現: 萩・明倫学舎] (国登録有形文化財※本館棟) 山口県萩市 / 1935 (昭和 10) 年 87-1 資 写真 現在の本館外観 写真提供: 萩・明倫学舎 87-2 資 写真 本館校舎 『明倫小学校百年史』 (萩市立明倫小学校同窓会、1985 年) より 87-3 資 写真 唱歌室 (竣工当初) 写真提供: 萩博物館 87-4 資 写真 講堂映写室 (竣工当初) 『明倫小学校百年史』 (萩市立明倫小学校同窓会、1985 年) より 87-5 資 写真 養護室 (竣工当初) 同 87-6 資 写真 校庭での大運動会 (竣工当初) 写真提供: 萩市立明倫小学校
61 人形 大正時代 セルロイド H12 三島市郷土資料館蔵	61 人形 大正時代 セルロイド H11 三島市郷土資料館蔵	80 はねや (『子供之友』 8 巻 10 号) 原画 / 武井武雄 1921 (大正 10) 年 紙・水彩、インク 22.0 × 30.4 婦人之友社蔵 81 大時計 (『子供之友』 13 巻 4 号) 原画 / 武井武雄 1914 (大正 3) 年 紙・水彩、インク 25.8 × 37.1 婦人之友社蔵 82 『コドモノクニ』 4 巻 6 号 (表紙: 武井武雄「ポッポのお嬢様」) / 東京社 1925 (大正 14) 年 5 月 印刷物 25.5 × 19.8 大阪府立中央図書館 国際児童文学館蔵 83 『コドモノクニ』 4 巻 9 号 (表紙: 岡本帰一「わたしのポチ」) / 東京社 1925 (大正 14) 年 8 月 印刷物 25.5 × 19.8 青森県立美術館蔵 84 『コドモノクニ』 5 巻 6 号 (表紙: 武井武雄「ニンギョウ」) / 東京社 1926 (大正 15) 年 6 月 印刷物 25.5 × 19.8 青森県立美術館蔵	87 明倫尋常高等小学校 [現: 萩・明倫学舎] (国登録有形文化財※本館棟) 山口県萩市 / 1935 (昭和 10) 年 87-1 資 写真 現在の本館外観 写真提供: 萩・明倫学舎 87-2 資 写真 本館校舎 『明倫小学校百年史』 (萩市立明倫小学校同窓会、1985 年) より 87-3 資 写真 唱歌室 (竣工当初) 写真提供: 萩博物館 87-4 資 写真 講堂映写室 (竣工当初) 『明倫小学校百年史』 (萩市立明倫小学校同窓会、1985 年) より 87-5 資 写真 養護室 (竣工当初) 同 87-6 資 写真 校庭での大運動会 (竣工当初) 写真提供: 萩市立明倫小学校
62 人形 大正時代 セルロイド H11 三島市郷土資料館蔵	62 人形 大正時代 セルロイド H11 三島市郷土資料館蔵	80 はねや (『子供之友』 8 巻 10 号) 原画 / 武井武雄 1921 (大正 10) 年 紙・水彩、インク 22.0 × 30.4 婦人之友社蔵 81 大時計 (『子供之友』 13 巻 4 号) 原画 / 武井武雄 1914 (大正 3) 年 紙・水彩、インク 25.8 × 37.1 婦人之友社蔵 82 『コドモノクニ』 4 巻 6 号 (表紙: 武井武雄「ポッポのお嬢様」) / 東京社 1925 (大正 14) 年 5 月 印刷物 25.5 × 19.8 大阪府立中央図書館 国際児童文学館蔵 83 『コドモノクニ』 4 巻 9 号 (表紙: 岡本帰一「わたしのポチ」) / 東京社 1925 (大正 14) 年 8 月 印刷物 25.5 × 19.8 青森県立美術館蔵 84 『コドモノクニ』 5 巻 6 号 (表紙: 武井武雄「ニンギョウ」) / 東京社 1926 (大正 15) 年 6 月 印刷物 25.5 × 19.8 青森県立美術館蔵	87 明倫尋常高等小学校 [現: 萩・明倫学舎] (国登録有形文化財※本館棟) 山口県萩市 / 1935 (昭和 10) 年 87-1 資 写真 現在の本館外観 写真提供: 萩・明倫学舎 87-2 資 写真 本館校舎 『明倫小学校百年史』 (萩市立明倫小学校同窓会、1985 年) より 87-3 資 写真 唱歌室 (竣工当初) 写真提供: 萩博物館 87-4 資 写真 講堂映写室 (竣工当初) 『明倫小学校百年史』 (萩市立明倫小学校同窓会、1985 年) より 87-5 資 写真 養護室 (竣工当初) 同 87-6 資 写真 校庭での大運動会 (竣工当初) 写真提供: 萩市立明倫小学校
63 乳母車とうさぎの人形 制作年不詳 セルロイド 親 : 10.0 × 3.0 × 2.5 子 : 3.8 × 1.8 × 1.7 乳母車 : 6.5 × 4.5 × 7.0 三島市郷土資料館蔵	63 乳母車とうさぎの人形 制作年不詳 セルロイド 親 : 10.0 × 3.0 × 2.5 子 : 3.8 × 1.8 × 1.7 乳母車 : 6.5 × 4.5 × 7.0 三島市郷土資料館蔵	80 はねや (『子供之友』 8 巻 10 号) 原画 / 武井武雄 1921 (大正 10) 年 紙・水彩、インク 22.0 × 30.4 婦人之友社蔵 81 大時計 (『子供之友』 13 巻 4 号) 原画 / 武井武雄 1914 (大正 3) 年 紙・水彩、インク 25.8 × 37.1 婦人之友社蔵 82 『コドモノクニ』 4 巻 6 号 (表紙: 武井武雄「ポッポのお嬢様」) / 東京社 1925 (大正 14) 年 5 月 印刷物 25.5 × 19.8 大阪府立中央図書館 国際児童文学館蔵 83 『コドモノクニ』 4 巻 9 号 (表紙: 岡本帰一「わたしのポチ」) / 東京社 1925 (大正 14) 年 8 月 印刷物 25.5 × 19.8 青森県立美術館蔵 84 『コドモノクニ』 5 巻 6 号 (表紙: 武井武雄「ニンギョウ」) / 東京社 1926 (大正 15) 年 6 月 印刷物 25.5 × 19.8 青森県立美術館蔵	87 明倫尋常高等小学校 [現: 萩・明倫学舎] (国登録有形文化財※本館棟) 山口県萩市 / 1935 (昭和 10) 年 87-1 資 写真 現在の本館外観 写真提供: 萩・明倫学舎 87-2 資 写真 本館校舎 『明倫小学校百年史』 (萩市立明倫小学校同窓会、1985 年) より 87-3 資 写真 唱歌室 (竣工当初) 写真提供: 萩博物館 87-4 資 写真 講堂映写室 (竣工当初) 『明倫小学校百年史』 (萩市立明倫小学校同窓会、1985 年) より 87-5 資 写真 養護室 (竣工当初) 同 87-6 資 写真 校庭での大運動会 (竣工当初) 写真提供: 萩市立明倫小学校
64 自動車 大正時代 ブリキ 8.5 × 7.5 × 13.0 (箱 : 7.5 × 13.5 × 9.0) 三島市郷土資料館蔵	64 水族館 (『子供之友』 2 巻 6 号) 原画 / 竹久夢二 1915 (大正 4) 年 紙・水彩、インク、墨 24.5 × 32.8 婦人之友社蔵	80 はねや (『子供之友』 8 巻 10 号) 原画 / 武井武雄 1921 (大正 10) 年 紙・水彩、インク 22.0 × 30.4 婦人之友社蔵 81 大時計 (『子供之友』 13 巻 4 号) 原画 / 武井武雄 1914 (大正 3) 年 紙・水彩、インク 25.8 × 37.1 婦人之友社蔵 82 『コドモノクニ』 4 巻 6 号 (表紙: 武井武雄「ポッポのお嬢様」) / 東京社 1925 (大正 14) 年 5 月 印刷物 25.5 × 19.8 大阪府立中央図書館 国際児童文学館蔵 83 『コドモノクニ』 4 巻 9 号 (表紙: 岡本帰一「わたしのポチ」) / 東京社 1925 (大正 14) 年 8 月 印刷物 25.5 × 19.8 青森県立美術館蔵 84 『コドモノクニ』 5 巻 6 号 (表紙: 武井武雄「ニンギョウ」) / 東京社 1926 (大正 15) 年 6 月 印刷物 25.5 × 19.8 青森県立美術館蔵	87 明倫尋常高等小学校 [現: 萩・明倫学舎] (国登録有形文化財※本館棟) 山口県萩市 / 1935 (昭和 10) 年 87-1 資 写真 現在の本館外観 写真提供: 萩・明倫学舎 87-2 資 写真 本館校舎 『明倫小学校百年史』 (萩市立明倫小学校同窓会、1985 年) より 87-3 資 写真 唱歌室 (竣工当初) 写真提供: 萩博物館 87-4 資 写真 講堂映写室 (竣工当初) 『明倫小学校百年史』 (萩市立明倫小学校同窓会、1985 年) より 87-5 資 写真 養護室 (竣工当初) 同 87-6 資 写真 校庭での大運動会 (竣工当初) 写真提供: 萩市立明倫小学校
65 飛兎 大正時代 ブリキ 10.5 × 4.0 × 11.0 (箱 : 5.0 × 12.0 × 9.7) 三島市郷土資料館蔵	65 飛兎 大正時代 ブリキ 10.5 × 4.0 × 11.0 (箱 : 5.0 × 12.0 × 9.7) 三島市郷土資料館蔵	80 はねや (『子供之友』 8 巻 10 号) 原画 / 武井武雄 1921 (大正 10) 年 紙・水彩、インク 22.0 × 30.4 婦人之友社蔵 81 大時計 (『子供之友』 13 巻 4 号) 原画 / 武井武雄 1914 (大正 3) 年 紙・水彩、インク 25.8 × 37.1 婦人之友社蔵 82 『コドモノクニ』 4 巻 6 号 (表紙: 武井武雄「ポッポのお嬢様」) / 東京社 1925 (大正 14) 年 5 月 印刷物 25.5 × 19.8 大阪府立中央図書館 国際児童文学館蔵 83 『コドモノクニ』 4 巻 9 号 (表紙: 岡本帰一「わたしのポチ」) / 東京社 1925 (大正 14) 年 8 月 印刷物 25.5 × 19.8 青森県立美術館蔵 84 『コドモノクニ』 5 巻 6 号 (表紙: 武井武雄「ニンギョウ」) / 東京社 1926 (大正 15) 年 6 月 印刷物 25.5 × 19.8 青森県立美術館蔵	87 明倫尋常高等小学校 [現: 萩・明倫学舎] (国登録有形文化財※本館棟) 山口県萩市 / 1935 (昭和 10) 年 87-1 資 写真 現在の本館外観 写真提供: 萩・明倫学舎 87-2 資 写真 本館校舎 『明倫小学校百年史』 (萩市立明倫小学校同窓会、1985 年) より 87-3 資 写真 唱歌室 (竣工当初) 写真提供: 萩博物館 87-4 資 写真 講堂映写室 (竣工当初) 『明倫小学校百年史』 (萩市立明倫小学校同窓会、1985 年) より 87-5 資 写真 養護室 (竣工当初) 同 87-6 資 写真 校庭での大運動会 (竣工当初) 写真提供: 萩市立明倫小学校

87-7 資 写真 1955 (昭和 30) 年頃の学校全景 写真提供: 同	90 『キンダーブック』第 10 集第 8 編 / フレーベル館 (14 輯 9 ~ 12 編の出版社: 日本保育館) 1937 (昭和 12) 年 11 月 印刷物 32.5 × 23.9 青森県立美術館蔵	98 『少女編物手芸』(『少女倶楽部』13 巻 10 号付録 表紙: 蒔谷虹児) / 大日本雄弁会講談社 1935 (昭和 10) 年 10 月 印刷物 19.0 × 26.0 青森県立美術館蔵	102-4 資 写真 左に低学年棟、右に体育館 写真提供: 同
87-8 資 写真 萩明倫校校舎配置図 昭和 12 年 1 月 『明倫小学校百年史』(萩市立明倫小学校同窓会、1985 年) より	91 『コドモノヒカリ』6 巻 11 号 / 子供研究社 (5 巻 7 号からの出版社: 帝國教育會出版部) 1942 (昭和 17) 年 11 月 印刷物 29.5 × 21.0 青森県立美術館蔵	99 『幼年倶楽部』10 巻 3 号 (表紙: 多田北鳥) / 大日本雄弁会講談社 (講談社) 1935 (昭和 10) 年 3 月 印刷物 22.0 × 15.0 青森県立美術館蔵	102-5 資 写真 体育館兼講堂 写真提供: 同
88 慶應義塾幼稚舎 / 谷口吉郎 東京都渋谷区 / 1937 (昭和 12) 年	92 『幼児標準絵本 3 ムラノコドモ』 / 鈴木仁成堂書店 (武井武雄 文、川上四郎 装幀) 1939 (昭和 14) 年 印刷物 26.2 × 19.0 島田安彦コレクション蔵	100 『幼年倶楽部』12 巻 9 号 (表紙: 多田北鳥) / 大日本雄弁会講談社 (講談社) 1937 (昭和 12) 年 9 月 印刷物 22.0 × 15.0 青森県立美術館蔵	102-6 資 写真 外廊下掲揚風景 写真提供: 同
88-1 資 写真 校舎外観 撮影: 新良太 写真提供: 慶應義塾大学アート・センター + 新良太	93 『少年倶楽部』19 巻 1 号 (表紙: 齋藤五百枝) / 大日本雄弁会講談社 (講談社) 1932 (昭和 7) 年 1 月 印刷物 22.0 × 15.0 青森県立美術館蔵	101 新宿区立西戸山小学校 / 東京都建築局工事課および新宿区教育課 東京都新宿区 / 1951 (昭和 26) 年 101-1 資 写真 東南から見た校舎 101-2 東京都新宿区西戸山小学校建築工事 文部省建築モデルスクール指定校 プレート 1951 (昭和 26) 年 金属 27.3 × 38.5 × 2 新宿区立西戸山小学校蔵	102-7 資 写真 学校園 写真提供: 同
88-2 資 写真 教室内観 撮影、写真提供: 同	88-3 資 写真 図工室 撮影、写真提供: 同	102-8 資 写真 低学年棟における教室授業風景 写真提供: 同	102-8 資 写真 低学年棟における教室授業風景 写真提供: 同
88-3 資 写真 図工室 撮影、写真提供: 同	88-4 資 写真 セットバックした教室の前のテラス 撮影、写真提供: 同	103 八幡平市立日土小学校 (国指定重要文化財) / 松村正恒 愛媛県八幡平市 / 1956 年 (昭和 31) 年 [中校舎] 1958 (昭和 33) 年 [東校舎] 103-1 資 写真 川側から校舎を見る 撮影: 山岸剛 103-2 資 写真 運動場越しに中校舎と東校舎を見る 撮影: 同	103-1 資 写真 川側から校舎を見る 撮影: 山岸剛 103-2 資 写真 運動場越しに中校舎と東校舎を見る 撮影: 同
88-4 資 写真 セットバックした教室の前のテラス 撮影、写真提供: 同	88-5 資 写真 理科教室内観 撮影、写真提供: 慶應義塾福沢研究センター 撮影: 渡辺義雄	103-3 資 写真 東校舎の階段 撮影: 同	103-3 資 写真 東校舎の階段 撮影: 同
88-5 資 写真 理科教室内観 撮影、写真提供: 慶應義塾福沢研究センター 撮影: 渡辺義雄	88-6 資 写真 体育館内観 撮影、写真提供: 同	103-4 資 写真 東校舎の旧昇降口 撮影: 同	103-4 資 写真 東校舎の旧昇降口 撮影: 同
88-6 資 写真 体育館内観 撮影、写真提供: 同	88-7 第一理科室詳細図 1:50 / 谷口吉郎・曾根中條建築事務所 1937 (昭和 12) 年 トレーシングペーパー・鉛筆 55.5 × 78.5 慶應義塾大学蔵	103-5 資 写真 中校舎教室、給食風景 撮影: 同	103-5 資 写真 中校舎教室、給食風景 撮影: 同
88-7 第一理科室詳細図 1:50 / 谷口吉郎・曾根中條建築事務所 1937 (昭和 12) 年 トレーシングペーパー・鉛筆 55.5 × 78.5 慶應義塾大学蔵	88-8 3階テラス日覆用パイプ柱・花壇及2階テラス隔壁詳細 1:20 / 谷口吉郎・曾根中條建築事務所 1937 (昭和 12) 年 トレーシングペーパー・鉛筆 54.5 × 79.0 慶應義塾大学蔵	103-6 資 図面(複写) 東校舎平面図 1階、2階 1:100 画像提供: 八幡平市役所 103-7 資 図面(複写) 東校舎矩計図(昇降口~教室) 1:20 画像提供: 同	103-6 資 図面(複写) 東校舎平面図 1階、2階 1:100 画像提供: 八幡平市役所 103-7 資 図面(複写) 東校舎矩計図(昇降口~教室) 1:20 画像提供: 同
88-8 3階テラス日覆用パイプ柱・花壇及2階テラス隔壁詳細 1:20 / 谷口吉郎・曾根中條建築事務所 1937 (昭和 12) 年 トレーシングペーパー・鉛筆 54.5 × 79.0 慶應義塾大学蔵	89 高野口尋常高等小学校 [現: 橋本市立高野口小学校] (国指定重要文化財) / 数本芳一 和歌山県橋本市 / 1937 (昭和 12) 年	103-8 模型 1:20 模型制作: 神戸芸術工科大学花田佳明 + 同大学学生有志 ミクストメディア 131 × 131 × 66 神戸芸術工科大学・花田佳明 研究室蔵	103-8 模型 1:20 模型制作: 神戸芸術工科大学花田佳明 + 同大学学生有志 ミクストメディア 131 × 131 × 66 神戸芸術工科大学・花田佳明 研究室蔵
89 高野口尋常高等小学校 [現: 橋本市立高野口小学校] (国指定重要文化財) / 数本芳一 和歌山県橋本市 / 1937 (昭和 12) 年	89-1 資 写真 校舎正面玄関 撮影: 白井亮	104 朝日町立朝日小学校 / 坂本鹿名夫 三重県三重郡 / 1962 (昭和 37) 年 104-1 資 写真 西から見た校舎外観 写真提供: 朝日町教育委員会	104 朝日町立朝日小学校 / 坂本鹿名夫 三重県三重郡 / 1962 (昭和 37) 年 104-1 資 写真 西から見た校舎外観 写真提供: 朝日町教育委員会
89-1 資 写真 校舎正面玄関 撮影: 白井亮	89-2 資 写真 長さ 98m に及ぶ廊下 撮影: 同	104-2 資 写真 運動場越しの校舎外観 写真提供: 同	104-2 資 写真 運動場越しの校舎外観 写真提供: 同
89-2 資 写真 長さ 98m に及ぶ廊下 撮影: 同	89-3 資 写真 図書室 写真提供: 橋本市教育委員会	104-3 資 写真 円形校舎外観 写真提供: 同	104-3 資 写真 円形校舎外観 写真提供: 同
89-3 資 写真 図書室 写真提供: 橋本市教育委員会	89-4 資 写真 校舎全景 写真提供: 同	104-4 資 写真 円形校舎玄関 写真提供: 同	104-4 資 写真 円形校舎玄関 写真提供: 同
89-4 資 写真 校舎全景 写真提供: 同	96 『少女倶楽部』11 巻 10 号 (表紙: 多田北鳥「読書」) / 大日本雄弁会講談社 1933 (昭和 8) 年 10 月 印刷物 22.0 × 15.0 青森県立美術館蔵	102-2 資 写真 高学年棟 写真提供: 目黒区立宮前小学校	102-2 資 写真 高学年棟 写真提供: 目黒区立宮前小学校
96 『少女倶楽部』11 巻 10 号 (表紙: 多田北鳥「読書」) / 大日本雄弁会講談社 1933 (昭和 8) 年 10 月 印刷物 22.0 × 15.0 青森県立美術館蔵	97 『少女倶楽部』18 巻 9 号 (表紙: 多田北鳥「朝の花園」) / 大日本雄弁会講談社 1940 (昭和 15) 年 9 月 印刷物 22.0 × 15.0 青森県立美術館蔵	102-3 資 写真 開校式 写真提供: 同	102-3 資 写真 開校式 写真提供: 同
97 『少女倶楽部』18 巻 9 号 (表紙: 多田北鳥「朝の花園」) / 大日本雄弁会講談社 1940 (昭和 15) 年 9 月 印刷物 22.0 × 15.0 青森県立美術館蔵	98 『少女倶楽部』13 巻 10 号付録 表紙: 蒔谷虹児) / 大日本雄弁会講談社 1935 (昭和 10) 年 10 月 印刷物 19.0 × 26.0 青森県立美術館蔵	102-4 資 写真 左に低学年棟、右に体育館 写真提供: 同	102-4 資 写真 左に低学年棟、右に体育館 写真提供: 同
98 『少女倶楽部』13 巻 10 号付録 表紙: 蒔谷虹児) / 大日本雄弁会講談社 1935 (昭和 10) 年 10 月 印刷物 19.0 × 26.0 青森県立美術館蔵	99 『幼年倶楽部』10 巻 3 号 (表紙: 多田北鳥) / 大日本雄弁会講談社 (講談社) 1935 (昭和 10) 年 3 月 印刷物 22.0 × 15.0 青森県立美術館蔵	102-5 資 写真 体育館兼講堂 写真提供: 同	102-5 資 写真 体育館兼講堂 写真提供: 同
99 『幼年倶楽部』10 巻 3 号 (表紙: 多田北鳥) / 大日本雄弁会講談社 (講談社) 1935 (昭和 10) 年 3 月 印刷物 22.0 × 15.0 青森県立美術館蔵	100 『幼年倶楽部』12 巻 9 号 (表紙: 多田北鳥) / 大日本雄弁会講談社 (講談社) 1937 (昭和 12) 年 9 月 印刷物 22.0 × 15.0 青森県立美術館蔵	102-6 資 写真 外廊下掲揚風景 写真提供: 同	102-6 資 写真 外廊下掲揚風景 写真提供: 同
100 『幼年倶楽部』12 巻 9 号 (表紙: 多田北鳥) / 大日本雄弁会講談社 (講談社) 1937 (昭和 12) 年 9 月 印刷物 22.0 × 15.0 青森県立美術館蔵	101 新宿区立西戸山小学校 / 東京都建築局工事課および新宿区教育課 東京都新宿区 / 1951 (昭和 26) 年 101-1 資 写真 東南から見た校舎 101-2 東京都新宿区西戸山小学校建築工事 文部省建築モデルスクール指定校 プレート 1951 (昭和 26) 年 金属 27.3 × 38.5 × 2 新宿区立西戸山小学校蔵	102-7 資 写真 学校園 写真提供: 同	102-7 資 写真 学校園 写真提供: 同
101 新宿区立西戸山小学校 / 東京都建築局工事課および新宿区教育課 東京都新宿区 / 1951 (昭和 26) 年 101-1 資 写真 東南から見た校舎 101-2 東京都新宿区西戸山小学校建築工事 文部省建築モデルスクール指定校 プレート 1951 (昭和 26) 年 金属 27.3 × 38.5 × 2 新宿区立西戸山小学校蔵	102 目黒区立宮前小学校旧校舎 (旧八雲小学校分校) / 宮前小学校設計グループ 東京都目黒区 / 1958 (昭和 33) 年 / 現存せず 102-1 資 写真 北からの鳥瞰 (創立 15 周年記念写真) 個人蔵 102-2 資 写真 高学年棟 写真提供: 目黒区立宮前小学校	102-8 資 写真 低学年棟における教室授業風景 写真提供: 同	102-8 資 写真 低学年棟における教室授業風景 写真提供: 同
102 目黒区立宮前小学校旧校舎 (旧八雲小学校分校) / 宮前小学校設計グループ 東京都目黒区 / 1958 (昭和 33) 年 / 現存せず 102-1 資 写真 北からの鳥瞰 (創立 15 周年記念写真) 個人蔵 102-2 資 写真 高学年棟 写真提供: 目黒区立宮前小学校	103 八幡平市立日土小学校 (国指定重要文化財) / 松村正恒 愛媛県八幡平市 / 1956 年 (昭和 31) 年 [中校舎] 1958 (昭和 33) 年 [東校舎] 103-1 資 写真 川側から校舎を見る 撮影: 山岸剛 103-2 資 写真 運動場越しに中校舎と東校舎を見る 撮影: 同	102-9 資 写真 不明 写真提供: 不明	102-9 資 写真 不明 写真提供: 不明
103 八幡平市立日土小学校 (国指定重要文化財) / 松村正恒 愛媛県八幡平市 / 1956 年 (昭和 31) 年 [中校舎] 1958 (昭和 33) 年 [東校舎] 103-1 資 写真 川側から校舎を見る 撮影: 山岸剛 103-2 資 写真 運動場越しに中校舎と東校舎を見る 撮影: 同	104 朝日町立朝日小学校 / 坂本鹿名夫 三重県三重郡 / 1962 (昭和 37) 年 104-1 資 写真 西から見た校舎外観 写真提供: 朝日町教育委員会		
104 朝日町立朝日小学校 / 坂本鹿名夫 三重県三重郡 / 1962 (昭和 37) 年 104-1 資 写真 西から見た校舎外観 写真提供: 朝日町教育委員会			

104-5 資 写真 円形校舎内観 写真提供：同	106-4 資 写真 2階中庭 写真提供：同	108-3 資 写真 図書室内観 撮影：同 写真提供：同	111-1 資 写真 遠景 写真提供：イサム・ノグチ財団・庭園美術館 (ニューヨーク) ©The Isamu Noguchi Foundation and Garden Museum / ARS, New York / JASPAR, Tokyo B0374
104-6 資 図面(複写) 3、4階平面図 原図 1:100 写真提供：同	106-5 資 写真 手洗い場を見下ろす 写真提供：同	108-4 資 写真 広島こどもの家の前に立つ子どもたち 撮影：同 写真提供：同	111-2 資 写真 噴水越しに丸山をのぞむ 写真提供：同
104-7 資 図面(複写) 朝日町立朝日小学校 電気設 備工事図 原図 1:200 写真提供：同	106-6 資 写真 半屋外空間 写真提供：同	108-5 資 青焼図(複写) シェル部分立面配筋図他 原図 1:20	111-3 資 写真 丸山の前のイサム・ノグチ 写真提供：同
105 七戸町立城南小学校 / 東京大学吉武研究室 青森県上北郡七戸町 / 1965(昭和40)年(現 存せず)	106-7 資 写真 保育室 写真提供：同	1952(昭和27)年 図面制作:東京大学生産研究所坪井善勝研究 室 画像提供:東京大学生産研究所川口健一研究 室	111-4 資 写真 丸山と子ども 写真提供:大谷幸夫研究室
105-1 資 写真 図書館棟 撮影:長澤悟	106-8 資 写真 図面を検討する丹下健三 写真提供:同	109 公団住宅のプレイロット / 日本住宅公団 1950年代後半-1960年代前半	111-5 こどもの国A地区児童遊園 配置図 1:300 1965(昭和40)年 青焼図 78.5×108.0 国立近現代建築資料館蔵
105-2 資 写真 半屋外の通路 撮影:同	106-9 ゆかり文化幼稚園 / 平面図(ショードローイ ング)	109-1 資 写真 ブレイスカルプチャー 写真提供:田畑貞寿	111-6 こどもの国 児童館と遊び場 ジャングルジ ムB詳細図 1:50 1965(昭和40)年 青焼図 54.0×80.0 国立近現代建築資料館蔵
105-3 資 写真 教室内観 撮影:同	1967(昭和42)年 青焼図 110×80 ゆかり文化幼稚園蔵	109-2 資 写真 円形スライダー 写真提供:同	112 《仔いぬ》 / 「江東のこども」より / 土門拳 1955(昭和30)年 ゼラチンシルバープリント 32.6×22.8 東京都写真美術館蔵
105-4 資 写真 西からの全景 撮影:小山孝 *青森会場のみ展示	106-10 ゆかり文化幼稚園 第1期工事写真帳 冊子 30.5×22 ゆかり文化幼稚園蔵	109-3 資 写真 石の山と円形スライダー 写真提供:同	113 《ペーゴマ》 / 「江東のこども」より / 土門拳 1953(昭和28)年 ゼラチンシルバープリント 32.6×22.8 東京都写真美術館蔵
105-5 資 写真 入口前広場から図書館とブレイルーム 北面を見る 撮影:小山孝 *青森会場のみ展示	107 慶松幼稚園 / 原広司 東京都町田市 / 1968(昭和43)年	109-4 資 写真 ブレイスカルプチャー 写真提供:同	114 《紙芝居》 / 「江東のこども」より / 土門拳 1953(昭和28)-1954(昭和29)年 ゼラチンシルバープリント 32.6×22.8 東京都写真美術館蔵
105-6 資 あそび庭よりブレイルーム、1、2年教室を 見る(後方は八甲田連山) 撮影:小山孝 *青森会場のみ展示	107-1 資 写真 鳥瞰 撮影:新潮社写真部 写真提供:新潮社	110 東京都児童会館 / 大谷幸夫 東京都渋谷区 / 1964(昭和39)年(現存 せず)	115 《おしくらまんじゅう》 / 「江東のこども」よ り / 土門拳 1953(昭和28)-1954(昭和29)年 ゼラチンシルバープリント 229×329 東京都写真美術館蔵
105-7 資 1、2年教室内部南面、中庭は雑木植込 撮影:小山孝 *青森会場のみ展示	107-2 資 写真 園庭越しに見た園舎 撮影:長澤悟	110-1 資 写真 美竹通りからのアプローチ 写真提供:大谷研究室	116 《近藤勇と鞍馬天狗》 / 「江東のこども」よ り / 土門拳 1953(昭和28)-1954(昭和29)年 ゼラチンシルバープリント 22.9×32.6 東京都写真美術館蔵
105-8 資 ブレイルーム内部 撮影:小山孝 *青森会場のみ展示	107-3 資 写真 屋上遊び場 撮影:同	110-2 資 写真 玄関ホール 写真提供:同	117 《おしくらまんじゅう》 / 「江東のこども」よ り / 土門拳 1953(昭和28)-1954(昭和29)年 ゼラチンシルバープリント 22.9×32.6 東京都写真美術館蔵
105-9 資 低学年下足室からブレイルームを見る 撮影:小山孝 *青森会場のみ展示 ※105-4資~9資は、「七戸町立上南小学校」 『建築』1965年5月号(青銅社)より転載	107-4 資 写真 保育室 撮影:同	110-3 資 写真 展示場 写真提供:同	118 《おしくらまんじゅう》 / 「江東のこども」よ り / 土門拳 1953(昭和28)-1954(昭和29)年 ゼラチンシルバープリント 22.9×32.6 東京都写真美術館蔵
106 ゆかり文化幼稚園 / 丹下健三都市・建築設計 研究所 東京都世田谷区 / 1967(昭和42)年	107-5 資 写真 廊下、右側に保育室 撮影:同	110-4 資 写真 室内遊戯スペース 写真提供:同	119 《おしくらまんじゅう》 / 「江東のこども」よ り / 土門拳 1953(昭和28)-1954(昭和29)年 ゼラチンシルバープリント 22.9×32.6 東京都写真美術館蔵
106-1 資 写真 園庭越しに見た園舎	107-6 資 写真 用具棚 撮影:同	110-5 資 写真 大ホール(緞帳デザイン:杉浦康平) 写真提供:同	120 《おしくらまんじゅう》 / 「江東のこども」よ り / 土門拳 1953(昭和28)-1954(昭和29)年 ゼラチンシルバープリント 22.9×32.6 東京都写真美術館蔵
106-2 資 写真 園庭より園舎を見上げる	107-7 資 写真 用具棚 撮影:同	110-6 コラージュ 増殖する児童会館 / 大谷幸夫 1964(昭和39)年 フォトコラージュ、ペン、スクリーントーン /紙、布、パネル 41×62×1.7 大谷研究室 画像提供:森美術館	121 《おしくらまんじゅう》 / 「江東のこども」よ り / 土門拳 1953(昭和28)-1954(昭和29)年 ゼラチンシルバープリント 22.9×32.6 東京都写真美術館蔵
106-3 資 写真 テラスの保育風景 写真提供:ゆかり文化幼稚園	108 広島こどもの家(広島市児童図書館) / 丹下 健三 広島県広島市 / 1953(昭和28)年(現存せず)	111 こどもの国児童遊園 / 大谷幸夫、イサム・ノ グチ 神奈川県横浜市 / 1966(昭和41)年	122 《おしくらまんじゅう》 / 「江東のこども」よ り / 土門拳 1953(昭和28)-1954(昭和29)年 ゼラチンシルバープリント 22.9×32.6 東京都写真美術館蔵

117 《たこあげ、築地明石町》 / 「こどもたち」よ り / 土門拳 1955 (昭和 30) 年 ゼラチンシルバークラウド 32.8 × 22.9 東京都写真美術館蔵	126 126-1 『きりん』4巻8号 (表紙 西宮高校4年 阪 本正美) // 日本童詩研究会 1951 (昭和 26) 年 8 月 印刷物 18.0 × 18.0 大阪府立中央図書館国際児童文学館蔵	136 加藤学園暁秀初等学校 / 横総合計画事務所 静岡県沼津市 / 1972 (昭和 47) 年 136-1 資 写真 南東からの外観 写真提供: 加藤学園暁秀初等学校 136-2 資 写真 教室内観 写真提供: 横総合計画事務所 136-3 資 写真 オリジナルの家具 撮影: 村井修 136-4 資 写真 オープン教室の学習風景 写真提供: 加藤学園暁秀初等学校 136-5 資 写真 レイ・コマイのスーパーグラフィック 写真提供: 同 136-6 資 写真 教室前のカラフルな階段室 撮影: 村井修 136-7 資 写真 遊び心のあるロッカー 撮影: 同 136-8 資 写真 学習センター 写真提供: 横総合計画事務所 136-9 資 図面 (複写) 1階プレセ図 画像提供: 横総合計画事務所 136-10 創立 35 周年記念オリジナルブルドッグぬい ぐるみ 2007 年 個人蔵 *青森会場のみ展示	137-8 資 写真 中庭、つどいのランチタイム 写真提供: 同 137-9 資 写真 東浦町立緒川小学校 上下足入れ 138 宮代町立笠原小学校 / 象設計集団 埼玉県南埼玉郡宮代町 / 1982 (昭和 57) 年 138-1 資 写真 北から見た低学年棟外観 撮影: 北田英治 138-2 資 写真 グラウンド越しに東南から見た校舎 撮影: 同 138-3 資 写真 南から見た高学年棟外観 撮影: 同 138-4 資 写真 回廊 撮影: 同 138-5 資 写真 ジャブジャブ池 写真提供: 象設計集団 138-6 資 写真 教室 撮影: 北田英治 138-7 資 ドローイング (複製) 3、4 年生の教室回りの アソメ図 原図作成: 阿部節子、象設計集団 138-8 構想スケッチ 「軸の発見」 1980 (昭和 55) 年 3 月 6 日 トレーシングペーパー・色鉛筆 42.5 × 53.5 制作: 富田玲子 138-9 構想スケッチ 1980 (昭和 55) 年 トレーシングペーパー・色鉛筆 42.5 × 51.5 制作: 富田玲子 138-10 構想スケッチ 1980 (昭和 55) 年 トレーシングペーパー・色鉛筆 42.5 × 60.5 制作: 富田玲子 138-11 模型 1: 200 2018 (平成 30) 年 ミクストメディア 57 × 81 × H9 模型制作: 象設計集団
118 弘前市桜庭 / 小島一郎 1958 (昭和 33) - 61 (昭和 36) 年 ゼラチンシルバークラウド 16.5 × 24.3 青森県立美術館蔵	126-2 資 「きりん展」(1955 (昭和 30) 年 12 月 13 ~ 18 日、大阪市立美術館) 会場風景 撮影: 吉田稔郎 画像提供: 加藤瑞穂	137 東浦町立緒川小学校 / 杉森格、田中・西野設 計事務所 愛知県知多郡東浦町 / 1978 (昭和 53) 年 137-1 資 写真 正面玄関 写真提供: 東浦町立緒川小学校 137-2 資 写真 ホール 写真提供: 同 137-3 資 写真 アルコーブ (床の段々) での授業風景 写真提供: 同 137-4 資 写真 教室、学習風景 写真提供: 同 137-5 資 写真 6 年フロア、図書コーナーとはげみ学 習コーナー 写真提供: 同 137-6 資 写真 5 年フロアの教室ゾーン (現在は 6 年 ラーニングセンター) 写真提供: 同 137-7 資 写真 低いテーブルを用いた学習風景 写真提供: 同	138-11 写真 北からの鳥瞰 写真提供: 目黒区立宮前小学校
119 津軽地方 / 小島一郎 1958 (昭和 33) ゼラチンシルバークラウド 16.6 × 24.1 青森県立美術館蔵	128 『スーホの白い馬』(p.18-19) 原画 / 赤羽末吉 1967 (昭和 42) 年 和紙・日本画絵具 27.1 × 66.3 ちひろ美術館蔵	137 東浦町立緒川小学校 / 杉森格、田中・西野設 計事務所 愛知県知多郡東浦町 / 1978 (昭和 53) 年 137-1 資 写真 正面玄関 写真提供: 東浦町立緒川小学校 137-2 資 写真 ホール 写真提供: 同 137-3 資 写真 アルコーブ (床の段々) での授業風景 写真提供: 同 137-4 資 写真 教室、学習風景 写真提供: 同 137-5 資 写真 6 年フロア、図書コーナーとはげみ学 習コーナー 写真提供: 同 137-6 資 写真 5 年フロアの教室ゾーン (現在は 6 年 ラーニングセンター) 写真提供: 同 137-7 資 写真 低いテーブルを用いた学習風景 写真提供: 同	138-11 写真 北からの鳥瞰 写真提供: 目黒区立宮前小学校
120 津軽地方南部 / 小島一郎 1958 (昭和 33) 年 ゼラチンシルバークラウド 17.1 × 30.6 青森県立美術館蔵	129 『いないいないばあ』(p.15 きつね I) 原画 / 瀬川康男 1967 (昭和 42) 年 MO 紙・グワッシュ 48.0 × 32.7 ちひろ美術館蔵	137 東浦町立緒川小学校 / 杉森格、田中・西野設 計事務所 愛知県知多郡東浦町 / 1978 (昭和 53) 年 137-1 資 写真 正面玄関 写真提供: 東浦町立緒川小学校 137-2 資 写真 ホール 写真提供: 同 137-3 資 写真 アルコーブ (床の段々) での授業風景 写真提供: 同 137-4 資 写真 教室、学習風景 写真提供: 同 137-5 資 写真 6 年フロア、図書コーナーとはげみ学 習コーナー 写真提供: 同 137-6 資 写真 5 年フロアの教室ゾーン (現在は 6 年 ラーニングセンター) 写真提供: 同 137-7 資 写真 低いテーブルを用いた学習風景 写真提供: 同	138-11 写真 北からの鳥瞰 写真提供: 目黒区立宮前小学校
121 《津軽の子》 / つがる市木造亀ヶ岡 / 小島一郎 1958 (昭和 33) 年 ゼラチンシルバークラウド 24.4 × 16.2 青森県立美術館蔵	130 『いないいないばあ』(p.16 きつね II) 原画 / 瀬川康男 1967 (昭和 42) 年 MO 紙・ガッシュ 47.8 × 32.5 ちひろ美術館蔵	137 東浦町立緒川小学校 / 杉森格、田中・西野設 計事務所 愛知県知多郡東浦町 / 1978 (昭和 53) 年 137-1 資 写真 正面玄関 写真提供: 東浦町立緒川小学校 137-2 資 写真 ホール 写真提供: 同 137-3 資 写真 アルコーブ (床の段々) での授業風景 写真提供: 同 137-4 資 写真 教室、学習風景 写真提供: 同 137-5 資 写真 6 年フロア、図書コーナーとはげみ学 習コーナー 写真提供: 同 137-6 資 写真 5 年フロアの教室ゾーン (現在は 6 年 ラーニングセンター) 写真提供: 同 137-7 資 写真 低いテーブルを用いた学習風景 写真提供: 同	138-11 写真 北からの鳥瞰 写真提供: 目黒区立宮前小学校
122 つがる市車力深沢 / 小島一郎 1960 (昭和 35) 年 ゼラチンシルバークラウド 8.3 × 5.3 青森県立美術館蔵	132 『11 びきのねこ』(p.10) / 馬場のぼる 1970 (昭和 45) 年前後 紙・リトグラフ 34.8 × 25.2 こぐま社蔵	137 東浦町立緒川小学校 / 杉森格、田中・西野設 計事務所 愛知県知多郡東浦町 / 1978 (昭和 53) 年 137-1 資 写真 正面玄関 写真提供: 東浦町立緒川小学校 137-2 資 写真 ホール 写真提供: 同 137-3 資 写真 アルコーブ (床の段々) での授業風景 写真提供: 同 137-4 資 写真 教室、学習風景 写真提供: 同 137-5 資 写真 6 年フロア、図書コーナーとはげみ学 習コーナー 写真提供: 同 137-6 資 写真 5 年フロアの教室ゾーン (現在は 6 年 ラーニングセンター) 写真提供: 同 137-7 資 写真 低いテーブルを用いた学習風景 写真提供: 同	138-11 写真 北からの鳥瞰 写真提供: 目黒区立宮前小学校
123 《ままごと》 / 津軽地方 / 小島一郎 1959 (昭和 34) 年頃 ゼラチンシルバークラウド 8.3 × 5.5 青森県立美術館蔵	133 『わたしのワンピース』(p.5) / 西巻茅子 2002 (平成 14) 年 紙・リトグラフ 20.0 × 21.5 個人蔵	137 東浦町立緒川小学校 / 杉森格、田中・西野設 計事務所 愛知県知多郡東浦町 / 1978 (昭和 53) 年 137-1 資 写真 正面玄関 写真提供: 東浦町立緒川小学校 137-2 資 写真 ホール 写真提供: 同 137-3 資 写真 アルコーブ (床の段々) での授業風景 写真提供: 同 137-4 資 写真 教室、学習風景 写真提供: 同 137-5 資 写真 6 年フロア、図書コーナーとはげみ学 習コーナー 写真提供: 同 137-6 資 写真 5 年フロアの教室ゾーン (現在は 6 年 ラーニングセンター) 写真提供: 同 137-7 資 写真 低いテーブルを用いた学習風景 写真提供: 同	138-11 写真 北からの鳥瞰 写真提供: 目黒区立宮前小学校
124 『きりん』1巻1号 (表紙 脇田和) / 尾崎 書房 1948 (昭和 23) 年 2 月 印刷物 25.8 × 18.5 大阪府立中央図書館国際児童文学館蔵	134 『わたしのワンピース』(p.8-9) / 西巻茅子 2002 (平成 14) 年 紙・リトグラフ 19.0 × 42.3 個人蔵	137 東浦町立緒川小学校 / 杉森格、田中・西野設 計事務所 愛知県知多郡東浦町 / 1978 (昭和 53) 年 137-1 資 写真 正面玄関 写真提供: 東浦町立緒川小学校 137-2 資 写真 ホール 写真提供: 同 137-3 資 写真 アルコーブ (床の段々) での授業風景 写真提供: 同 137-4 資 写真 教室、学習風景 写真提供: 同 137-5 資 写真 6 年フロア、図書コーナーとはげみ学 習コーナー 写真提供: 同 137-6 資 写真 5 年フロアの教室ゾーン (現在は 6 年 ラーニングセンター) 写真提供: 同 137-7 資 写真 低いテーブルを用いた学習風景 写真提供: 同	138-11 写真 北からの鳥瞰 写真提供: 目黒区立宮前小学校
125 『きりん』1巻3号 (表紙 吉原治郎) / 尾崎 書房 1948 (昭和 23) 年 4、5 月 印刷物 25.8 × 18.5 大阪府立中央図書館国際児童文学館蔵	135 『わたしのワンピース』(p.11) / 西巻茅子 2002 (平成 14) 年 紙・リトグラフ 20.2 × 21.5 個人蔵	137 東浦町立緒川小学校 / 杉森格、田中・西野設 計事務所 愛知県知多郡東浦町 / 1978 (昭和 53) 年 137-1 資 写真 正面玄関 写真提供: 東浦町立緒川小学校 137-2 資 写真 ホール 写真提供: 同 137-3 資 写真 アルコーブ (床の段々) での授業風景 写真提供: 同 137-4 資 写真 教室、学習風景 写真提供: 同 137-5 資 写真 6 年フロア、図書コーナーとはげみ学 習コーナー 写真提供: 同 137-6 資 写真 5 年フロアの教室ゾーン (現在は 6 年 ラーニングセンター) 写真提供: 同 137-7 資 写真 低いテーブルを用いた学習風景 写真提供: 同	138-11 写真 北からの鳥瞰 写真提供: 目黒区立宮前小学校

139-2 資 写真 外部モール（左の壁画デザイン：松川淳子） 写真提供：同	141 田上町竹の友幼稚園（現・竹の友幼児園）/ 難波和彦+玉井匡（界工作舎） 新潟県南蒲原郡 /1978（昭和53）年 141-1 資 写真 北から見た園舎外観 撮影：大橋富夫 141-2 資 写真 多目的室 撮影：難波和彦、写真提供：界工作舎	143 黒石ほるのぶ子ども館 / 菊竹清訓建築設計事務所 青森県黒石市 /1975 年 143-1 資 写真 東から見た外観 写真提供：スペーススクール 143-2 資 写真 中2階より1階を見下ろす 写真提供：同 143-3 資 写真 中2階を見上げる 写真提供：同 143-4 資 写真 東側出入口から見た中2階 写真提供：同 143-5 資 写真 西面大窓「ふるさとの窓」 写真提供：同	144-5 低学年用椅子（旧・まつの実文庫椅子） / 長谷川紘都市・建築研究所 1997（平成9）年 ナラ材 H54.5 × W32.4 × D34.0 東京こども図書館蔵 145 かつら文庫 東京都杉並区 /1958（昭和33）年 145-1 資 写真 文庫びらきを知らせる手製の立て札 写真提供：東京こども図書館 145-2 資 写真 絵本『シナの五にんきょうだい』の読み聞かせ 写真提供：同 145-3 資 写真 一人、本の世界へ 写真提供：同 145-4 資 写真 子どもたちと本を読む石井桃子 写真提供：同 145-5 資 写真 文庫のクリスマス クイズを出すH君 写真提供：同 145-6 資 写真 子どもたちのリクエストで、絵を描くパートンさん 写真提供：同 145-7 文庫開設時より50年以上にわたり使われているかつら文庫の椅子 / 剣持勇 1957（昭和32）年 ブナ材、ビニールレザー、発泡ウレタン H67.5 × W43.5 × D46.0 東京こども図書館蔵 145-8 機関車と鉄道員 / パーゴニア・リー・パートナー 1964（昭和39）年 紙・コンテ 45.0 × 60.0 東京こども図書館蔵
139-3 資 写真 教室内観 給食準備、右にオープンスペース 写真提供：同	141-3 資 写真 ワークスペースとクラスルームの間の通路 撮影：同、写真提供：同	143-6 矩形図 1:20 1974 年 鉛筆、トレーシングペーパー 58.4 × 84.2 株式会社情報建築蔵 ©Kiyonori Kikutake	145-6 資 写真 文庫のクリスマス クイズを出すH君 写真提供：同
139-4 資 写真 教室内観 ホワイトボードを並べた学習風景 写真提供：同	141-4 資 写真 グラウンドとクラスルームをつなぐがらぎ（屋外通路） 撮影：同、写真提供：同	143-7 室内詳細図 1:20 1977（昭和52）年 鉛筆、色鉛筆、トレーシングペーパー 59.3 × 84.2 株式会社情報建築蔵 ©Kiyonori Kikutake	145-7 写真 子どもたちのリクエストで、絵を描くパートンさん 写真提供：同
139-5 資 写真 目黒区立宮前小学校 図工室 写真提供：同	141-5 資 写真 多目的室の天井のスペーストラスとジャングルジム 撮影：長澤悟	143-8 黒石ほるのぶ子ども館 / 黒石ほるのぶ子ども館パンフレット 1975 年 印刷物 25.5 × 20.0 黒石市教育委員会蔵	145-8 写真 東京都調布市調布駅前公園タコすべり台 撮影：西山貞子 146-1 資 写真 東京都足立区水神橋公園タコすべり台 写真提供：アトリエエヌ
139-6 資 写真 目黒区立宮前小学校 児童ごとに区画化された南側農園 写真提供：同	141-6 資 写真 2室ごとにまとめられたセミオープンクラスルーム 撮影：同	143-9 模型 1:50 2018 年 ミクストメディア 84.1 × 59.4 × 27.0 模型制作：澤田昂明（ヌーブ）、大山友秋、小川華歩、田島沙弥	146-1 資 写真 東京都足立区上沼田公園タコすべり台 写真提供：同
139-7 資 紙・ベン（複製） 21 × 49.4 基本計画オープンスペース、ワークスペース 使い方スケッチ 1983（昭和58）年3月10日 制作：上野淳	141-7 資 写真 学習センターの積木のような柱 撮影：同	144 東京子ども図書館 / 草野建築設計事務所 東京都中野区 /1997（平成9）年 144-1 資 写真 南東側からの外観全景 竣工当時 撮影：畑亮 144-2 資 写真 レンガの壁に囲まれたおはなしのへや 撮影：同 144-3 資 写真 現在の外観全景 写真提供：東京子ども図書館（撮影：池田マサカズ） 144-4 資 写真 児童室 撮影：同、写真提供：同	146-2 資 図面（複製） タコの山東京都足立区千住四丁目児童公園 1:30 写真提供：同
139-9 目黒区立宮前小学校 / 模型 1:300 / 日本建築学会・学校建築に関する委員会、実施設計：アルコム 1983（昭和58）年 木・紙・スチレン・スタイロフォーム 60 × 90 × 15 制作：日本建築学会・学校建築委員会 目黒区立宮前小学校蔵	141-8 資 写真 学習センターの積木のような柱 撮影：同	144-5 東京子ども図書館 / 鬼頭梓建築設計事務所 東京都日野市 /1973（昭和48）年 142-1 資 写真 L字型に囲まれた中庭 写真提供：日野市立図書館 142-2 資 写真 開架室から庭を望む 写真提供：同 142-3 資 写真 日野市立図書館 移動図書館ひまわり号 東光寺団地での貸し出し 写真提供：同 142-4 資 写真 日野市立図書館 移動図書館ひまわり号 新井保育園へ 写真提供：同 142-5 資 写真 日野市立図書館 多摩平児童図書館（電車図書館） 外観 写真提供：同 142-6 資 写真 日野市立図書館 多摩平児童図書館（電車図書館） 内観 写真提供：同 142-7 資 写真 日野市立図書館 多摩平児童図書館 設計：横浜国立大学建築学科 写真提供：同 142-8 資 写真 日野市立図書館 多摩平児童図書館 閲覧室 写真提供：同	146-2 資 写真 東京都足立区上沼田公園タコすべり台 写真提供：同
140 津山口保育園（現：KOKKO 保育園） / 小川信子+小川建築工房 企画監修：CDI（文化開発研究所）、川添登 岡山県津市 /1977（昭和52）年 140-1 資 写真 遠景 撮影：栗原宏光、写真提供：江原恵明会 140-2 資 写真 玄関（屋根の上の風見鶏のデザイン：栗津潔） 撮影：同、写真提供：同 140-3 資 写真 戸外遊戯室の場（ウッドデッキ） 撮影：同、写真提供：同 140-4 資 写真 いすの間（共同保育室） 撮影：同、写真提供：同 140-5 資 写真 ゆかの間（4歳保育室） 撮影：同、写真提供：同 140-6 資 写真 いたの間（遊戯室） 撮影：同、写真提供：同 140-7 資 写真 吹き抜けでつながる1階と2階の椅子の間（共同保育室） 撮影：同、写真提供：同	142 日野市立図書館 / 鬼頭梓建築設計事務所 東京都日野市 /1973（昭和48）年 142-1 資 写真 L字型に囲まれた中庭 写真提供：日野市立図書館 142-2 資 写真 開架室から庭を望む 写真提供：同 142-3 資 写真 日野市立図書館 移動図書館ひまわり号 東光寺団地での貸し出し 写真提供：同 142-4 資 写真 日野市立図書館 移動図書館ひまわり号 新井保育園へ 写真提供：同 142-5 資 写真 日野市立図書館 多摩平児童図書館（電車図書館） 外観 写真提供：同 142-6 資 写真 日野市立図書館 多摩平児童図書館（電車図書館） 内観 写真提供：同 142-7 資 写真 日野市立図書館 多摩平児童図書館 設計：横浜国立大学建築学科 写真提供：同 142-8 資 写真 日野市立図書館 多摩平児童図書館 閲覧室 写真提供：同	144-6 東京子ども図書館 / 草野建築設計事務所 東京都中野区 /1997（平成9）年 144-1 資 写真 南東側からの外観全景 竣工当時 撮影：畑亮 144-2 資 写真 レンガの壁に囲まれたおはなしのへや 撮影：同 144-3 資 写真 現在の外観全景 写真提供：東京子ども図書館（撮影：池田マサカズ） 144-4 資 写真 児童室 撮影：同、写真提供：同	146-2 資 写真 東京都足立区上沼田公園タコすべり台 写真提供：同

147	世田谷区千歳船橋冒険遊び場 / 発起人: 大村 虔一、璋子 運営: 遊ぼう会 東京都世田谷区 / 1975 年	149-2 資 写真 <霧の森> 計画: 高野ランドスケーププランニング デザイン・制作: 中谷美二子 撮影: 小川重雄 1992 年 画像提供: プロセスアート	150-8 イサム・ノグチによる配置スタディ 1:2000 1988 年 9 月 18 日 トレーシングペーパー・鉛筆 57 × 84 アーキテクトファイブ蔵	158 ウルトラセブン決定稿 B 案 / 成田亨 1967 (昭和 42) 年 紙・ペン、水彩 39.4 × 35.0 青森県立美術館蔵
147-1 資 写真 小屋づくり 写真提供: 武蔵野美術大学視覚伝達デザイン 学科齋藤研究室	147-2 資 写真 屋根遊び 写真提供: 同	149-3 資 映像 <霧の森> 2013 (平成 25) 年 映像 9 分 54 秒 中谷美二子 制作: Anarchive/Processart Inc.	150-9 モエレ沼公園 / スタディ模型 1:2000 1988 年 11 月 16 日以降 ミクストメディア 73 × 103 × 13 アーキテクトファイブ蔵	159 メトロン星人 / 成田亨 1967 (昭和 42) 年 紙・ペン、水彩 39.6 × 36.5 青森県立美術館蔵
147-3 資 写真 焚き火 写真提供: 同	147-4 資 写真 モンキーブリッジ 写真提供: 同	149-4 資 写真 <霧の森> 写真提供: 高野ランドスケーププランニング	151 タンクボール / 成田亨 1970 年代 FRP 直径 120 青森県立美術館蔵	160 那覇市立城西小学校 / 原広司+アトリエファイ 沖縄県那覇市 / 1987 年 160-1 資 写真 東からの俯瞰 撮影: 福村俊治
147-5 千歳船橋冒険遊び場レポート〈パネル〉10 枚組パネル 1978 (昭和 53) 年 紙、スチレン 73 × 51 制作: “遊べ!子どもたち” 編集委員会 (木 村文、齋藤啓子、斉藤陽一、納富進、本田和 男、村上なつ代、児島京子) / 武蔵野美術大 学視覚伝達デザイン学科齋藤研究室	149-5 資 写真 ふわふわドーム (雲の海) 計画: 同 デザイン: 高橋士郎 写真提供: 同	149-5 資 写真 虹のハンモック 計画: 同 デザイン・制作: マッカーダム堀内紀子 写真提供: 同	152 ウルトラマインイラスト / 成田亨 1983 (昭和 58) 年 紙・ペン、水彩 36.5 × 25.7 青森県立美術館蔵	160-2 資 写真 教室内観、学年ごとにデザインが異なる 撮影: 同 160-3 資 写真 教室内観、学年ごとにデザインが異なる 撮影: 同
147-6 千歳船橋冒険遊び場レポート〈パネル〉10 枚組パネル部分 1978 (昭和 53) 年 紙、スチレン 73 × 51 制作: “遊べ!子どもたち” 編集委員会 (木 村文、齋藤啓子、斉藤陽一、納富進、本田和 男、村上なつ代、児島京子) / 武蔵野美術大 学視覚伝達デザイン学科齋藤研究室	150 モエレ沼公園 / マスタープラン: イサム・ノ グチ、監修: イサム・ノグチ財団、ジョージ・ サダオ、設計統括アーキテクトファイブ 北海道札幌市 / 1982-2005 (昭和 57 ~ 平 成 17) 年	150-1 資 写真 プレイマウンテン 撮影: 並木博夫 写真提供: モエレ沼公園	153 ビートル 2 号試作 / 成田亨 1966 (昭和 41) 年 紙・水彩、ペン、鉛筆 25.1 × 33.6 青森県立美術館蔵	160-4 資 写真 中庭 撮影: 同 160-5 資 写真 図書室 撮影: 同 160-6 資 写真 屋根の上には沖縄伝統のシーサ 撮影: 同
148 宮城県中央児童館遊具施設サーキット遊具 / 仙田満 (環境デザイン研究所) 宮城県仙台市 / 1980 年	150-2 資 写真 モエレビーチ 撮影: 同 写真提供: 同	150-3 資 写真 空撮 写真提供: モエレ沼公園	154 ギャング / 成田亨 1966 (昭和 41) 年 紙・ペン、水彩 39.4 × 25.8 青森県立美術館蔵	161 浪合小学校 / 湯澤正信建築設計研究所 長野県下伊那郡 / 1988 年 161-1 資 写真 南側からの校舎外観 撮影: 長澤悟
148-1 資 写真 全景 撮影: 藤塚光政	150-4 資 写真 遊具広場 (オクテトラ) 撮影: 同 写真提供: 同	150-4 資 写真 遊具広場 (オクテトラ) 撮影: 同 写真提供: 同	156 ゼットンイラスト / 成田亨 1966 (昭和 41) 年 紙・ペン、水彩 36.7 × 34.8 青森県立美術館蔵	161-2 資 写真 本館と修学館を結ぶハシロウカ 撮影: 同 161-3 資 写真 ハシロウカ 撮影: 同
148-2 資 写真 南東側スロープ 撮影: 同	150-5 資 写真 遊具広場 (プレイスカulptチャー) 撮影: 同 写真提供: 同	150-6 資 写真 遊具広場 (ジャングルジム) 撮影: 同 写真提供: 同	157 ゾフィーイラスト / 成田亨 1983 (昭和 58) 年 紙・ペン、水彩 36.5 × 25.5 青森県立美術館蔵	161-4 資 写真 オープンスペース学習風景 撮影: 同 161-5 資 写真 教室内の中 2 階 撮影: 同 161-6 資 写真 ラウンジにあるギザギザベンチ 撮影: 同
148-3 資 写真 北東側バンクとラダー 撮影: 同	150-7 イサム・ノグチによる配置スタディ 1:3000 1988 年 5 月 1 日以降 青焼図・鉛筆 59 × 77.3 アーキテクトファイブ蔵	148-4 資 写真 南西側ステージ 撮影: 同		
148-4 資 写真 南西側ステージ 撮影: 同		148-5 資 図面 アクソメ図 画像提供: 環境デザイン研究所		
149 国営昭和記念公園こどもの森 / 高野ランドス ケーププランニング 東京都立川市 / 1984-87 (昭和 59-62) 年				
149-1 資 着彩透視図 ペン・水彩・紙 (複製) 制作: 高野ランドスケーププランニング				

161-7 資 模型 1:300 1989 (平成元) 年 ミクストメディア 88.0 × 62.0 × 35.5 浪合小学校蔵 *青森会場のみ展示	163-3 資 写真 中庭越しに見た小学校教室 撮影: 同 163-4 資 写真 1 年生教室外観: サレジオ型小学教室 の原型 三角屋根の教室と半円形のワークス ペースを組み合わせた 1 軒の家 撮影: 同 163-5 資 写真 5 年生小学教室、サレジオ型小学教室 (内観) / R C+W 造・平家建 / 三方木製サッ シの大開口 / 扇垂木方形化粧小屋組みの下の レクチャースペースと奥のワークスペース 撮影: 同 163-6 資 写真 ワークスペース 撮影: 同 163-7 資 写真 冬の校庭 撮影: 同 163-8 図書室・児童会室椅子 1993 年 木 (ブナ) H50 × D (43.9) × W46.5 椅子のデザイン: 坂本和正 (方園館) サレジオ小学校蔵 163-9 木製三角椅子 1993 年 木 (ブナ) H74.5 (SH42) × D48.8 × W52 椅子のデザイン: 坂本和正 (方園館) サレジオ小学校蔵	165 日本女子大学附属豊明小学校 / 内井昭蔵建築 設計事務所 東京都豊島区 / 1997 年 165-1 資 写真 北から見た校舎外観 撮影: 堀内広治 165-2 資 写真 図書館内中央らせん階段 撮影: 同 165-3 資 写真 オープンタイプのロッカーが備えられ た 2 年生教室内観 撮影: 同 165-4 資 写真 ワークスペース 撮影: 同 165-5 資 写真 赤階段室内観 撮影: 同 165-6 北棟 3 階平面詳細図 1:100 1997 (平成 9) 年 トレーシングペーパー・鉛筆 59.4 × 84.0 内井乃生蔵 165-7 構想スケッチ 1992 (平成 4) - 1995 (平成 7) 年 紙・インク 18.2 × 12.8 制作: 内井昭蔵、内井乃生蔵	166-8 御杖村立御杖小学校 ドローイング (再制作) 紙・ペン 29.7 × 42 制作: 青木淳 167 金山町立明安小学校 / 小沢明建築研究室 計 画指導: 長澤悟 山形県最上郡金山町 / 2002 (平成 14) 年 167-1 資 写真 金山町立明安小学校 観察池越しに見 た校舎 撮影: 篠沢裕 167-2 資 写真 金山町立明安小学校 前面道路から見 たエントランス・ギャラリー、体育館右手に 見えるのは教室棟 撮影: 同 167-3 資 写真 エントランス・ギャラリー 手前に見 えるのは藤江和子氏の造形 (くじらシリーズ No.30 ドラゴン・アイ) 撮影: 同 167-4 資 写真 エントランス・ギャラリー 藤江和子 氏の造形と子どもたち 写真提供: 藤江和子アトリエ 撮影: 古舘克明 167-5 資 写真 パサージュ全景 ワークスペース 撮影: 篠沢裕 167-6 資 写真 ワークスペース学習風景 写真提供: 小沢明建築研究室 167-6 資 写真 ランチルームにおける全校生徒と先生 の食事風景 写真提供: 同 168 内田学園七沢希望の丘初等学校 / 中村勉総合 計画事務所 計画指導: 長澤悟 神奈川県厚木市 / 2008 (平成 20) 年 168-1 資 写真 丘の上に建つ学校の周囲には畑が広が る 写真提供: 中村勉総合計画事務所 168-2 資 写真 グランドから見た南側外観 撮影: 堀内広治 168-3 資 写真 南東側からの校舎外観 傾斜地に既存 樹木を避けながら建つ 撮影: 同 写真提供: 中村勉総合計画事務所 168-4 資 写真 広く使い勝手がよい軒下 撮影: 同 168-5 資 写真 異なる学年が一緒に学ぶ教室 撮影: 同
162 豊岡市立弘道小学校 (旧: 出石町立弘道小学 校) / Team Zoo いるか設計集団、神戸大学 重村研究室 兵庫県豊岡市 / 1991 年 162-1 資 写真 出石町中心から見た遠景 撮影: 中川敦玲、写真提供: 彰国社 162-2 資 写真 グラウンド越しに見た中高年教室棟 撮影: 重村力 162-3 資 写真 体育館屋上から西をのぞむ 撮影: 重村力 162-4 資 写真 低学年サブグラウンド 撮影: 同 162-5 資 写真 ランチルーム屋上のあずまや 撮影: 同 162-6 資 写真 低学年教室学習風景 撮影: 同 162-7 アクソメ図 1991 年頃 紙・ペン 50 × 53 制作: いるか設計集団 162-8 南北軸立断面図 1991 年頃 第二原図 60 × 84 制作: いるか設計集団 162-9 東西軸立断面図 1991 年頃 第二原図 60 × 84 制作: いるか設計集団 162-10 模型 1:100 1991 年 紙、ステレン 85.3 × 158.4 × 49.4 模型制作: いるか設計集団 163 サレジオ小学校 東京都小平市 / 1993 年 163-1 資 写真 サレジオ学園を運動場越しに見る 撮影: 北田英治 163-2 資 写真 小学校全景 撮影: 同	164 千葉市立打瀬小学校 / シーラカンス 計画指 導: 上野淳 千葉県千葉市 / 1995 年 164-1 資 写真 校舎外観 写真提供: シーラカンスアンドアソシエイツ 164-2 資 写真 南からの鳥瞰 撮影: アーバンアーツ 164-3 資 写真 通り抜けの道「バス」 写真提供: シーラカンスアンドアソシエイツ 164-4 資 写真 教室とワークスペース 写真提供: 同 164-5 資 写真 教室内観、天井は木造構造シェル 写真提供: 同 164-6 資 写真 建築と一体計画された学校家具の置 かれたワークスペース 写真提供: 同 164-7 資 写真 中庭 写真提供: 同	166 御杖村立御杖小学校 / 青木淳建築計画事務所 奈良県宇陀郡御杖村 / 1998 (平成 10) 年 166-1 資 写真 全景 撮影: 鈴木心 写真提供: 青木淳建築計画事務所 166-2 資 写真 屋内広場 撮影: 同 写真提供: 同 166-3 資 写真 図書館 撮影: 同 写真提供: 同 166-4 資 写真 廊下 撮影: 同 写真提供: 同 166-5 資 写真 ランチルーム 撮影: 同 写真提供: 同 166-6 資 写真 放送室 撮影: 同 写真提供: 同 166-7 資 写真 廊下 撮影: 同 写真提供: 同	

168-6 資 写真 冬期空調システム概念図 2009 (平成 21) 年 制作: 中村勉総合計画事務所	170 ふじようちえん / 手塚貴晴+手塚由比 (手塚建築研究所) トータルプロデュース: 佐藤可士和 東京都立川市 / 2007 年	172-5 資 写真 遊びの要素を取り入れた階段 撮影: 同 写真提供: 同	175-2 資 写真 「あそび人以外登れない壁」をよじ登って 2 階へ 写真提供: 同
169 東松島市立宮野森小学校 / 盛総合設計+シーラカンス K&H 宮城県東松島市 / 2016 (平成 28) 年	170-1 資 写真 ふじようちえん 遠景 Photo©Kida Katsuhisa / FOTOTECA	172-6 資 写真 明るく心地よいトイレ 撮影: 同 写真提供: 同	175-3 資 写真 2 階 カラフルな「ラーニングちゃぶ台」 写真提供: 同
169-1 資 写真 中庭越しに見た校舎外観 撮影: 浅川敏	170-2 資 写真 園庭の延長となっている屋根 Photo©Kida Katsuhisa / FOTOTECA	172-7 映像 / 阿久根めぐみこども園 2015 年 映像 3 分 41 秒	175-4 資 写真 子どもたちの後ろにある「ナナメいく本棚」は、滑ったりして遊ぶことも 写真提供: 同
169-2 資 写真 教室 撮影: 同	170-3 資 写真 教室内観、庭に面した建具は全開放できる Photo©Kida Katsuhisa / FOTOTECA	173 子ども建築塾 / 写真提供: NPO これからの建築を考える 伊東建築塾 東京都渋谷区 / 2011 年～	175-5 資 写真 秘密基地のようなスペース「今日は一人にさせてください」 写真提供: 同
169-3 資 写真 4 年生総合授業、いかだづくり 写真提供: 東松島市立宮野森小学校	170-4 資 写真 軒先のガーゴイルと雨受け 写真提供: ふじようちえん	173-1 資 写真 建築家が設計した住宅の見学会 写真提供: NPO これからの建築を考える 伊東建築塾	176 養老天命反転地 / 荒川修作+マドリノ・ギンズ 岐阜県養老郡 / 1995 年
196-4 資 写真 音楽室 撮影: 浅川敏	170-5 資 写真 滑り台 写真提供: 同	173-2 資 写真 「みんなのまち」の模型をつくる 写真提供: 同	176-1 資 写真 楕円形のフィールド © 1997 Estate of Madeline Gins. Reproduced with permission of the Estate of Madeline Gins.
169-5 資 写真 体育館 撮影: 同	170-6 模型 1 : 100 2007 年 木・スチレン・紙 93 × 80 × 18 模型制作: 手塚建築研究所	173-3 資 写真 プレゼンテーションの手法を学ぶ 写真提供: 同	176-2 資 写真 陥入膜の径 同
169-6 資 写真 図書室 撮影: 同	171 昭島すみれ幼稚園 / 仙田満 (環境デザイン研究所) 東京都昭島市 / 2011 (平成 23) 年	173-4 資 写真 「みんなの町」の模型をつなげ、先生から意見をもらう 写真提供: 同	176-3 資 写真 運動路 同
169-7 資 写真 暖炉の周囲に集う C.W. ニコル氏と子どもたち 写真提供: シーラカンス K&H	171-1 資 写真 集落のような分棟式園舎 撮影: 藤塚光政	173-5 資 写真 窓模型を用いた実験 写真提供: 同	176-4 資 写真 極限で似るものの家 同
169-8 資 写真 アートプロジェクトバンフレット アートプロジェクト制作指導: 東洋大学理工学部工藤研究室、宮城大学事業構想学群風見研究室、原游 (画家)	171-2 資 写真 屋外回廊でつながれた園棟 撮影: 同	174 とうきょうご近所みちあそびプロジェクト / 一般社団法人 TOKYO PLAY、ふれあいの家 - おぼちゃんち 2010 年	176-5 資 写真 記念館内部 同
169-9 資 写真 パームの部屋 子どもたちが作った妖精が天上近くに見られる 撮影: 浅川敏	171-3 資 写真 木造架構のホール 撮影: 同	174-1 資 写真 ご近所みちあそび (品川区北品川旧東海道宿、2016 年 4 月 10 日) 写真提供: 一般社団法人 TOKYO PLAY	177 彫刻の森美術館「ネットの森」<おくりもの: 未知のポケット 2 > / 手塚貴晴+手塚由比 (手塚建築研究所)、堀内紀子 構造設計: 今川憲英 / TiS & Partners 協力: チャールズ・マッカーダム / インタープレイ・デザイン・アンド・マニュファクチュアリング 神奈川県足柄下郡 / 2009 (平成 21) 年 / 2017 (平成 29) 年
169-10 資 写真 手洗い場 子どもたちが作った妖精が梁の上に見られる 撮影: 同	171-4 資 写真 はとの庭 撮影: 同	174-2 資 写真 ご近所みちあそび (三鷹市 M 三鷹中央通り M-マルシェ、2017 年 5 月 28 日) 写真提供: 同	177-1 資 写真 <おくりもの: 未知のポケット 2 > 彫刻の森美術館 (公益財団法人箱根彫刻の森芸術文化財団) 蔵
169-11 アートプロジェクトのプロトタイプ 2017 年 木・グワッシュ W14 × D6 × H17、 W11 × D7.5 × H10、W21 × D5 × H12、 W7 × D7 × H11.5 アートプロジェクト制作指導: 東洋大学理工学部工藤研究室、宮城大学事業構想学群風見研究室、原游 (画家)	172 阿久根めぐみこども園 / 日比野設計+幼児の城+KIDS DESIGN LABO 鹿児島県阿久根市 / 2015 年	174-3 資 写真 ご近所みちあそび (世田谷区豪徳寺山下商店街、2017 年 11 月 3 日) 写真提供: 同	177-2 資 写真 ネットの森外観 同
169-12 教室および多目的スペース内観模型 1:50 2016 (平成 28) 年 ミクストメディア 43 × 43 × H14.5 模型制作: シーラカンス K&H	172-1 資 写真 遊具の配されたピロティ 撮影: スタジオパウハウス 写真提供: 日比野設計	174-4 資 写真 ご近所みちあそび (世田谷区豪徳寺山下商店街、2017 年 11 月 3 日) 写真提供: 同	177-3 資 写真 <おくりもの: 未知のポケット 2 > 同
	172-2 資 写真 北から見た園舎外観 撮影: 同 写真提供: 同	174-5 資 写真 チョーク みちあそびのアイデア、ビッグ チョーク 直径 2.0 × 高 10.0	177-4 資 写真 <おくりもの: 未知のポケット 2 > 同
	172-3 資 写真 園庭、キッチンと接続するダイニング 撮影: 同 写真提供: 同	175 ただのあそび場 ゴジョーメ / ハバタク / KUMIKI PROJECT 秋田県南秋田郡五城目町 / 2017 (平成 29) 年	
	172-4 資 写真 子ども同士の創造的な遊びが生まれるデン 撮影: 同 写真提供: 同	175-1 資 写真 1 階 「あそび人以外登れない壁」と「やりたい放題ウォール」 写真提供: ハバタク株式会社	

177-4 資 映像 映像 The “Woods of Net” Pavilion is returning 2017 2017 (平成 29) 年 映像 2 分 提供：彫刻の森美術館 制作：株式会社エムアンドビーデザイン	A5 こども遊 風船と縫とり／宮川春汀 1898 (明治 31) 年 大判錦絵 45.0 × 57.2 公文教育研究会蔵	A15 『コドモノート』(表紙絵：岡本帰一) 島田安彦コレクション	A20 『赤とんぼ』1 巻 7 号／実業の日本社 1946 (昭和 21) 年 10 月 雑誌 20.8 × 15.0 島田安彦コレクション
178 くるりの森／谷尻誠＋吉田愛 (SUPPOSE DESIGN OFFICE) 構造設計：東京藝術大学金田研究室 静岡県浜松市 / 2014 年	A6 子供あそび ままこと／山本昇雲 1906 (明治 39) 年 大判錦絵 45.0 × 57.2 公文教育研究会蔵	A16 『のんきな犬さん』(村山壽子著、村山知義画) / ニューフレンド 1948 (昭和 23) 年 書籍 18.1 × 12.7 島田安彦コレクション	A21 『子供の広場』1 巻 4 号／新世界社 1946 (昭和 21) 年 8 月 雑誌 20.5 × 15.0 島田安彦コレクション
178-1 資 写真 全景 撮影：矢野紀行	A7 小供風俗 犬あそび／宮川春汀 1897 (明治 30) 年 大判錦絵 45.0 × 57.2 公文教育研究会蔵	A17 『少年倶楽部』19 巻 2 号 (表紙：齋藤五百枝) / 大日本雄弁会講談社 (講談社) 1932 (昭和 7) 年 2 月 印刷物 22.0 × 15.0 青森県立美術館蔵	A22 『子供の広場』2 巻 2 号／新世界社 1947 (昭和 22) 年 4 月 雑誌 20.5 × 15.0 島田安彦コレクション
178-2 資 写真 遊具としてのくるりの森 撮影：同	A8 小供風俗 かげやとろうくじ／宮川春汀 1897 (明治 30) 年 大判錦絵 45.0 × 57.2 公文教育研究会蔵	A18 大湊町立大湊小学校 (現・むつ市立大湊小学校) / 坂本鹿名夫 青森県むつ市 / 1959 (昭和 34) 年 (現存せず) A18-1 資 写真 校舎外観 (1959 年頃) 写真提供：むつ市教育委員会	A23 『子どもの村』1 巻 4 号／新世界社 1947 (昭和 22) 年 10 月 雑誌 20.9 × 14.8 島田安彦コレクション
178-3 資 写真 北より見る夕景、奥に既存の商業施設が見える 撮影：同	A9 『子供之友』21 巻 8 号 / 婦人之友社 1934 (昭和 9) 年 8 月 雑誌 20.8 × 18.8 島田安彦コレクション	A18-2 資 写真 2 つの円形校舎の間に位置する矩形の体育館 (1959 年頃) 写真提供：むつ市教育委員会 A18-3 資 写真 校舎中央部に位置する螺旋階段 (1959 年頃) 写真提供：むつ市教育委員会	A24 『こども雑誌』1 巻 1 号 / 白鳥書院 1946 (昭和 21) 年 7 月 雑誌 20.8 × 14.8 島田安彦コレクション
179 ベタボー / 発案：隈太一、製造：クラレファスニング 2017 年 面ファスナー	A10 『子供之友』22 巻 12 号 / 婦人之友社 1935 (昭和 10) 年 12 月 雑誌 20.6 × 18.5 島田安彦コレクション	A18-4 資 写真 音楽室 扇形の弧に沿って椅子が並べられ、中央にピアノ、黒板が配されている (1959 年頃) 写真提供：むつ市教育委員会 A18-5 資 写真 教室 (1959 年頃) 写真提供：むつ市教育委員会	A25 『銀河』3 巻 4 号 / 新潮社 1948 (昭和 23) 年 4 月 雑誌 20.8 × 14.8 島田安彦コレクション
来館者参加プレイコーナー「ベタボーの空」 2018-2019 会場：パナソニック汐留ミュージアム、青森県立美術館 協力：伊藤建築塾 子ども建築塾 OB-OG およびティーチング・アシスタント、サポート：太田浩史	A11 『子供之友』23 巻 6 号 / 婦人之友社 1936 (昭和 11) 年 6 月 雑誌 20.8 × 18.8 島田安彦コレクション	A18-6 模型 1:200 1959 (昭和 34) 年 ミクストメディア むつ市教育委員会蔵	A26 『銀河』4 巻 1 号 / 新潮社 1949 (昭和 24) 年 1 月 雑誌 20.8 × 14.8 島田安彦コレクション
[青森会場でのみの出品作品資料]	A12 『子供之友』23 巻 8 号 / 婦人之友社 1936 (昭和 11) 年 8 月 雑誌 20.8 × 18.8 島田安彦コレクション	A18-7 「円い学校」お別れ会 式典要項 1997 (平成 9) 年 11 月 印刷物 むつ市教育委員会蔵	A27 『光の子供』2 巻 5 号 / 香柏書房 1948 (昭和 23) 年 5 月 雑誌 20.8 × 14.8 島田安彦コレクション
A1 色図 / 作者不詳 1874 (明治 7) 年 大判錦絵 57.2 × 45.0 公文教育研究会蔵	A13 『子供之友』25 巻 1 号 / 婦人之友社 1938 (昭和 13) 年 1 月 雑誌 20.8 × 18.8 島田安彦コレクション	A18-8 「円い学校」お別れ会記念児童文集 1997 (平成 9) 年 印刷物 むつ市教育委員会蔵	A28 『光の子供』5 巻 2 号 / 光の子供社 1951 (昭和 26) 年 2 月 雑誌 20.8 × 14.8 島田安彦コレクション
A2 知恵の孝四方の読み込み 三 / 作者不詳 明治時代 大判錦絵 57.2 × 45.0 公文教育研究会蔵	A14 『コドモノート』(表紙絵：岡本帰一) 島田安彦コレクション	A19 『赤とんぼ』7 月号 / 実業の日本社 1946 (昭和 21) 年 7 月 雑誌 20.8 × 15.0 島田安彦コレクション	
A3 A4 幼稚園教育遊双六 / 梅堂小国政 1892 (明治 25) 年 木版多色刷 110.4 × 79.4 公文教育研究会蔵			

- A29
『童話教室』6月号／桐書房
1948（昭和23）年6月
雑誌
20.8×14.8
島田安彦コレクション
- A30
『ぎんのすず 1、2年用』7巻5号／ぎんのすず
1947（昭和22）年4月
雑誌
24.0×17.3
島田安彦コレクション
- A31
『児童百科事典』第1巻、第2巻、第3巻、第4巻、第5巻、第6巻／平凡社
1951（昭和26）～1952（昭和27）年
書籍
26.0×20.0
青森県立図書館
- A32
『11 びきのねこ ふくろのなか』(p.4-5)／馬場のぼる
1982（昭和57）年
紙・リトグラフ
48.0×63.0
こぐま社蔵
- A33
『11 びきのねこ ふくろのなか』(p.6-7)／馬場のぼる
1982（昭和57）年
紙・リトグラフ
48.0×63.0
こぐま社蔵
- A34
『11 びきのねこ ふくろのなか』(p.8-9)／馬場のぼる
1982（昭和57）年
紙・リトグラフ
48.0×63.0
こぐま社蔵
- A35
『11 びきのねこ ふくろのなか』(p.14-15)／馬場のぼる
1982（昭和57）年
紙・リトグラフ
48.0×63.0
こぐま社蔵
- A36
『11 びきのねこ ふくろのなか』(p.16-17)／馬場のぼる
1982（昭和57）年
紙・リトグラフ
48.0×63.0
こぐま社蔵
- A37
『11 びきのねこ ふくろのなか』(p.18-19)／馬場のぼる
1982（昭和57）年
紙・リトグラフ
48.0×63.0
こぐま社蔵
- A38
『11 びきのねこ ふくろのなか』(p.20-21)／馬場のぼる
1982（昭和57）年
紙・リトグラフ
48.0×63.0
こぐま社蔵
- A39
『11 びきのねこ ふくろのなか』(p.22-23)／馬場のぼる
1982（昭和57）年
紙・リトグラフ
48.0×63.0
こぐま社蔵
- A40
こどもとしゃかんのごあんない／日比谷図書館発行
1973（昭和48）年
印刷物
14.8×22.2
個人蔵
- A41
かし出しけん／日比谷図書館発行
1973（昭和48）年以降
印刷物
12.8×9.0
個人蔵
- A42
『わたしのワンピース』(p. 6-7)／西巻茅子
1969（昭和44）年
紙・リトグラフ
48.0×63.0
個人蔵
- A43
『わたしのワンピース』(p. 14-15)／西巻茅子
1969（昭和44）年
紙・リトグラフ
48.0×63.0
個人蔵
- A44
『わたしのワンピース』(p. 17)／西巻茅子
1969（昭和44）年
紙・リトグラフ
20.0×21.5
個人蔵
- A45
『わたしのワンピース』(p. 20-21)／西巻茅子
1969（昭和44）年
紙・リトグラフ
48.0×63.0
個人蔵
- A46
『わたしのワンピース』(p. 23)／西巻茅子
1969（昭和44）年
紙・リトグラフ
20.0×21.5
個人蔵
- A47
教文館子どもの本のみせ ナルニア国
東京都中央区／開設年：1999（平成11）年
A47-1 資
写真 20周年を迎えたナルニア国店内の様子（2019年）
写真提供：教文館子どもの本のみせ ナルニア国
A47-2 資
写真 店内併設のホールでは2ヶ月毎に内容を変え、自主企画の展覧会を行っている（2019年）
写真提供：教文館子どもの本のみせ ナルニア国
A47-3 資
写真 竣工当時の教文館ビル（1933年頃）
写真提供：教文館子どもの本のみせ ナルニア国
- A48
四次元の宇宙人 立体試作／成田 亨
1988（昭和63）年
石膏
個人蔵
- A49
ケムール人／成田 亨
1999（平成11）年
石膏粘土
個人蔵
- A50
ガラモン立像／成田 亨
1999（平成11）年
石膏粘土
個人蔵
- A51
ガラダマ／成田 亨
1999（平成11）年
FRP
個人蔵
- A52
《holes and buildings》／金氏徹平×山田晋平×青柳いつみ
2015（平成27）年
プロジェクションマッピング

掲載記事

東奥日報

2019年6月14日

小学校舎の変遷たどる 来月から県美で「建築と空間展」

2019年7月27日

時代とともに変わる学校 子どものための建築と空間展

2019年8月5日

「子どものための建築と空間展」板倉 容子
上 小学校、私立学校の誕生

2019年8月6日

「子どものための建築と空間展」板倉 容子
中 戦後の大量建設の中で

2019年8月7日

「子どものための建築と空間展」板倉 容子
下 児童雑誌や図書

2019年8月10日

「建築と空間展」5千人 三枝聡文ちゃん（茨城）に記念品

2019年8月10日

青森県立美術館 青木淳さんらトーク はらっぱのような空間に

2019年8月24日

「建築と空間展」1万人 阿保君（青森）に記念品 県美

陸奥新報

2019年6月28日

学びの場 変遷の歴史 来月27日から県美 写真や模型でたどる

北鹿新聞

2019年8月15日

イベント散歩「子どものための建築と空間展」紹介

毎日新聞

2019年9月8日

先駆的の学校建築模型などで紹介 県立美術館

青森EARTH2019：いのち耕す場所 — 農業がひらくアートの未来

開催概要

2019年10月5日(土) - 12月1日(日)

休館日：10月15日(火)、28日(月)、11月11日(月)、25日(月)

開催日数：54日間

主催：青森 EARTH2019 展実行委員会（青森テレビ、青森県観光連盟、青森県立美術館）

協力：安藤昌益資料館、青い森鉄道、JR東日本青森商業開発

後援：NHK 青森放送局、青森ケーブルテレビ、八戸テレビ放送、エフエム青森、東奥日報社、陸奥新報社、デーリー東北新聞社、北鹿新聞社、青森県教育委員会、八戸市教育委員会、五所川原市教育委員会

観覧料

一般：1,500 (1,300) 円、高大生：1,000 (800) 円

小中学生観覧無料

※ () 内は前売および20名以上の団体料金

※障がい者手帳をご提示の方とその付添者1名は無料。

※常設展観覧料を含まず。

総入場者数

5,944人

関連企画

1. オープニングパフォーマンス

日時：10月5日(土) 13:00 - 13:45

場所：青森県立美術館 展示室

出演：オル太 (アーティストコレクティブ/出展作家)

入場料：無料

参加者数：21人

2. 連続講座「美術館堆肥化計画」【青森県立美術館サポートシップ倶楽部共催事業】

日時：10月13日(日) ① 10:00 - 12:00 ② 13:30 - 16:30 (※)

11月16日(土) ③ 13:30 - 16:30

11月17日(日) ④ 11:00 - 12:00 ⑤ 13:30 - 16:30

11月30日(土) ⑥ 13:30 - 16:30

※①は台風19号の接近に伴い11月16日(土) 10:00 - 12:00に延期。②は⑤に含め開催。

場所：全てワークショップAを中心に展示各所で実施

講師：

①石渡博明 (安藤昌益の会事務局長)

②⑤安藤昌益勉強会

③東千茅 (農耕者/雑誌『つち』主宰)、森元斎 (哲学者)

④山内輝雄 (農家/「昌益村」村長)

⑥オル太、榎木野衣 (美術批評家)、山内明美 (歴史社会学者)、豊島重之 (演出家/故人)

入場料：無料

参加者：① 10人 ③ 27人 ④ 8人 ⑤ 12人 ⑥ 69人

3. 担当学芸員によるギャラリートーク

日時：① 10月6日(日) 14:00 - 15:00

② 12月1日(日) 14:00 - 15:00

場所：青森県立美術館 展示室

講師：奥脇嵩大 (青森県立美術館学芸員)

入場料：無料 (当日有効の本展観覧券が必要)

参加者：① 20人 ② 27人

展覧会カタログ

「青森 EARTH2019：いのち耕す場所 — 農業がひらくアートの未来」

A4 縮小変形サイズ 184頁

編集：奥脇嵩大

執筆：浅野友理子 (画家/出展作家)、東千茅、雨宮庸介 (アーティスト/出展作家)、安藤昌益 (医師/農の思想家)、岩名泰岳 (画家/出展作家)、江渡狄嶺 (思想家)、遠藤水城 (インディペンデント・キュレーター)、奥脇嵩大、片岡龍 (東アジア思想史家)、榎木野衣、白取克之 (岩木山麓しらとり農場主)、丹羽良徳 (アーティスト/出展作家)、リ・ビンユアン (アーティスト/出展作家)、胡昉 (小説家/キュレーター)、森元斎 (哲学者)、山内明美

デザイン・造本設計：

大西正一

印刷：株式会社ライブ

アートブックス

発行：青森県立美術館

発行日：

2019年10月31日



ポスター



展示風景（撮影：大西正一）

食料生産や定住生活の礎—農業。有史以来のその営みは、人の命を養うとともに環境破壊の遠因であり、人間が大地に在ることの最も深い部分に根ざした矛盾といえる。人間・社会・自然の境界を分かち、時に交わらず農業は、様々な芸術活動におけるインスピレーション源であり続けてきた。

本展は、そんなアンビバレンツな農業にふれることから生まれた、様々な近現代の芸術作品を紹介するものである。青森の大地に根ざした新たなアートを探求する「青森 EARTH」企画シリーズに位置付けられ、大地を耕す（形作る）農業を手がかりに、大地とアートの関係の根を太くするとともに、大地からの自由を獲得するアートの可能性を問うことを狙いに構成された。「セクション1：ひと玉の林檎から」では、青森の林檎農業への深い関心から生まれた雨宮庸介の「普遍的な林檎」の形とイメージを追い求める意志を表象させるインスタレーション作品を紹介し、芸術と現実の間で制作の可能性を拡張することを試みた。「セクション2：土と心とを耕しつつ『農民芸術』いまむかし」では、イギリスのジョン・ラスキンや五戸出身の江波狄嶺の文学作品、青森の画家／農家の常田健や自らの地元に根ざした作品制作を追求する岩名泰岳の絵画作品、それら一切を未来につなげる役割として THE EUGENE Studio によるインスタレーション作品や青森の農具を紹介。「農民芸術」（宮沢賢治）を基点に、農業と作品制作の関係を未来に問いかけた。「セクション3：透きとおる農地で」では、丹羽良徳とり・ビンユアンの映像作品をとおして農地所有の制度への芸術上の介入を試み、特に近代以降社会に絡めとられ、複雑化していく農業と芸術の今を紹介するとともに、それらを支える構造について考える契機とした。「セクション4：共に生きることの先へ」では、青森の子どもたちの生活実感に根ざした共同制作による教育版画作品

と協働を主題とした田中功起の映像作品を並置。現実の複雑さに消耗するばかりではない、人が他者とともに世界と向き合う回路としての場を立ち上げた。「セクション5：いのちの根、満ちる大地」では、近世青森の医師にして「農の思想家」安藤昌益の言葉や農業が抱え込む矛盾構造を手がかりとして現代アーティストの オル太、久保寛子、塚本悦雄、浅野友理子、大小島真木+アグロス・アートプロジェクト、三原聡一郎の作品を紹介した。展覧会全体をとおして農業と芸術の交わり「いのち耕す場所」をつくるとともに、そこに現れる複雑さや曖昧な領域が制作をとおして止揚されることを促し、その結果として生まれた「アートの未来」を、青森の大地に足をつけた形で発信することになった。

総じて本展は、首都圏でのブロックバスター型の現代アート展とは全く異なる質を有し、青森でしか成立しない現代アートの可能性を検証し、開拓する機会と捉えることができる。県内外の現代アートに関心の高い若い世代に加え、近代美術ファンや「ローカルライフ」「スローライフ」を志向する幅広い世代の観覧者から内容を評価し、巡回や続編を期待する声を多く聞くことができた。また本展には2017年度から2018年度にかけて美術館で開催した米づくりとアート体験を同時に行う事業「アグロス・アートプロジェクト 明日の収穫」で、大小島真木と県民が制作した巨大絵画作品の出品があったことから、地元の注目度も高いものであった。展覧会カタログにおいても農業をオルタナティブな立場から独自に展開する県内農家へのインタビューや安藤昌益の研究者による最新論考、国際的に活躍するキュレーターによる企画担当者との往復書簡形式のエッセイなどを含む構成が、アート関係者を中心に話題となった。

出品作品

セクション1：ひと玉のりんごから

- 01
雨宮庸介
りんご（普遍性）2019
2019
林檎の木材、油彩
りんご（実物大）
作家
- 02
雨宮庸介
林檎と普遍性について
2019
ミクストメディア
サイズ可変
個人、作家
データサイエンス：三上航人

セクション2：土と心とを耕しつつー「農民芸術」いまむかし

- 03
青森県の農具「マドリ」
(収集地：三戸郡新郷村 *3点中1点は不明)
不詳
木
青森県立郷土館
- 04
裂織コタツがけ
(収集地：三戸郡倉石村)
不詳
布
157.0 × 150.0
青森市教育委員会
- 05
江渡狄嶺
或る百姓の家
1922
書籍
個人
- 06
江渡狄嶺
土と心とを耕しつつ
1924
書籍
個人

- 07
江渡狄嶺
地涌のすがた
1939
書籍
個人
- 08
月館金治
「農乗嘸文 農乗曼荼羅」〔狄嶺研究会
第二集〕
1977
冊子
個人
- 09
ジョン・ラスキン
オックスフォード大学生の道路修繕のスケッチ
(出典：『東京ラスキン協会雑誌（第3巻第6
号）』)
1933
雑誌（合本）
30.0 × 49.7
ラスキン文庫
- 10
ジョン・ラスキン
庭のデザイン（3点）
不詳
紙、インク
12.4 × 9.0、8.2 × 8.0、10.0 × 11.5
ラスキン文庫
- 11
ジョン・ラスキン
塵の倫理
1866
書籍
ラスキン文庫
- 12
ジョン・ラスキン
セント・ジョージ・ギルドの目的と性質につ
いて
1882
冊子
ラスキン文庫
- 13
ジャン＝フランソワ・ミレー
種をまく人
1851
紙、リトグラフ
19.1 × 15.6
山梨県立美術館
- 14
ジャン＝フランソワ・ミレー
耕す人
1855 - 56
紙、エッチング
23.7 × 33.7
山梨県立美術館

- 15
ジャン＝フランソワ・ミレー
落ち穂拾い（第二版）
1855 - 56
紙、エッチング
19.0 × 25.2
山梨県立美術館
- 16
ジャン＝フランソワ・ミレー
肥料を取り込む農夫
1855 - 56
紙、エッチング
16.3 × 13.3
山梨県立美術館
- 17
ジャン＝フランソワ・ミレー
ひるね
不詳
紙、木炭
17.7 × 30.3
山梨県立美術館
- 18
常田健
ひるね
1939
麻布、油彩
80.3 × 100.0
常田健 土蔵のアトリエ美術館
協力：常田健記念財団
- 19
常田健
田打ち
1980年代
麻布、油彩
73.0 × 94.0
常田健 土蔵のアトリエ美術館
協力：常田健記念財団
- 20
常田健
稗とり
1978
麻布、油彩
80.3 × 100.0
常田健 土蔵のアトリエ美術館
協力：常田健記念財団
- 21
常田健
稲刈り
1950
麻布、油彩
144.0 × 225.0
常田健 土蔵のアトリエ美術館
協力：常田健記念財団

- 22
常田健
ジェット機の下
1970
麻布、油彩
91.0 × 65.2
常田健 土蔵のアトリエ美術館
協力：常田健記念財団
- 23
常田健
寒い夏
1983
麻布、油彩
90.0 × 116.0
常田健 土蔵のアトリエ美術館
協力：常田健記念財団
- 24
常田健
りんご園の中のアトリエ
不詳
麻布、油彩
38.0 × 45.5
常田健 土蔵のアトリエ美術館
協力：常田健記念財団
- 25
THE EUGENE Studio
Drawing: Model room (for Agricultural
Revolution 3.0)
2016
銅
240.0 × 190.0
作家
- 26
THE EUGENE Studio
Agricultural Revolution 3.0 Appendix
2017
書籍
作家
- 27
岩名泰岳
村の講
2017
カンヴァス、油彩
65.2 × 53.0
作家
協力：タグチファインアート
- 28
岩名泰岳
蜜の木
2014
カンヴァス、油彩
41.0 × 38.0
タグチファインアート

29 岩名泰岳 道標 #01 2018-19 カンヴァス、油彩 130.3 × 97.0 作家 協力：タグチファインアート	35 十和田市立三本木小学校 5 年生（指導：高山真行） 杉の子農園でのトウモロコシの収穫 1985 紙、木版 91.0 × 182.0 五所川原市教育委員会	42 東北町立美須々小中学校 全年（指導：小川敏雄 他） 版画カレンダー「開拓夜話」 1990 紙、木版 各 54.0 × 39.0 (12 点組) 五所川原市教育委員会	セクション 5：いのちの根、満ちる大地 49 オルタ 耕す家 2019 ミクストメディア サイズ可変 作家 50 久保寛子 現代農耕文化の仮面 2013（一部 2019） ミクストメディア（農業に使用する道具など） サイズ可変 作家 51 塚本悦雄 AMoA 0-107 2019 テラコッタ 作家 52 塚本悦雄 AMoA 108 2019 大理石 作家 53 浅野友理子 焚き火までの眠り 2019 パネルに和紙、油彩、岩絵の具、水干絵具 131.0 × 98.0 作家 54 浅野友理子 理想の農園 2019 パネルに和紙、油彩、岩絵の具、水干絵具 200.0 × 300.0 作家 55 大小島真木+アグロス・アートプロジェクト 明日の収穫 2017 - 18 帆布、アクリル絵の具、米絵の具、藍染料、綿布、糸 4650.0 × 9860.0 作家
セクション 3：透きとおる農地で 30 リ・ビンユアン 自由耕種 2014 HD ヴィデオ（シングルチャンネル / 5 分 2 秒）、土地証明書 サイズ可変 作家 31 丹羽良徳 土地所有権に催眠をかける 2019 HD ヴィデオ（3 チャンネル / 各 28 分 55 秒） サイズ可変 作家	36 青森市立横内小学校 6 年生（指導：戎幸子） 横内の四季 りんご園の実づくり作業 1976 紙、木版 92.0 × 182.0 五所川原市教育委員会 37 十和田市立南小学校 5 年生（指導：藤谷芳雄） 赤沼部落のりんご園 1978 紙、木版 90.0 × 180.0 五所川原市教育委員会 38 横浜町立豊栄平小学校 烏帽子平分校 4-6 年生（指導：酒井勝人） 私達の村 1957 紙、木版 90.0 × 180.0 五所川原市教育委員会	43 五所川原市立南小学校 6 年生（指導：藤田明夫 他） 版画誌「津軽新田物語」 1977 紙、木版 25.5 × 36.0 個人 44 五所川原市立金木小学校 大東ヶ丘分校 4-6 年生（指導：高橋恭子） 版画誌「大東ヶ丘開拓」 1970 紙、木版 30.0 × 45.0 五所川原市教育委員会 45 八戸市立湊中学校養護学級生徒（指導：坂本小九郎） 虹の上を飛ぶ船・総集編（1） 1975 紙、木版 各 90.0 × 181.0（4 点組） 五所川原市教育委員会 46 八戸市立湊中学校養護学級生徒（指導：坂本小九郎） 虹の上を飛ぶ船・総集編（2） 1976 紙、木版 各 90.0 × 181.0（4 点組） 五所川原市教育委員会 47 上北郡六戸町立昭陽小学校 6 年生（指導：中嶋崇） 黒土が消えるとき 1978 紙、木版 各 61.0 × 92.0（12 点中、現存する 8 点を展示） 五所川原市教育委員会 48 田中功起 ひとつの陶器を五人の陶芸家を作る（沈黙による試み） 2013 HD ヴィデオ（シングルチャンネル / 75 分）、陶器 4 点 サイズ可変 東京国立近代美術館	
セクション 4：共に生きることの手 32 つがる市立車力小学校 6 年生（指導：佐藤洗生） 車力農業史 1973 紙、木版 25.0 × 2880.0 個人 33 六ヶ所村立鷹架小学校 5 年生（指導：高橋典生） 牧場 1969 紙、ドライポイント 24.0 × 35.0 五所川原市教育委員会 34 六ヶ所村立鷹架小学校 6 年生（指導：高橋典生） 農村 1969 紙、ドライポイント 27.0 × 37.0 五所川原市教育委員会	39 佐井村立佐井小学校 1-2 年生（指導：沢田温子） 私たちは こんな川目をつくりたい 1960 紙、紙版 90.0 × 180.0 五所川原市教育委員会 40 東北町立第一小学校 3 年生（指導：田中央子） 版画カレンダー「いっしょうけんめいつくった農産物」 1990 紙、木版 各 55.0 × 39.0 (12 点組) 五所川原市教育委員会 41 十和田市立法典小学校 5 年生（指導：新井山一） 版画カレンダー「米づくりの一年」 1986 紙、木版 各 55.0 × 39.0 (12 点組) 五所川原市教育委員会		

(野外展示)

56

三原聡一郎

余地

2019

土 (滞在制作中に集めた様々な表土及び市民

との共同作業によるコンポスト * 期間: 2019

年 5-9 月)、ヒバ

サイズ可変

作家

協力: 国際芸術センター青森

京都芸術センター制作支援事業

掲載記事

【新聞】

東奥日報

2019年9月5日(木)
農業テーマのアート 県美で「青森 EARTH」展 来月5日から

2019年10月5日(土)
県美「青森 EARTH」展 農業の豊かさアートのきょう開幕

2019年11月4日(月)
“りんご娘「頑張る農・漁業者に思い」…9日午後1時半から青森市の県立美術館で開催中の農業をテーマにした企画展とのコラボイベント”

2019年11月13日(水)
“感動と記憶の関係を探る 県内3美術施設で実験…鑑賞した美大生たちの声「企画展の最初にリンゴの作品を置くなど、東京ではできない青森ならではの展示”

2019年11月14日(木)
寄稿 青森県美「青森 EARTH2019」展(奥脇嵩大)

陸奥新報

2019年9月19日(木)
アートと農業感じて 県美で来月5日から企画展 新作中心、農具展示も

2019年11月7日(木)
“りんご娘「0と1の世界」リリース…9日には青森市の県立美術館で、開催中の企画展に関連したイベントを開く”

デーリー東北

2019年9月29日(日)
農業との関わり 芸術に 青森県立美術館 来月5日から 企画展

河北新報

2019年10月5日(土)
青森の農業題材映像や版画展示 県立美術館・きょうから

北鹿新聞

2019年10月10日(木)
イベント散歩 青森 EARTH2019 いのち耕す場所 - 農業がひらくアートの未来 紹介

新美術新聞

2019年11月11日(月)
寄稿 青森県美「青森 EARTH2019」展(奥脇嵩大)

【雑誌】

月刊ギャラリー 10月号

2019年10月1日(火)
今月の展覧会 青森 EARTH2019 紹介

Seoul Art Guide 10月号

2019年10月1日(火)
What's up in Japan 青森 EARTH2019 紹介

あおもり草子 261号

2019年10月1日(火)
青森 EARTH2019 展 紹介

芸術新潮 11月号

2019年10月25日(金)
全国展覧会情報 青森 EARTH2019 紹介

地域創造レター 11月号

2019年10月25日(金)
青森 EARTH2019 紹介

NYLON JAPAN 12月号

2019年10月28日(月)
kiki's ART TRIPPER 青森 EARTH2019 紹介

教室とおうちを結ぶ音のゆうびん vol.130

2019年10月31日(木)
“大小島真木+アグロス・アートプロジェクト作品「明日の収穫」展示紹介”

すばる 12月号

2019年11月4日(月)
展評
保坂健二郎(東京国立近代美術館主任研究員)

ポパイ 12月号

2019年11月9日(土)
青森 EARTH2019 展 紹介

『美術の窓 11』

2019年11月20日(水)
話題の展覧会 青森 EARTH2019 紹介

【web】

ART iT

2019年9月18日(水)
青森 EARTH2019 紹介

美術手帖

2019年10月2日(水)
EXHIBITIONS「青森 EARTH2019 紹介」

2019年10月18日(金)
“農業が拓くアートの未来。「青森 EARTH 2019」が青森県立美術館で開催”

2019年11月30日(土)
“農業から見えるこの国の課題。保坂健二郎 評「青森 EARTH2019：いのち耕す場所」”

artscape

2019年11月15日(金)
オススメ展覧会「青森 EARTH2019」

弘前経済新聞

2019年11月27日(水)
“「青森 EARTH2019：いのち耕す場所」企画展 アートとしての農業を楽しむ”

令和元年度コレクション展 Permanent Exhibition 2019

通年展示

展示室 F、G：奈良美智《Puff Marshie》《Hula Hula Garden》
国内外で活躍する青森県出身の美術作家・奈良美智（1959 - ）は、挑むような目つきの女の子の絵や、ユーモラスでありながらどこか哀しげな犬の立体作品などで、これまで若い世代を中心に、多くの人の心をとらえてきた。青森県立美術館では、開館前の1998年から、絵画やドローイングなど、奈良美智作品の収集を始めました。現在、170点を超えるそのコレクションの多くは、奈良が1988年から2000年まで滞在したドイツで生み出されたものである。今年度は、当館がほこる奈良美智の90年代のコレクションを中心に、《Puff Marshie（パフ・マーシー）》（2006年）や《Broken Heart Bench（ブローケン・ハート・ベンチ）》（2008年）など、作家からの寄託作品も展示した。

アレコホール：マルク・シャガールによるバレエ「アレコ」の舞台背景画

青森県立美術館の中心には、縦・横21m、高さ19m、四層吹き抜けの大空間が設けられています。アレコホールと呼ばれるこの大きなホールには、20世紀を代表する画家、マルク・シャガール（1887 - 1985）によるバレエ「アレコ」の背景画が展示されている。青森県は1994年に、全4作品から成るバレエ「アレコ」の舞台背景画中、第1幕、第2幕、第4幕を収集した。これらの背景画は、帝政ロシア（現ベラルーシ）のユダヤ人の家庭に生まれたシャガールが、第二次世界大戦中、ナチス・ドイツの迫害から逃れるため亡命していたアメリカで「バレエ・シアター（現アメリカン・バレエ・シアター）」の依頼で制作したものである。大画面の中に「色彩の魔術師」と呼ばれるシャガールの本領が遺憾無く発揮された舞台美術の傑作である。

残る第3幕の背景画《ある夏の午後の麦畑》は、アメリカのフィラデルフィア美術館に収蔵され、長らく同館の西側エントランスに展示されていたが、このたび同館の改修工事に伴い、4年間の長期借用が認められることになった。青森県立美術館での「アレコ」背景画全4作品の展示は、2006年の開館記念で開催された「シャガール『アレコ』とアメリカ亡命時代」展以来である。背景画全4作品が揃ったこの貴重な機会に、あらためてシャガールの舞台美術作品の魅力を広く伝えていった。

アレコ特別鑑賞プログラム

高さ約20メートルの大ホールに展示された「アレコ」背景画に舞台用の照明をあて、音楽とともにバレエのステージを彷彿とさせる演出を加えながら、作品制作の背景、バレエのストーリーなどをナレーションで紹介する約15分間の鑑賞プログラムを、開館中、定時で上映した。

上映時間：① 10:30 - ② 12:00 - ③ 13:30 - ④ 15:00 -

コレクション展 I

2019年3月9日(土) - 7月7日(日)

【特集展示】デザインあれこれ

展示室 N | 棟方志功のパッケージデザイン

棟方志功展示室 | 棟方志功の装飾性

棟方志功は、1928年から美術団体に版画を出品するようになり、版画家として評価されつつあった一方で、版画でなければできない表現とは何かを模索し続けていく。そして「版画は何か普通の絵とは違う、だから絵であらわせぬものをつくらなければならないとだけ思っていました。(中略)絵を模様化することが一番の版画への早道ではないかと思ったのです。」(『版画の道』1956年)という考えに至り制作したのが「萬朶譜」(1935年)である。「萬朶譜」は棟方作品の中では、「いろは板画欄」(1952年)、「柳緑花紅頌」(1955年)とあわせて、人体表現によらない装飾的要素の強い系列の代表的な三作品といわれている。本展示では、この三作品を中心に、棟方の追求めた装飾性が遺憾なく発揮された作品を紹介した。

また、棟方の装飾性を支えていたのは、棟方に備わっている天性のバランス感覚とデザイン力であった。棟方がデザインしたものは、本の装幀、ポスター、舞台の緞帳、包装紙など多岐にわたっているが、その中から主に郷里・青森に関係した資料を中心に紹介した。

展示室 P、Q | 田澤茂：鬼と仏と故郷と

田舎館村に生まれた田澤茂は、仏教、神話、民話、妖怪や鬼などの日本的な題材や、化粧地蔵など、故郷の津軽の風土に根ざした土着性を感じさせるような作品を数多く描いている。その作風は、アンフォルメル運動の隆盛期に試みられたパラフィンを用いた抽象的な手法から、戦後関わりつつけた子供のための絵画教室や漫画・イラストなどとも関連づけられる童画的な手法、古美術の引用など、多様で自在な展開をみせている。

土着的・伝統的な題材をもちいながら、奔放なユーモアと創造性に富んだ田澤の表現の根底にあるのは、善悪・明暗すべての要素を含む人間の様々な生や感情への関心である。鬼や仏、魍魎魍魎や菩薩といった題材は、田澤にとって人間の生の実相と救いへの希求を日本の歴史、故郷の民俗の中でとらえるための端的な主題であった。今回は、その中でも晩年に至るまで精力的に制作された大作を中心に展示した。

展示室 M | 菊池敦己のブックデザイン

菊池敦己は、青森県立美術館のVI(ヴィジュアルアイデンティティ)計画を担当するアートディレクター/グラフィックデザイナーである。美術館全体の体験をイメージとして伝達していくことを意図してデザインされたシンボルマークやロゴタイプ、サイン等は美術館の建物や周囲の環境と調和しながら独自の景色を作り出し、開館以来多くの来館者に親しまれている。菊池は、美術やファッション、建築などの分野のグラフィックデザインを多く手がける他、グラフィックデザインそのものを

考察する作品制作や発表も行っている。

今回の展示では、2000(平成12)年にウェブデザイナー/ミュージシャンの斎藤寿大とともに設立した「ブルーマーク」の主要な活動の一つであった新進作家の作品集出版や雑誌のアートディレクション、また、様々な美術館からの依頼により制作された展覧会カタログ等出版物のブックデザインの仕事を、近年、当館に寄贈いただいた資料を中心に紹介した。

展示室 L | ブナコ：光・音・形をデザインする

BUNACOは、日本一の蓄積量を誇る青森県のブナの木を有効利用するため、1956年、青森県工業試験場場長城倉可成氏と石郷岡啓之介の共同研究により開発された独自の製法による木工品である。

その製法はブナの原木をかつらむきの原理で約1mmの厚さにスライスし、テープ状にカットにしたものを巻き重ねたのち、湯飲み茶碗などの道具を使い、押し出して成型するというもの。熟練の職人たちによって作られる製品は、割れや歪みなどの狂いが少なく、従来ではできなかった形状が可能のため、デザイナーとのコラボレーションによるスタイリッシュな製品を数多く発表している。1963年にブナコ漆器製造株式会社が設立されて以来、BUNACOの製品は1966年に県内企業初の通産省選定グッドデザイン商品(Gマーク)に選定されるなど、国内外でさまざまな賞を受賞しているが、最近ではBUNACO SPEAKER designed by nendoが、インダストリアルデザインが社会に寄与する質の高い製品を選定する2018年のJIDAデザインミュージアムセレクションvol.20に選定されている。今回はBUNACO SPEAKER designed by nendoをはじめ、照明器具や食器、ティッシュボックスなど代表的な製品を展示した。

展示室 J、K | 石井康治：詩・季・彩

青森の自然を愛し、北国の四季を彩り豊かなガラス作品にうつしとった石井康治。石井は自身の創作について「色ガラスを用いて自分のイメージを詩のような感じで作りたい」と語り、そのテーマを「詩・季・彩」という言葉で表している。その言葉のとおり、それぞれの作品は、彼の愛した青森の四季を謳う一篇の詩のように私たちに語りかけてくる。

1991年、現在県立美術館が建つ場所に程近い、青森市内に工房を構えた石井は、96年に急逝するまで、この地で精力的にガラスの素材と技法について研究を重ね、青森の四季と風土にインスピレーションを受けた独自の造形を次々と生み出していった。

石井の創作は、ドローイングやデッサンなどで身近な自然を写生することからはじまる。そして工房で熱したガラスを中空の棹に巻き取り、息を吹き込んで膨らませ、そこに選び抜いた色彩を溶着させ、最終的なかたちを作っていく。自然、そしてガラスという素材に向き合い、対話を重ねながら、繊細な感性と優れた造形感覚を研ぎ澄ませ、その確かな手の技によって、石井は、青森の自然を、ガラスに映える光と流れる色彩にうつしとっていったのだ。

今回は、青森の自然が最も華やぐ春から爽やかな初夏、そして

鮮烈な夏へとうつろ季節をイメージさせる作品を紹介した。

*前期（～5/12）、後期（5/14～）で展示替を行った。



石井康治〈テーブルランプ〉1996年 吹きガラス
青森県立美術館寄託 撮影：大堀一彦

展示室I | 成田亨：鬼と怪獣

成田亨（1929 - 2002）は、「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」という初期ウルトラシリーズのヒーロー、怪獣、宇宙人、メカをデザインし、日本の戦後文化に大きな影響を与えた彫刻家兼特撮美術監督。

成田は神戸市に生まれ、直後に青森県へ移り住む。旧制青森中学（現：青森高等学校）在学中に画家・阿部合成と出会い、絵を描く技術よりも「本質的な感動」を大切に考える方を、さらに彫刻家の小坂圭二から対象物の構造や組み立て方、ムーブマンを重視する方法論を学んだ後、武蔵野美術学校（現武蔵野美術大学）西洋画科へと進学。当初は油彩画を専攻していたが、「地面から立ち上がるようなデッサンを求める」（成田）ため3年次に彫刻科へ転科。具象性を維持しつつもフォルムを自在に変容させ、動的かつ緊張感ある構成を作り上げていくという成田芸術の基礎がここで形づくられていった。

武蔵野美術学校研究科に在籍していた1954年、成田は人手の足りなかった「ゴジラ」の製作に参加、そこで円谷英二と出会い、以降特撮美術の仕事も数多く手がけるようになる。

1965年、東宝撮影所で円谷英二と再会し、「怪獣のデザインはすべて自分がやる」という条件のもと「ウルトラQ」の2クールから制作に参加、以降「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」までのシリーズに登場するヒーロー、怪獣、宇宙人、メカニック等のデザインを手がける。放映に際し、「これまでにないヒーローの形を」という脚本家・金城哲夫の依頼を受けた成田は、ウルトラマンのデザインを純粋化という「秩序」のもとに構築し、対する怪獣のデザインには変形や合成といった「混沌」の要素を盛り込んでいく。

美術家としての高い感性によってデザインされたヒーロー、怪獣は、モダンアートの成果をはじめ、文化遺産や自然界に存在

する動植物を引用して生み出される形のおもしろさが特徴。誰もが見覚えのあるモチーフを引用しつつ、そこから「フォルムの意外性」を打ち出していくというその一貫した手法からは成田の揺らぐことのない芸術的信念を読み取ることができる。

展示室H | テラヤマ：ジャパン・アヴァンギャルド

寺山修司（弘前市出身／1935 - 83）は県立青森高等学校時代、「俳句」によって表現活動をはじめ、早稲田大学進学後は「短歌」の世界へ、その後凄まじいスピードでラジオ、テレビ、映画、そして競馬やスポーツ評論の世界を駆け抜けていったマルチアーティスト。1967年には「演劇実験室◎天井桟敷」を立ち上げ、人々の旧来的な価値観に揺さぶりをかけ、さらには多岐にわたる活動の中、美術、デザイン、音楽といった様々なジャンルで新しい才能を発見し、育てていったことも特筆すべき業績の一つと言えるだろう。

1960～70年代はいわゆるアングラ文化が全盛の時代。高度成長によって近代化が急速に進む一方、社会的な構造と人間の精神との間に様々な歪みが生じ、そうした近代資本主義社会の矛盾を告発するかのよう権力や体制を批判、従来の価値観を否定していく活動が盛んとなっていった。特に寺山は大衆の興味や関心をひきつける術に特異な才能を発揮していく。演劇や実験映画ではそれが顕著で、演劇、映画のあらゆる「約束事」が否定され、感情や欲望を刺激するイメージで覆い尽くされた寺山の斬新な作品は多くの人々を虜にしていったのだ。

今回は、寺山が主宰したアングラ文化の象徴とも言うべき「演劇実験室◎天井桟敷」のポスター18点を紹介した。

コレクション展 II

2019年7月13日(土) - 9月8日(日)

【特集展示】美術の中の子どもたち

展示室 N | 棟方志功 善知鳥(青森)を遊び場に

棟方志功 1903年(明治36年)9月5日青森市生まれ。善知鳥神社から徒歩100メートルもない門前に生まれた。「私を育てた時が、所が、何時、何処にあってもあの境内が私の身体に附いている様なものだ。」と記すほど毎日のように境内を遊び場にして育てている。神社の祭りの際に掲げられる色とりどりの牡丹の花が描かれた大きな灯籠からは、自然とは別な、絵としての自然を生まれさせるという「嘘で表せねば表せない真実」を悟っている。この「花の絵」ではなく「絵の花」を描くという棟方曰く「胸中花(きょうちゅうか)」の世界は、生涯にわたって生き生きと自由闊達に描かれることになる。また、棟方は青森の古名ともされる“善知鳥”について「私は今でも、此の名、善知鳥をそのまゝ善知鳥市でありたかった。」と特別な想いを寄せていく。棟方が版画の道を歩み始めた1938年(昭和13年)、青森を舞台にした謡曲「善知鳥」を題材にした《勝鬘譜善知鳥 版画曼荼羅(しょうまんふうとうはんがまんだら)》で、版画では官展初の特選を受ける快挙を成し遂げた。

善知鳥、不動尊図、合浦公園、八甲田、神鷹、ねぶた、沢瀉(おもだか)、ゴッホ…72年間の生涯のうち、油絵画家をめざし21歳で上京するまで過ごした青森での少年～青年期におけるこれらのキーワードは、板画家として“世界のムナカタ”となり活躍するようになってからも作品中でたびたび表出する。青森時代の出来事は棟方の創作の柱の一つとなっていった。また、今回の特集に合わせ、棟方志功が描いた“こども”もあわせて紹介した。

展示室 N、M | 美術の中の子どもたち

絵画のなかで子どもは様々な描かれ方をしている。純粹で愛らしい天使のような存在として。画家の大事な家族の一員として。母と子の結びつきの中で。あるいは希望にみちた未来の象徴として。洋の東西問わず、子どもは美術の重要なモチーフの一つと言える。

このコーナーでは、青森県出身の美術家たちの作品から、「子ども」が描かれている作品を紹介した。洋画からは阿部合成がメキシコで目にした親子の姿にキリスト教の聖母子の姿を重ねた作品や、田澤八甲が身近な子ども達の姿をあたたかく、ユーモラスに描いた作品、松木満史が日常の生活の中にとらえた少年・少女を描いた作品。さらに今純三が昭和初年の青森県を100枚の石版画として描き、印刷して頒布された「青森県画譜」から、当時の子どもの姿がうかがえる考現学的な作品を。日本画からは大志を胸にいざ羽ばたかんとする若者を描いた工藤甲人の「青雲」や、大正～戦前期を中心に活躍した野澤如洋、薦谷龍岬、高橋竹年が愛らしい子どもや子犬を描いた作品。また、邪気を払う神であり、子どもの守り神として端午の節句に人形が飾られる鍾鬼(鍾馗)や、謡曲に登場する不老不死の水を飲

んだ少年(「菊侍童」)など、和漢の画題にあらわれた子どもに関連する主題を描いた作品を展示した。多様な表現を通じ、さまざまな視点から描かれた美術のなかの子どもたちの姿を紹介した。



田澤八甲《緑の陰》制作年不詳 キャンバス・油彩

コレクション展 Ⅲ

2019年9月13日（金）－12月15日（日）

展示室 J、K | 【特集展示】 尼崎市コレクションによる白髪一雄の世界 ～初期水彩画からアクション・ペインティングまで

共催：尼崎市

1954（昭和29）年、兵庫県芦屋市の吉原治良のアトリエに集まった若い画学生たちによって具体美術協会が結成される。吉原治良の「今までになかった絵をかけ」という言葉により、既成概念にとらわれない表現や行為を展開し、戦後の日本美術に大きな足跡を残していく。白髪一雄はこの具体美術協会の重要メンバーとして活躍した、戦後日本を代表する美術家である。京都市立絵画専門学校（現京都市立芸術大学）時代には日本画を学んだ白髪であるが、油絵具特有の粘性・展性に魅力を感じて洋画に転向。その油絵具の流動感に端を発し、大画面で制作しようという意欲が相まって、天井から吊り下げたロープにつかまり、床に置いたキャンパスの上を滑るようにして絵具をのばしていく「フット・ペインティング」を手がけるようになる。自由奔放な身体表現の可能性を追求したこれらエネルギー的な作品群は、日本におけるアクション・ペインティングの先駆として、国内外で高い評価を受けている。

本特集展示は白髪の出生地である尼崎市の協力を得て、同市が所蔵する貴重なコレクションをとおして、その画業の歩みを振り返るものである。京都市立絵画専門学校の卒業前後に描かれた、故郷尼崎や大阪、京都、神戸の風景を描いた初期の貴重な水彩画から、アクション・ペインティング以前の1949（昭和24）～1953（昭和28）年に描かれた半抽象的作品、そして1954（昭和29）年から晩年まで精力的に制作が続けられたアクション・ペインティングに至る計36点の作品により、白髪芸術の展開とその特質を紹介した。

○関連トーク・イベント「アクション・ペインター白髪一雄の世界」

講師：平井章一氏（関西大学教授）

日時：11月9日（土）14:00 - 15:30

会場：ワークショップ A



白髪一雄（大威徳尊）1973年 キャンバス・油彩 尼崎市蔵

棟方志功展示室 | 青森の土に生まれ

棟方志功の画業の原点はネブタや凧絵であり、故郷の四季の移り変わりであった。棟方は画家を目指して上京して以来青森に住むことはなかったが、郷土への愛は非常に強かった。今の自分があるのは、青年期まで過ごした故郷・青森が育ててくれたお陰だという強い思いがあり、それに対する感謝からの郷土愛だったのだろう。青森の風土という土着的なものに根ざした棟方の感性は、細身の女性を描くのではなく健康でたくましい女性を画面に多く登場させていった。また、棟方は人物の身体に模様を描き入れることが多くあった。それはまるで縄文を思わせるような模様であり、そこから派生したと考えられる人体への装飾的な描き込みであった。青森へ思いを馳せることで縄文の造形に至ったのかも知れない。棟方の世界の中心は青森であった。恐らく日本の何処にいても、或いは外国にいても八甲田山、岩木山、よく写生に訪れた合浦公園、子供の頃の遊び場だった善知鳥神社などを思い浮かべていたのではないだろうか。今回の展示では故郷を思い、心の赴くままに描いた風景や、祈りを込めた作品などを紹介した。

展示室 N、M | 工藤甲人 夢と覚醒のはざまに

1915（大正4）年、弘前の農家に生まれた工藤甲人は、19歳になる年に画家を志して上京。働きながら画学校に通う一方、洋画を志す画友を通してシュルレアリスムなど西洋美術の新たな潮流にも触れながら制作に励み、公募展に入選を果たす。しかし、道半ばで戦争により二度の召集を受け、またそれまでに描いた作品は戦禍により失われてしまう。

復員後、故郷で農作業に従事しながら再出発を期すなかで、戦前から敬愛していた先輩画家、福田豊四郎の誘いを受け、「創造美術」に出品をはじめ。「創造美術」は、「我等は世界性に立脚する日本絵画の創造を期す」という宣言の下、新しい日本画の創造を目指す若手の作家たちが中心となって1948年に結成された団体であった。その後工藤は、「創造美術」から「新制作協会」「創画会」を舞台に活動を続け、戦後の日本画を代表する作家の一人となっていった。

2007年、青森県立美術館が開催した回顧展「工藤甲人展 夢と覚醒のはざまに」に、工藤は次のようなメッセージを寄せている。『「夢」はつまり幻想、あるいはイメージの事であり絵を描く上重要ですが、それだけでは絵は描けない場合が多く、「覚醒」とは夢とは反対で、いわば現実、つまり自然の中に夢を解放して新しい自分の世界を芸術にする事が私にとっての「夢と覚醒」であるのです』

こうした夢と覚醒のはざまに生まれた工藤の作品世界を紹介した。

展示室 O | 工藤哲巳 鳥籠 / 養殖 / 遺伝染色体

工藤哲巳は、1935年に五所川原出身の画家工藤正義の長男として生まれ、戦後の日本美術に新しい流れをつくった「反芸術」のホープとして活躍。東京芸大卒業後、1962年パリに渡り1987年に東京芸術大学教授となり帰国するまでの20数年間、ヨーロッパの閉塞した社会を自ら「社会評論の模型」と呼んだショッキングな表現方法による作品で挑発し続けていく。

今回の展示では、工藤がヨーロッパで注目され、活躍の場をひろげていった1960年代後半から、1970年代末までの作品をとりあげた。これらの作品で、工藤は分断された身体が鳥籠や水槽の中に飼育されることにより、西欧ヒューマンイズムのよってたつ「人間の尊厳」の解体と「人間の自由」の虚妄を表現し、テクノロジーの終着点である放射能や環境汚染のはて、溶解し変容した人間と自然や機械とが「放射能による養殖」によって共生する悪夢のような未来像を提示している。そして70年代終わりには、遺伝染色体に刻み込まれた運命に支配される人間のわずかな抵抗であるかのように、籠の中で糸をつむぎ、瞑想する頭部を制作するようになっていった。

東日本大震災に象徴される人間の脆弱さと制御不能なテクノロジーの恐怖を予言するかのような工藤哲巳の仕事は、21世紀にはいつから再評価が進み、フランス、アメリカ、日本、ドイツで回顧展が開催されるなど、さらなる注目を集めている。工藤が提示した「あなたの肖像」は、いまなお切実に私たちに突きつけられているのだ。

展示室 P、Q | 村上善男、その画業とコレクション

東北の地に根をはり、東北の風土と一貫して向き合い続けた美術家村上善男。1950年代後半から活動を開始し、1960年代には注射針を画面に無数貼り付けた作品、さらには計測器具、新聞、各種統計図等にあられる数字を構成した作品で高い評価を得た村上は、1970年代に入って気象図や貨車をモチーフにした作品へと展開し、1982年以降は弘前市を拠点に活動を続け、古文書を裏返して貼り込んだ上から、あたかも釘を打つように白い点を描き、点と点を結ぶ「釘打図」を数多く手がけていった。時代を追うごとにその画業は大きく展開したが、緻密な計算による画面構成と抑制の効いた色彩を持つ理知的な作風が、村上芸術の一貫した特徴と言える。形式的な伝統主義を越え、東北の磁場を自己に引きつけ、北の風土が持つ土俗性や民俗的要素の探求を続けた村上の作品群を紹介した。

また今回の展示では村上が長年にわたって収集を続けたコレクションも一堂に公開。20世紀美術にもっとも大きな影響を与えたマルセル・デュシャン、星条旗や数字、アルファベット等を描き、その形や絵の具そのものの物質性に着目させることで戦後美術の流れを変えたジャスパー・ジョーンズ、さらにはアントニ・タピエス、アルマン、ハンス・ベルメールといった海外作家の作品に加え、村上が師と仰いだ岡本太郎、戦後日本美術の代表的作家である荒川修作、粟津潔、猪熊弦一郎、岡本信治郎、菅井汲、前田常作といった美術家の作品が多数含まれているこのコレクションは、村上作品の芸術的特質を検証していく上でも一級の資料と言えるだろう。

展示室 I | 現実を超えて：成田亨と高山良策

彫刻家成田亨と画家高山良策は、『ウルトラQ』、『ウルトラマン』、『ウルトラセブン』における怪獣デザインとその造型の仕事によって広く知られている。一見すると彫刻家のデザインを画家が立体化するという関係性は、逆転した役回りのようだが、この異色のコラボレーションをとおして、レッドキングやメフィラス星人など人気の高い怪獣や宇宙人を次々と生み出していった。

成田亨のウルトラ怪獣の着想源は、自然界に存在する事象や、モダンアートなど多岐にわたる。成田は怪獣をデザインするにあたり、自然界に存在する動植物など既存のイメージを引用しながらも、それらが本来的にもつ意味やバランスといった関係性を無視し接合、抽象化することにより、意外性のあるフォルムを追求していく。その創作方法は、互いにはなれた事象の出会いの効果によって思いがけない関係性を生み出すシュルレアリスムの技法、コラージュを想起させるとともに、想像上の生き物としての怪獣が元来もつ自然界との神秘的な結びつきを感じさせるものと言えよう。

一方、成田の怪獣デザインを造形化したことで知られる高山良策は、日本にシュルレアリスムを移植した福沢一郎に師事し、美術文化協会を舞台に画家としての活動を開始。以降、山下菊二や中村宏らとともにシュルレアリスム的な表現に社会風刺を織り交ぜたボルタージュ絵画を制作し、後年は、異形の間人像や不可思議なオブジェなどが画面を支配する独自の幻想絵画へと到達する。こうした前衛画家としての高山の姿勢は、怪獣造形の仕事においても反映されているようであり、敗北者としての悲哀や愛敬にあふれたその怪獣造形は“高山怪獣”として、半世紀近い時を経た今もなお多くの人々を魅了し続けている。このコーナーでは、成田亨による怪獣デザイン原画と、シュルレアリスム的な幻想性や抽象性を感じさせる高山良策の絵画作品を紹介した。

展示室 H | 種牛は^{わら}何う：豊島弘尚とグループ「新表現主義」の画家たち

「新表現主義」は県ゆかりの画家・豊島弘尚が同世代の芸術家4名（のち8名）と東京で結成したグループ展の名称である。1957年の第1回展以降、途中「新表現」と名を変え1985年の第9回展まで開催された。前衛芸術の性質を「絶えざる価値概念の変革」と捉え、それを「カラ回り」「観念のみの遊戯」として批判し、自らの「内発の声」に従い制作を始めようとするその姿勢は、同郷の工藤哲巳らが代表格とされた「反芸術」の動向や関西の「具体美術協会」などとは一線を画し、80年代を席卷した「ニュー・ペインティング」の動向をも先取りするような独自の芸術活動と言えよう。

今回はそんな「新表現主義」の画家の中から豊島を軸に、当館所蔵の針生鎮郎、松本英一郎（いずれも1960年からグループに参加）による作品を紹介した。身体への志向を画面上に再構成し、「種子」や「北欧」をめぐる想像をもとに未見の大地を絵画空間に現出させた豊島。鮮烈な色彩に基づく土俗性を感じさせる画面を追求した針生。「平均的肥満体」シリーズから出発し、身体のフォルムと絵画空間の交差からやがて独自の風景画を志向、「花と雲と牛」シリーズとして展開させた松本。三者の表現は各自の内面から発するものに依拠しながらも、絵画空間の構成においてはどこか響き合うものがあるだろう。そうして彼らの「新表現主義」という連帯から生まれた作品は、当時日本の芸術が、土着や前衛をはじめとする様々な動向を内に含んだ「沃野」的な様相を示していたことを改めて伝えてくれる。そうして芸術の明日を拓こうとした作品たちから今、何を見出し、次の表現として培うべきか。可能性はいつ・どこにでも大口を開けて私たちを待っている。

コレクション展 IV

2019年12月21日(土) - 2020年3月15日(日)

展示室 A + B | 野坂徹夫展 うたがはじまる

青森県立美術館の支援団体「青森県立美術館サポートシップ倶楽部」との共催により、青森県上北郡野辺地町出身の画家・野坂徹夫(1949-)の展覧会を開催した。野坂は詩的で繊細な水彩画の作家として知られているが、精妙なグラデーションに彩られた静謐な色彩と、切り詰められた簡素な形態による表現は、モーツァルトの音楽のような、至純の響きを感じさせる。CDのジャケットや本の装幀なども幅広く手がけている画家のおよそ30年間の仕事から、水彩、コラージュ、立体など代表的な作品を紹介した。

展示室 C | 成田亨：鬼と怪獣

成田亨(1929-2002)は、「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」という初期ウルトラシリーズのヒーロー、怪獣、宇宙人、メカをデザインし、日本の戦後文化に大きな影響を与えた彫刻家兼特撮美術監督。

成田は神戸市に生まれ、直後に青森県へ移り住む。旧制青森中学(現：青森高等学校)在学中に画家・阿部合成と出会い、絵を描く技術よりも「本質的な感動」を大切にすることを、さらに彫刻家の小坂圭二から対象物の構造や組み立て方、ムーブマンを重視する方法論を学んだ後、武蔵野美術学校(現武蔵野美術大学)西洋画科へと進学。当初は油彩画を専攻していたが、「地面から立ち上がるようなデッサンを求める」(成田)ため3年次に彫刻科へ転科。具象性を維持しつつもフォルムを自在に変容させ、動的かつ緊張感ある構成を作り上げていくという成田芸術の基礎がここで形づくられていった。

武蔵野美術学校研究科に在籍していた1954年、成田は人手の足りなかった「ゴジラ」の製作に参加、そこで円谷英二と出会い、以降特撮美術の仕事も数多く手がけるようになる。

1965年、東宝撮影所で円谷英二と再会し、「怪獣のデザインはすべて自分がやる」という条件のもと「ウルトラQ」の2クールから制作に参加、以降「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」までのシリーズに登場するヒーロー、怪獣、宇宙人、メカニック等のデザインを手がける。放映に際し、「これまでにないヒーローの形を」という脚本家・金城哲夫の依頼を受けた成田は、ウルトラマンのデザインを純粋化という「秩序」のもとに構築し、対する怪獣のデザインには変形や合成といった「混沌」の要素を盛り込んでいく。

美術家としての高い感性によってデザインされたヒーロー、怪獣は、モダンアートの成果をはじめ、文化遺産や自然界に存在する動植物を引用して生み出される形のおもしろさが特徴。誰もが見覚えのあるモチーフを引用しつつ、そこから「フォルムの意外性」を打ち出していくというその一貫した手法からは成田の揺らぐことのない芸術的信念を読み取ることができる。

棟方志功展示室、N | 棟方志功のターニングポイント

棟方志功は自分の板画作品名の多くに、「~の柵」という文字

を使った。「柵」という単語を『広辞苑』で引くと、①土地の境界・区画などに設けるかこい。②古代、東北の辺境に設けられた城郭。と書かれている。この「柵」について棟方は自著『板極道』の中で次のように説明する。「わたくしの「柵」はそういう意味ではありません。(途中略)一作ずつ、一生の間、生涯の道標をひとつずつ、そこへ置いていく。作品に念願をかけておいていく。柵を打っていく、そういうことで「柵」というのを使っているのです。この柵は、どこまで、どこまでもつづいて行くことでしょう。際々無限に。」このように棟方は画家としての果てしない道程(みちのり)を、生涯をかけて歩いていくことになった。その道中には幾多の分かれ道があり、棟方はその都度、様々な挑戦を試みながら自己の行くべき道を選び、柵を打ち、ひたすら前へ進み続けた。棟方の画業においてターニングポイントとなった作品を、それ以前の作品と合わせて紹介した。

展示室 H、I、J、K、L、M、N、O、P、Q、(B2F) E | 【特別企画】ローカルカラーは何の色?一写真家・向井弘とその時代一

1931(昭和6)年香川県に生まれた向井弘は、戦後に移り住んだ青森県南津軽郡大鰐町で写真店を営む傍ら、1960年代から2000年代にかけて、地元青森を拠点に写真家として活躍した。向井の活動の主軸となったのは、写真の仲間とともに作った同人誌『イメージ・IMAGE』(以下『イメージ』)の発行である。1972年から1985年まで、全20号刊行されたこの同人誌の目的は、当時全国に点在した写真グループや自主ギャラリーがそうであったように、東京を中心とする写真業界や写真雑誌が強いシステムや価値観から解放された、独自の発表媒体を持つことだった。それは同時に、「ローカルカラー」として「中央」から一方的に押し付けられる地方の写真の固定的なイメージに対する、地方に生きる写真家たちの抵抗であり、また写真の未知の可能性への挑戦でもあった。

「なぜ津軽を撮るとき、小島一郎の『津軽』と、内藤正敏の『婆バクハツ!』の二つのパターンしか写らないのか」、「もう一つの津軽は可能か!」、と『イメージ』中心メンバーの一人、原田メイゴは問いかける。

ご遺族のもとに残された向井弘の写真や資料を核としながら、『イメージ』同人、彼らと交流をもった県外の写真家たち、さらには同郷の巨星、小島一郎や澤田教一の写真も合わせて展示し、青森の写真家たちに引き継がれてゆく問題意識から日本の戦後写真史の一面を照らし出した。

出品作家:

(イメージ同人) 向井弘、原田メイゴ、赤川健太郎、塚本義則、木村正一、木村勝憲、伊藤俊幸
(関連写真家) 秋山亮二、柳沢信、沼田つよし、小島一郎、澤田教一

トークイベント

会場：青森県立美術館展示室内

① 原田メイゴ×向井渉

2019年12月21日(土) 14:00 - [約1時間]

イメージュ同人で、編集の中心を担っていた大鰐町出身の写真家・原田メイゴ氏と、向井弘の次男で写真家の向井渉氏に、向井弘の写真家としての歩みや『イメージュ』の成り立ち、同人たちの目指したものについて話をうかがった。

② 伊藤俊幸×沼田つよし

2020年1月13日(月・祝) 14:00 - [約1時間]

青森市出身の写真家で『イメージュ』第17号から参加し、1980年代以降の多くの向井弘の撮影に同行した伊藤俊幸氏と、青森市出身で晩年の向井と交流を持った写真家の沼田つよし氏に、後半期の向井の写真活動や関心事について話をうかがった。

※本展は芸術文化振興基金の助成事業として実施された。

青森県立美術館 コレクション展 2019-4
WHAT COLOR IS THE "LOCAL COLOR"?
PHOTOGRAPHER MURAKI HIROSHI AND HIS CONTEMPORARIES

2019年
12月21日
(土)

2020年
3月15日
(日)

開演時間
9:30-17:00

会場
青森県立美術館

観覧料
2019年以前発行 300円
2020年1月1日〜2月28日
200円(中学生以下
半額)

主催
青森県立美術館
協賛
青森県立大学 2000円
青森県立中央大学 2000円
青森県立芸術文化振興基金
青森県立美術館 協賛
青森県立中央大学 協賛
青森県立芸術文化振興基金 協賛

ローカルカラーは何の色?
—写真家・向井弘とその時代—

青森県立美術館
AOMORI MUSEUM OF ART

学芸

美術資料収集

美術資料貸出状況

作品保存修復

凡例

- 1 「美術資料収集」における作品データは、作家名、作品名、制作年、寸法（高さ×縦×横、cm）、技法、収集区分の順に記した。
- 2 「美術資料貸出状況」における作品データは、作家名、作品の順に記した。

美術資料収集

令和元年度収集美術資料

秋山 亮二
「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ
(紅白幕をくぐる2人の来賓)
1975-77 (撮影)
ゼラチン・シルバー・プリント
37.0 × 37.0 (イメージ) /
54.4 × 44.5 (ペーパー)

秋山 亮二
「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ
(林檎畑の前の警官 弘前市)
1975-77 (撮影)
ゼラチン・シルバー・プリント
37.0 × 37.0 (イメージ) /
54.4 × 44.5 (ペーパー)

秋山 亮二
「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ
(ガソリン・スタンドの一角 弘前市)
1975-77 (撮影)
ゼラチン・シルバー・プリント
37.0 × 37.0 (イメージ) /
54.4 × 44.5 (ペーパー)

秋山 亮二
「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ
(市長とのお茶会 黒石市)
1975-77 (撮影)
ゼラチン・シルバー・プリント
37.0 × 37.0 (イメージ) /
56.0 × 45.7 (ペーパー)

秋山 亮二
「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ
(三農協合併記念祝賀式 旧平賀町)
1975-77 (撮影)
ゼラチン・シルバー・プリント
37.0 × 37.0 (イメージ) /
54.4 × 44.5 (ペーパー)

秋山 亮二
「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ
(パレードで信号待ちをする婦人自衛官 弘前市)
1975-77 (撮影)
ゼラチン・シルバー・プリント
37.0 × 37.0 (イメージ) /
56.0 × 45.7 (ペーパー)

秋山 亮二
「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ
(市長を囲んだ成人式記念撮影 黒石市)
1975-77 (撮影)
ゼラチン・シルバー・プリント
37.0 × 37.0 (イメージ) /
56.0 × 45.7 (ペーパー)

秋山 亮二
「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ
(デパートで結婚式を挙げたカップル 弘前市)
1975-77 (撮影)
ゼラチン・シルバー・プリント
37.0 × 37.0 (イメージ) /
54.4 × 44.5 (ペーパー)

秋山 亮二
「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ
(旧制高校の同窓会 弘前市)
1975-77 (撮影)
ゼラチン・シルバー・プリント
37.0 × 37.0 (イメージ) /
54.4 × 44.5 (ペーパー)

秋山 亮二
「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ
(東京から父を迎えた日の記念撮影 弘前市)
1975-77 (撮影)
ゼラチン・シルバー・プリント
37.0 × 37.0 (イメージ) /
56.0 × 45.7 (ペーパー)

秋山 亮二
「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ
(農協合併十周年の式典 弘前市)
1975-77 (撮影)
ゼラチン・シルバー・プリント
37.0 × 37.0 (イメージ) /
54.4 × 44.5 (ペーパー)

秋山 亮二
「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ
(美しく頼りがいのある津軽の女性 弘前市)
1975-77 (撮影)
ゼラチン・シルバー・プリント
37.0 × 37.0 (イメージ) /
56.0 × 45.7 (ペーパー)

秋山 亮二
「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ
(名を呼ばれる料理学校の晴の卒業生 弘前市)
1975-77 (撮影)
ゼラチン・シルバー・プリント
37.0 × 37.0 (イメージ) /
56.0 × 45.7 (ペーパー)

秋山 亮二
「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ
(駅頭の県会議長 弘前市)
1975-77 (撮影)
ゼラチン・シルバー・プリント
37.0 × 37.0 (イメージ) /
54.4 × 44.5 (ペーパー)

秋山 亮二
「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ
(ダンス競技会の結果発表を待つ若者)
1975-77 (撮影)
ゼラチン・シルバー・プリント
37.0 × 37.0 (イメージ) /
56.0 × 45.7 (ペーパー)

秋山 亮二
「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ
(農協発足で「新農協の歌」を斉唱した中学生)
1975-77 (撮影)
ゼラチン・シルバー・プリント
37.0 × 37.0 (イメージ) /
54.4 × 44.5 (ペーパー)

秋山 亮二
「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ
(城址公園で開かれた市長主催の野点 弘前市)
1975-77 (撮影)
ゼラチン・シルバー・プリント
37.0 × 37.0 (イメージ) /
56.0 × 45.7 (ペーパー)

秋山 亮二
「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ
(県林檎移出商協連組合員大会 青函連絡船内)
1975-77 (撮影)
ゼラチン・シルバー・プリント
37.0 × 37.0 (イメージ) /
54.4 × 44.5 (ペーパー)

秋山 亮二
「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ
(東京からきたミス・モンロー 深浦町)
1975-77 (撮影)
ゼラチン・シルバー・プリント
37.0 × 37.0 (イメージ) /
54.4 × 44.5 (ペーパー)

秋山 亮二
「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ
(叙勲・受賞合同記念祝賀会の主賓たち 五所川原市)
1975-77 (撮影)
ゼラチン・シルバー・プリント
37.0 × 37.0 (イメージ) /
54.4 × 44.5 (ペーパー)

秋山 亮二
「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ
(集団厄払いの日 五所川原市)
1975-77 (撮影)
ゼラチン・シルバー・プリント
37.0 × 37.0 (イメージ) /
56.0 × 45.7 (ペーパー)

秋山 亮二
「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ
(連帯する地元名士たち 弘前市)
1975-77 (撮影)
ゼラチン・シルバー・プリント
37.0 × 37.0 (イメージ) /
54.4 × 44.5 (ペーパー)

秋山 亮二
「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ
(農協結成十周年記念式典 弘前市)
1975-77 (撮影)
ゼラチン・シルバー・プリント
37.0 × 37.0 (イメージ) /
54.4 × 44.5 (ペーパー)

秋山 亮二
「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ
(市長選立候補者取材する記者たち 弘前市)
1975-77 (撮影)
ゼラチン・シルバー・プリント
37.0 × 37.0 (イメージ) /
54.4 × 44.5 (ペーパー)

秋山 亮二
「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ
(理容競技大会のモデル 弘前市)
1975-77 (撮影)
ゼラチン・シルバー・プリント
37.0 × 37.0 (イメージ) /
54.4 × 44.5 (ペーパー)

秋山 亮二
「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ
(城址公園で話す二人の老人 弘前市)
1975-77 (撮影)
ゼラチン・シルバー・プリント
37.0 × 37.0 (イメージ) /
54.4 × 44.5 (ペーパー)

秋山 亮二
「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ
(ネブタ祭り 青森市)
1975-77 (撮影)
ゼラチン・シルバー・プリント
37.0 × 37.0 (イメージ) /
54.4 × 44.5 (ペーパー)

秋山 亮二
「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ
(夜の繁華街の客 弘前市)
1975-77 (撮影)
ゼラチン・シルバー・プリント
37.0 × 37.0 (イメージ) /
56.0 × 45.7 (ペーパー)

秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (ネプタの若者 弘前市) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 54.4 × 44.5 (ペーパー)	秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (散歩するふたり 弘前市) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 54.4 × 44.5 (ペーパー)	秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (デパート前で展開する交通安全のキャンペーン) プリント制作年 2020年 ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 56.0 × 45.7 (ペーパー)	秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (地元から誕生したT国務大臣を迎えて 田舎館村) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 56.0 × 45.7 (ペーパー)
秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (町の芸妓さん 大館町) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 54.4 × 44.5 (ペーパー)	秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (郷土料理研究会での試食 青森市) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0cm (イメージ) / 54.4 × 44.5cm (ペーパー)	秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (ダンスホールの元県議会議員 青森市) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 54.4 × 44.5 (ペーパー)	秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (老人ホームに慰問にきた東京の花魁たち 弘前市) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 54.4 × 44.5 (ペーパー)
秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (小学校に入学した娘 弘前市) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 56.0 × 45.7 (ペーパー)	秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (県林橋試験場の林橋樹 黒石市) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 56.0 × 45.7 (ペーパー)	秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (料理品評会でピーマンの肉詰めを見つめる青年) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 54.4 × 44.5 (ペーパー)	秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (公民館に集った老人クラブのメンバー) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 56.0 × 45.7 (ペーパー)
秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (准看護学院の戴帽式 弘前市) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 56.0 × 45.7 (ペーパー)	秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (「斜陽館」を訪れた東京の編集者たち 旧金木町) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 54.4 × 44.5 (ペーパー)	秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (ロータリー・クラブの会合 弘前市) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 56.0 × 45.7 (ペーパー)	秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (初心者社交ダンス講習会 碓ヶ関村) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 54.4 × 44.5 (ペーパー)
秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (失業中の青年 弘前市) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 56.0 × 45.7 (ペーパー)	秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (家庭菜園の一家 弘前市) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 54.4 × 44.5 (ペーパー)	秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (三上寛著作集出版記念の宴 青森市) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 54.4 × 44.5 (ペーパー)	秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (「出稼ぎ者健康診断」会場) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 54.4 × 44.5 (ペーパー)
秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (案山子の警官) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 56.0 × 45.7 (ペーパー)	秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (ビール壺を持つ少女 弘前市) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 54.4 × 44.5 (ペーパー)	秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (女性芸術研究会の2人 弘前市) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 54.4 × 44.5 (ペーパー)	秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (職安での季節労働者募集) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 54.4 × 44.5 (ペーパー)
秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (天皇在位五十年奉祝大会 青森市) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 54.4 × 44.5 (ペーパー)	秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (秋の刈り取り 弘前市) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 54.4 × 44.5 (ペーパー)	秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (3人の消防団員 弘前市) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 56.0 × 45.7 (ペーパー)	秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (長男誕生日の十和田湖畔への遠足 旧十和田湖町) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 56.0 × 45.7 (ペーパー)
秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (T先生当選 青森市) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 56.0 × 45.7 (ペーパー)	秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (地元出身の元横綱を囲む会) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 54.4 × 44.5 (ペーパー)	秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (アーケード完成を祝す商店主たち) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 54.4 × 44.5 (ペーパー)	

秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (青年団「年忘れ・独りぼっちよサヨナラ大会」 藤崎町) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 54.4 × 44.5 (ペーパー)	伊藤 二子 (無題) 2006 アクリル絵具・キャンバス 96.5 × 162.0	伊藤 二子 (無題) 2009 アクリル絵具・キャンバス 96.5 × 162.0	小林ドンゲ 《孤独な男》銅版原版 1956年頃 銅版
秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (消防署員の寒中訓練 弘前市) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 54.4 × 44.5 (ペーパー)	伊藤 二子 (無題) 2006 アクリル絵具・キャンバス 53.0 × 46.0	伊藤 二子 (無題) 2010 アクリル絵具・キャンバス 100.0 × 73.0	関野準一郎 猫と少女 No.1 1955年 紙・多色木版 53.1 × 39.6
秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (成人式の記念植樹 鯉ヶ沢町) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 54.4 × 44.5 (ペーパー)	伊藤 二子 (無題) 2007 アクリル絵具・キャンバス 73.0 × 100.0	伊藤 二子 (無題) 2010 アクリル絵具・キャンバス 73.0 × 100.0	佐野ぬい 嗟嘆・青 1976 油彩・キャンバス 162.0 × 130.5
秋山 亮二 「津軽・聊爾先生行状記」シリーズ (塩鮭の下がる窓辺) 1975-77 (撮影) ゼラチン・シルバー・プリント 37.0 × 37.0 (イメージ) / 56.0 × 45.7 (ペーパー)	伊藤 二子 (無題) 2008 アクリル絵具・キャンバス 100.0 × 73.0	伊藤 二子 (無題) 2012 アクリル絵具・キャンバス 100.0 × 73.0	佐野ぬい 遠い線の様式 1996 油彩・キャンバス 97.0 × 162.0
伊藤 二子 (無題) 1995 アクリル絵具・キャンバス 73.0 × 100.0	伊藤 二子 (無題) 2008 アクリル絵具・キャンバス 73.0 × 100.0	伊藤 二子 (無題) 2017 アクリル絵具・キャンバス 73.0 × 100.0	佐野ぬい もうひとつのシネマ 2004 油彩・キャンバス 162.0 × 162.0
伊藤 二子 (無題) 1996 アクリル絵具・キャンバス 100.0 × 73.0	伊藤 二子 (無題) 2009 アクリル絵具・キャンバス 46.0 × 53.0	伊藤 二子 (無題) 2018 アクリル絵具・キャンバス 73.0 × 100.0	佐野ぬい 余白のテーマ 2006 油彩・キャンバス 162.0 × 194.0
伊藤 二子 (無題) 2001 アクリル絵具・キャンバス 46.0 × 53.0	伊藤 二子 (無題) 2009 アクリル絵具・キャンバス 46.0 × 53.0	伊藤 二子 (無題) 2018 アクリル絵具・キャンバス 73.0 × 100.0	佐野ぬい 記念日のデイノート 2008 油彩・キャンバス 100.0 × 100.0
伊藤 二子 (無題) 2001 アクリル絵具・キャンバス 46.0 × 53.0	伊藤 二子 (無題) 2009 アクリル絵具・キャンバス 46.0 × 53.0	小林ドンゲ 蝶の精 1953年頃 紙・銅版 7.5 × 9.8	佐野ぬい 左手のための序曲 2009 油彩・キャンバス 162.0 × 130.5
伊藤 二子 (無題) 2003 アクリル絵具・キャンバス 46.0 × 53.0	伊藤 二子 (無題) 2009 アクリル絵具・キャンバス 46.0 × 53.0	小林ドンゲ 酔ふ男 1954年頃 紙・銅版 22.1 × 16.7	佐野ぬい 投影の都市 2012 油彩・キャンバス 194.0 × 292.0
伊藤 二子 (無題) 2003 アクリル絵具・キャンバス 46.0 × 53.0	伊藤 二子 (無題) 2009 アクリル絵具・キャンバス 46.0 × 53.0	小林ドンゲ 孤独な男 1956年頃 紙・銅版 18.3 × 14.7	佐野ぬい 青の記録 2012 油彩・キャンバス 91.0 × 116.7
伊藤 二子 (無題) 2003 アクリル絵具・キャンバス 46.0 × 53.0	伊藤 二子 (無題) 2009 アクリル絵具・キャンバス 73.0 × 100.0	小林ドンゲ 《酔ふ男》銅版原版 1954年頃 銅版	佐野ぬい 丘へ 2012 油彩・キャンバス 53.0 × 53.0

佐野ぬい 日記のテーマ 2013 油彩・キャンバス 162.0 × 194.0	佐野ぬい 覚え書 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0	佐野ぬい その先の時間 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0	佐野ぬい 演奏がはじまる 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0
佐野ぬい スペースの時間 2015 油彩・キャンバス 162.0 × 194.0	佐野ぬい かつてあった街 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0	佐野ぬい 遠くにある 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0	佐野ぬい 余白の話題 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0
佐野ぬい 明日のテーマ 2016 油彩・キャンバス 32.0 × 41.0	佐野ぬい 図書館の日射し 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0	佐野ぬい もう一つの空 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0	佐野ぬい 静かな街 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0
佐野ぬい 青と赤の時間 2017 油彩・キャンバス 91.0 × 116.7	佐野ぬい 朝の街 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0	佐野ぬい 青い朝 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0	佐野ぬい それぞれの形 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0
佐野ぬい シティーブルーの空間 2018 油彩・キャンバス 162.0 × 194.0	佐野ぬい 一週間 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0	佐野ぬい アフタヌーンブルーの余白 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0	佐野ぬい 明るい街 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0
佐野ぬい 青の場面 2018 油彩・キャンバス 162.0 × 194.0	佐野ぬい アフタヌーン 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0	佐野ぬい どこかの街 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0	野坂徹夫 歩くひと 1994 水彩・アルシュ紙 22.2 × 30.6
佐野ぬい 風の主題 2019 油彩・キャンバス 162.0 × 194.0	佐野ぬい 今日の日誌 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0	佐野ぬい 挿話 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0	野坂徹夫 よあけ 2002 水彩・アルシュ紙 49.5 × 70.0
佐野ぬい 青の様式 2019 油彩・キャンバス 162.0 × 194.0	佐野ぬい バーラーの午後 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0	佐野ぬい それぞれのテーマ 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0	野坂徹夫 遠い汽笛 2003 水彩・アルシュ紙 32.2 × 48.0
佐野ぬい 芝生と腰掛 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0	佐野ぬい 二つの青 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0	佐野ぬい 門をとじる 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0	野坂徹夫 浄夜 2007 水彩・アルシュ紙 33.4 × 23.8
佐野ぬい 朝のオレンジ 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0	佐野ぬい ウルトラマリンの日 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0	佐野ぬい 昼のページ 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0	野坂徹夫 つつまれた蜜柑 2010 水彩・アルシュ紙 33.5 × 24.0
佐野ぬい 遠い余白 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0	佐野ぬい 校庭の話題 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0	佐野ぬい 青い日誌 2019 油彩・キャンバス 18.0 × 14.0	野坂徹夫 落日 1983 水彩・ワトソン紙 36.0 × 52.0

野坂徹夫 叫び 1983 水彩・ワトソン紙 36.0 × 51.0	野坂徹夫 誕生 1998 水彩・アルシュ紙 22.0 × 31.0	野坂徹夫 夜想曲 2010 水彩・アルシュ紙 36.0 × 23.3	野坂徹夫 雲雀 2010 コラージュ、水彩・アルシュ紙 29.0 × 20.5
野坂徹夫 黒い旗 1985 水彩・ワトソン紙 35.5 × 25.5	野坂徹夫 家族の肖像 1998 水彩・アルシュ紙 32.7 × 24.0	野坂徹夫 鈴の音 2011 水彩・アルシュ紙 32.7 × 23.6	野坂徹夫 鳥の歌 2010 コラージュ、水彩、色鉛筆・アルシュ紙 31.0 × 20.8
野坂徹夫 遠く呼ぶ声 1992 水彩・ワトソン紙 30.3 × 22.5	野坂徹夫 春の声 1999 水彩・アルシュ紙 31.3 × 23.2	野坂徹夫 うたがはじまる 2016 水彩・アルシュ紙 24.2 × 33.3	野坂徹夫 風のポリフォニー 2012 コラージュ・布 30.0 × 22.5
野坂徹夫 ひろう 1994 水彩・アルシュ紙 30.9 × 20.2	野坂徹夫 夜の水辺 2002 水彩・アルシュ紙 21.7 × 30.0	野坂徹夫 朝のチェンバロ 2016 水彩・アルシュ紙 24.5 × 34.0	野坂徹夫 そらごぎわたる 2012 コラージュ・布 30.0 × 22.5
野坂徹夫 川を渡る 1994 水彩・アルシュ紙 30.9 × 20.2	野坂徹夫 真昼の劇場 2002 水彩・アルシュ紙 30.5 × 50.7	野坂徹夫 つつましいかげ 2018 水彩・アルシュ紙 23.9 × 33.4	野坂徹夫 月あかり 2012 コラージュ・布 31.3 × 22.3
野坂徹夫 走る人 1994 水彩・アルシュ紙 22.0 × 33.6	野坂徹夫 神々のよあけ 2000 水彩・アルシュ紙 31.2 × 23.0	野坂徹夫 六月の幻燈 2019 水彩・アルシュ紙 18.6 × 30.2	野坂徹夫 遠野の夕星 2012 コラージュ・布 30.0 × 22.5
野坂徹夫 星をひろう 1996 水彩・アルシュ紙 33.2 × 22.3	野坂徹夫 風 2007 水彩・アルシュ紙 22.9 × 34.0	野坂徹夫 文火（とろ火） 1991 コラージュ・バルブ紙 30.5 × 22.3	野坂徹夫 夜の羊 2012 コラージュ・布 30.0 × 22.5
野坂徹夫 風の理由 1996 水彩・アルシュ紙 50.6 × 33.5	野坂徹夫 蛍火 2008 水彩・アルシュ紙 34.2 × 23.4	野坂徹夫 静かな呼吸 2001 コラージュ・布 31.0 × 22.0	野坂徹夫 こおろぎ 1991 木彫・ひば材 14.0 × 31.6 × 41.0
野坂徹夫 深い水 1997 水彩・アルシュ紙 43.2 × 33.0	野坂徹夫 めざめ 2008 水彩・アルシュ紙 33.3 × 53.0	野坂徹夫 クロイツェル・ソナタ 2010 コラージュ・紙 30.9 × 22.2	野坂徹夫 歩く人 1995 流木 24.0 × 29.5 × 11.0
野坂徹夫 時代 1997 水彩・アルシュ紙 30.0 × 21.6	野坂徹夫 庭の干草 2009 水彩・アルシュ紙 24.0 × 34.5	野坂徹夫 ラヴェンナの月 2010 コラージュ、水彩・アルシュ紙 29.2 × 20.4	野坂徹夫 走る人 1995 流木 40.0 × 37 × 22.5
野坂徹夫 外套 1997 水彩・アルシュ紙 31.4 × 24.0	野坂徹夫 わだつみ 2010 水彩・アルシュ紙 34.2 × 56.0	野坂徹夫 夜の水族館 2010 コラージュ、水彩・アルシュ紙 29.2 × 20.4	野坂徹夫 冬の時間 1997 流木 30.0 × 39.5 × 12.0

野坂徹夫
雲
1998
流木
33.0 × 21.5 × 10.0

野坂徹夫
みつめる
2000
流木
20.0 × 30.0 × 10.0

野坂徹夫
森の雫
2000
流木
49.3 × 12.0 × 10.5

野坂徹夫
夏の川
2004
流木
34.0 × 15.0 × 30.0

野坂徹夫
星をつくる
2011
石粉粘土
32.0 × 20.0 × 3.5

野坂徹夫
陽だまり
2011
石粉粘土
32.0 × 16.0 × 3.0

美術資料貸出状況

シュルレアリスムと絵画

貸出先

- ・ポーラ美術館
- ・ポーラ美術館

(2019/12/15 - 2020/4/5)

貸出点数：6

作品名

- ・成田 亨「ウルトラマン初稿」
- ・成田 亨「ウルトラマン初稿」
- ・成田 亨「ダダ」
- ・成田 亨「ダダ A イラスト」
- ・成田 亨「ブルトン」
- ・成田 亨「ブルトン」

スポット企画展「太宰治の逸品」

貸出先

- ・弘前市立郷土文学館
- ・弘前市立郷土文学館

(2019/6/22 - 8/31)

貸出点数：1

作品名

- ・阿部合成「スケッチブック」

美少女の美術史展

貸出先

- ・国立台北教育大学北師美術館
- ・国立台北教育大学北師美術館

(2019/8/24 - 11/24)

貸出点数：29

作品名

- ・前川千帆「雪の噴火湾」
- ・前川千帆「版書第2輯 唐もろこし」
- ・横尾忠則「天井敷敷定期会員募集」
- ・宇野亜喜良「星の王子さま」
- ・及川正通「書を捨てよ！町に出よう！」
- ・棟方志功「御吉祥大辨財天御妃尊像図」
- ・棟方志功「青森山之神図」
- ・奈良美智「Last Right」
- ・奈良美智「Lampflowers」
- ・奈良美智「I Don't Care」
- ・奈良美智「Final Count」
- ・奈良美智「Faked E.S.P」
- ・奈良美智「Do You Believe in Magic?」
- ・奈良美智「Doppelt madchen」
- ・奈良美智「You've Gotta Love Something」
- ・小館善四郎「おべんきょう」
- ・関野準一郎「表紙『舞妓十二ヶ月』」
- ・関野準一郎「睦月 御所車『舞妓十二ヶ月』」
- ・関野準一郎「如月 風花『舞妓十二ヶ月』」
- ・関野準一郎「弥生 桜月夜『舞妓十二ヶ月』」

- ・関野準一郎「卯月 蝶『舞妓十二ヶ月』」
- ・関野準一郎「皀月 五月雨『舞妓十二ヶ月』」
- ・関野準一郎「水無月 螢『舞妓十二ヶ月』」
- ・関野準一郎「文月 燈籠『舞妓十二ヶ月』」
- ・関野準一郎「葉月 朝顔『舞妓十二ヶ月』」
- ・関野準一郎「長月 新涼『舞妓十二ヶ月』」
- ・関野準一郎「神無月 秋雨『舞妓十二ヶ月』」

- ・関野準一郎「霜月 トランプ『舞妓十二ヶ月』」
- ・関野準一郎「師走 南座まねき『舞妓十二ヶ月』」

秋の展示「志功とカヤ」

貸出先

- ・棟方志功記念館
 - ・棟方志功記念館
- (2019/9/23 - 12/9)

貸出点数：2

作品名

- ・棟方志功「『シラノ』劇版画(シラノ版画 帝劇二月興業)」
- ・棟方志功「歌舞伎版画動進帳」

窓展

貸出先

- ・東京国立近代美術館
- 一般財団法人窓研究所
- 東京新聞

展示施設(会期)

- ・東京国立近代美術館
- (2019/11/1 - 2020/2/2)

貸出点数：4

作品名

- ・林田嶺一「キタイスカヤ街のとあるレストランの窓」
- ・林田嶺一「とある玩具店のショーウィンドーケース(軍医と戦闘機と負傷者難民「キャラクター」)」
- ・林田嶺一「とある日用雑貨店のショーウィンドーケース(ハルビン郊外731部隊の幻影)」
- ・林田嶺一「とある食堂のショーウィンドーケース(「戦争と廃墟」のキャラクター)」

山田耕筰と美術

貸出先

- ・栃木県立美術館
- ・栃木県立美術館

(2020/1/11 - 3/22)

貸出点数：1

作品名

- ・恩地孝四郎「あるヴァイオリニストの印象(諏訪根自子像)」

Yoshitomo Nara

貸出先

- ・LACMA (Los Angeles County Museum of Art)
- ・LACMA (Los Angeles County Museum of Art)

(2020/4/5 -)

*新型コロナウイルス感染症の影響により

展示を中断中。再開時期等未定

展示を中断中。再開時期等未定

貸出点数：11

作品名

- ・奈良美智「港のあの娘」
- ・奈良美智「Sleepless Night、先生の夢」
- ・奈良美智「アラビアの船」
- ・奈良美智「ゼロ戦、空中戦」
- ・奈良美智「ゼロ戦のゆめ」
- ・奈良美智「自分がかめないよ」
- ・奈良美智「西と東、2つの兎」
- ・奈良美智「続いてゆく道に」
- ・奈良美智「The Last Match」
- ・奈良美智「Mumps」
- ・奈良美智「Heads」

作品保存修復

保存管理

展示・保管している美術資料の公開と保存を両立させるため、温湿度等の空調や照度の調整、粉塵・有害ガス・虫菌害等の定期的な環境調査の実施などにより展示・収蔵環境を管理している。また、日常的な点検に基づき、必要に応じて収蔵作品等のマット装や表装・額装の改善、保存箱の作成、専門家による調査・保存処置等を行った。さらに、基本データの整理、写真撮影による画像データの記録をおこなった。

教育普及

スクールプログラム

普及プログラム

サポートスタッフ

スクールプログラム

概要

未来の青森県を担う感性豊かな人材を育成するためには、多くの子どもたちに対して、優れた美術作品に出会い本物が持つ素晴らしさを体験し、ふるさと青森の芸術文化や先人を学ぶ機会を提供することで、郷土に対する誇りが持てる鑑賞指導を行うことが極めて重要である。

このため、子どもたちが居住地域や家庭環境の違いの影響を受けずに、級友と語り合いながら発達段階に応じた深さで等しく学ぶ機会を提供する学校教育の場を活用して、児童・生徒、教育関係者を対象に、鑑賞指導、研修会等の多様な事業を行うスクールプログラムを実施した。

学校団体の来館受入れ

多くの子どもたちが優れた美術作品に接し、豊かな感性や能力を伸ばす機会として、学校団体の来館を積極的に受け入れている。特に、作品を見て子どもたちが感じたことや考えたことを大切に、言葉で伝え合うことを通して、主体的に鑑賞する能力を育むことを重視した対話型鑑賞に力を入れている。

メニュー：

鑑賞プログラム（自由鑑賞、対話型鑑賞）、オリジナルプログラム（創作体験、他）

月	学校団体		団体数					計
	展覧会毎		小	中	高	特		
	常設展 (人数)	企画展 (人数)						
4月	236	0	5	0	0	0	5	
5月	781	83	7	3	1	2	13	
6月	425	128	12	1	2	4	19	
7月	265	15	2	3	1	1	7	
8月	0	0	0	0	0	0	0	
9月	331	0	3	2	1	3	9	
10月	274	0	3	1	1	3	8	
11月	120	0	2	0	0	1	3	
12月	35	0	1	0	0	0	1	
1月	0	0	0	0	0	0	0	
2月	0	0	0	0	0	0	0	
3月	0	0	0	0	0	0	0	
合計	2,467	226	35	10	6	14	65	



創作体験「怪獣デザインをしてみよう！」

出前講座

学校の要望等に応じ、学校での出前形式による講座（創作体験や職業講話等）を実施することがある。

実績：0校

職場体験

美術館の教育普及活動、学校連携、キャリア教育推進等の観点から、各学校の要望を踏まえながら、中学校・高等学校等からの職場体験、見学等を受け入れ、美術館の公共施設・観光施設としての役割や仕事の体験を通じて学ぶ機会を提供した。

受入実績：2校 延べ25人

アートカード

図工・美術の授業及びクラブ活動などの学校教育活動で気軽に使用できる鑑賞教材として、棟方志功、奈良美智、鷹山宇一、豊島弘尚等、本県ゆかりの作家の作品や三内丸山遺跡出土遺物などを50点にまとめた「アートカード」を制作し、平成19年度から県内9施設において学校への貸出しを行っている。

貸出実績：4件

貸出施設一覧

施設・機関名
青森県立美術館
青森県総合学校教育センター
青森市教育研修センター
つがる市生涯学習交流センター「松の館」(つがる市教育委員会指導課)
五所川原市立図書館
弘前市教育センター
十和田市現代美術館
むつ市立図書館
八戸市美術館建設準備室

教員研修

美術館と連携した鑑賞教育について教員の理解を深めるため、当館のコレクションや鑑賞指導法（アートカードの活用、ギャラリートーク演習等）などをテーマに、県総合学校教育センター、市町村教育委員会図工及び美術等教科研究会との連携講座を実施した。

主催	月日	曜日	研修講座の名称	会場	人数	日数
県・市町村教育委員会	8月1日	木	青森県総合学校教育センター 初任者研修（小・中学校）教職一般 研修講座	県立美術館	83	1
	10月30日	水	青森県総合学校教育センター 図画工作・美術科教育講座		6	1
団体等 教育研究	10月2日	水	南地方中教研美術部会研修		5	1
計					94	3

鑑賞サポーターの育成

学校団体鑑賞ツアーで来館した児童・生徒の鑑賞指導にあたる鑑賞サポーター（平成22年度までの「ファシリテーター」を呼称変更。）を配置・養成し、多くの学校団体の受入・指導を行った。
令和元年度3月末現在：26人



対話型鑑賞フォローアップ研修

普及プログラム

1 こどもアトリエ

小学生以下を対象にワークショップの部屋を開放し、画材、粘土などを自由に使って作品制作をする場を提供した。家や学校では余り使うことのない画材を使用できること、また、画材での汚れ等を気にせず自由に創作ができることを特徴として掲げて実施したが、自由制作が難しいこどもも想定し、当館の収蔵作家（青森県にゆかりのある作家）についての知識の普及も兼ねて、各回、当館の収蔵作家にちなんだテーマも用意した。

日時：5月18日（土）、7月13日（土）、9月28日（土）、
11月23日（土・祝）、2020年1月18日（土）

各日 10:00 - 15:00

場所：青森県立美術館 ワークショップB

各回テーマ：5/18 「11ぴきのねこ」スタンプを使った
作品づくり
7/13 紙ねんどでつくる [Miss Forest/ 森の子]、
ロウソクを使ったはじき絵
9/28 裏彩色体験、ステレン版画
11/23 裏彩色体験、足踏み版画
1/18 足踏み版画

参加者数：5/18 20人
7/13 66人
9/28 32人
11/23 61人
1/18 57人



11月23日 こどもアトリエ

2 「じぶん鑑賞」のすすめ

(1) 鑑賞手帳配布

アート鑑賞を深めるポイントや実践的な鑑賞術を学び、鑑賞者自身の「みる力」を培うこと、学術的な作品解釈に依存しない

自分なりの作品解釈・考察等により鑑賞者の「みる」という行為を深めることを目的としたプログラムとして、鑑賞の楽しみ方や鑑賞術の紹介といったガイドブック機能と展示会の感想を書き込めるノート機能を持った手帳「鑑賞手帳」。今年度は2019改訂版を制作発行し、当館で開催する普及プログラムに参加していただいた方などに配布した。

配布期間：鑑賞ワークショップ「じぶん鑑賞のすすめ2019」
参加者他

配布部数：313部

(2) 鑑賞ワークショップ「じぶん鑑賞のすすめ2019」

じぶんの感じ方や考え方、経験などをもとにアート鑑賞を楽しむ「じぶん鑑賞」を、企画展示室（青森 EARTH2019）の作品に関するゲームをしながら体験するワークショップを行った。ゲームは、参加者を3グループに分けて冊子を配布し、各グループで3つの問題を、その後個人で1つの問題を解くという内容で実施した。

日時：11月16日（土）11:00 - 12:00

場所：青森県立美術館 企画展示室

（青森 EARTH2019：いのち耕す場所）

参加者数：11人



2019改訂版鑑賞手帳とWS「じぶん鑑賞のすすめ2019」チラシ

3 その他

(1) 依頼等に美術館ガイド等の実施

青森県・済州道子どもの美術交流プログラム
（県観光局誘客交流課依頼）

誘客交流課が実施する標記事業において、済州道から本県を訪れた子ども達が当館を訪問し、県立美術館のガイドツアーに参加した。

日時：7月24日（水）10:00 - 11:30

場所：青森県立美術館

ガイド：石岡有佳子（artstudio tete 代表）

参加人数：8人

ふるさとを愛する心を育む芸術体験（美術部門）プログラム
（県民生活文化課依頼）

県民生活文化課が実施する標記事業において、県内小学生が当館を訪問し、県立美術館の常設展示を鑑賞した。

日時：10月26日（土）9:10 - 10:30

場所：青森県立美術館 常設展示室

参加人数：8人

サポートスタッフ

概要

青森県立美術館では、県民が美術館の活動に積極的に参加できるように常に工夫し、「県民とともに活動する」ことを目指している。その取り組みの一つとして、美術館の様々な事業等の運営に参加、協力するボランティアを「サポートスタッフ」として募集し、各種イベント運営や、管理事務の補助、環境安全整備等、幅広いボランティア活動の展開を図っている。

募集・登録

募集概要

募集期間：2月1日（金）－2月28日（木）

募集人数：50人程度

応募条件：

- ・満18歳以上（2019年4月1日現在）。未成年は保護者の承諾が必要。
- ・美術館活動に関心があり、積極的に学び活動する意欲のあること。
- ・美術館に通勤可能なこと。

登録者数：85人（令和元年度末現在）

※このうち県美コンシェルジュ活動希望者32人

活動内容

1 研修

第1回研修会 4月13日（土）10:00 - 15:30

内容：美術館の概要説明

サポートスタッフの業務概要説明および館内案内
コンシェルジュとは（コンシェルジュ活動希望者のみ対象）

第2回研修会 10月17日（木）13:30 - 14:45

10月19日（土）13:30 - 14:45

※参加者はいずれか都合のよい回次に出席



サポートスタッフ 第2回研修会

内容：富野由悠季の世界展について（担当学芸員による講義）
意見交換

2 サポート活動

(1) 学芸（企画展関連イベント運営補助、サポートシップ倶楽部共催展覧会運営補助）

活動日数：4日

参加人数：31人

(2) 教育普及（スクールプログラム、ワークショップの運営補助、自主企画イベント等）

活動日数：18日

参加人数：122人

(3) 舞台芸術（演劇部公演、定期演奏会の運営補助等）

活動日数：19日

参加人数：162人

(4) 運営管理（資料整理、アンケート調査等）

活動日数：14日

参加人数：154人

(5) 環境安全整備（県立美術館周辺の草刈等）

活動日数：17日

参加人数：201人

(6) 県美コンシェルジュ活動

活動日数：77日

参加人数：170人

対応客数：10,234人

(7) サポートスタッフ自主企画イベントの実施 - Our place
～アートでつながるコミュニティ～

アート活動を行っているサポートスタッフの作品展示や、展示作品に関連したおりがみ・スタンプあそび、クリスマスカードづくりなどのワークショップ、コンサートも行う自主企画イベントを開催した。

期日：2019年12月7日（土）－15日（日）

各日10:00 - 16:00

場所：コミュニティギャラリー A,B,C、キッズルーム

内容：絵本の読み聞かせ（12/7, 8, 14, 15）

クリスマスコンサート（12/8）

ワークショップ「おりがみ・スタンプあそび」（12/7）

ワークショップ「森の子でクリスマスツリーをつくろう」（12/7, 15）

ワークショップ「技法を使って絵を描こう」（12/7）

ワークショップ「けずってあそぼう！スクラッチアート」（12/8）

- ワークショップ「消しゴムはんこづくり」(12/14)
- ワークショップ「木や糸をつかってクリスマスツリーをつくらう」(12/14)
- ワークショップ「切り絵あそび」(12/14)
- ワークショップ「つくって鑑賞!アートカード」(12/15)
- ワークショップ「クリスマスカードづくり」(12/15)
- ワークショップ「ちぎり絵・はり絵あそび」(12/15)

期間来場者数：323 人



Our place 絵本の読み聞かせ



Our place クリスマスコンサート



Our place 「けずってあそぼう! スクラッチアート」

パフォーマンスアート

演劇

音楽

映画

演劇

太宰文学と演劇による青森芸術の魅力発信事業 太宰治生誕 110 年記念 演劇「津軽」

1 事業概要

演劇「津軽」は、本県を代表する作家太宰治が故郷への深い想いを示した小説『津軽』を原作として制作され、太宰治生誕 100 年にあたる 2009 年に、太宰の生家のある五所川原市金木地区で初演された。翌 2010 年には東京公演が、2011 年には県立美術館公演が上演された。

初演から約 10 年が経過するとともに、太宰治生誕 110 年へ向けた機運が高まりを見せる中、演劇「津軽」の再演に期待する多くの声が寄せられてきた。

こうしたことから、県立美術館では、演劇「津軽」を再演すべく 2017 年に幅広い年齢層の県民を募り「青森県立美術館演劇部」を創設し、基礎稽古や演劇公演を重ね、スキルアップを図ってきたところ。

太宰治生誕 110 年を迎えた 2019 年、演劇部員や県内の一輪車団体に加え、国内及び中国のプロの俳優を起用した、新たな演劇「津軽」を制作・上演することで、「太宰文学」とその原点である「青森芸術」の魅力を発信した。

主催：青森県立美術館、青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会

共催：青森県立美術館サポートシップ倶楽部

助成：一般財団法人地域創造

後援：太宰治生誕 110 年誘客促進実行委員会、五所川原市、五所川原市教育委員会、一般社団法人五所川原市観光協会、NPO 法人かなぎ元気倶楽部、津軽鉄道株式会社、東奥日報社、株式会社陸奥新報社、株式会社デーリー東北新聞社、NHK 青森放送局、青森放送、株式会社青森テレビ、青森朝日放送株式会社、青森ケーブルテレビ株式会社、青い森鉄道株式会社、JR 東日本青森商業開発、青森県教育委員会、公益社団法人青森県観光連盟（順不同）

舞台美術協力：一般財団法人小原流青森支部青年部、有限会社幸福の寿司本舗

2 制作概要

(1) 基礎ワークショップ

日程：4 月 27 日（土）、5 月 11 日（土）、6 月 15 日（土）

場所：青森県立美術館スタジオ

講師：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

参加者延べ人数：28 人

※青森県立美術館演劇部員等が対象。

(2) 稽古

日程：7 月 13 日－9 月 11 日（計 20 回開催）

場所：青森県立美術館スタジオ、コミュニティギャラリー、野外特設ステージ

参加者延べ人数：521 人

※9 月 1 日（読み合わせ）以降、全出演者による稽古。

(3) リハーサル

日程：9 月 12 日（木）

場所：青森県立美術館野外特設ステージ

※報道機関向け。本番と同じタイムテーブルで実施。

3 公演概要

原作：太宰治

脚本・演出：長谷川 孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

日時：2019 年 9 月 13 日（金）－16 日（月・祝）

（受付開始 17:30、開演 18:30）

会場：青森県立美術館野外特設ステージ（八角堂付近トレンチスペース）

入場料：・前売一般 3,500 円（当日 4,000 円）

・前売学生 2,000 円（当日 2,500 円）

公演時間：約 150 分（途中 20 分の休憩あり）

席数：287 席

観客動員数：計 1,107 名

（内訳）

・9 月 13 日（金） 239 人

・9 月 14 日（土） 274 人

・9 月 15 日（日） 282 人

・9 月 16 日（月・祝） 312 人

出演者：新井和之、川上麻衣子、李丹、伊勢未知花、相良千尋、長谷川等

（青森県立美術館演劇部）

後藤和恵、佐々木樹姫、佐々木優、秀圓、白鳥真生、田澤京子、平田彩乃、三上由美子、盛桜華、今ゆき子、後藤天琉、佐藤礼治

（豊田児童センター一輪車クラブ）

豊澤賢也、中畑佳翔、伴彩水華、田中伶旺、尾崎麗羽、棟方翔也、古山七斗

配役：・太宰治：新井和之

・角川（紀行作家）：川上麻衣子

・李丹（紀行作家）：李丹

・太田静子、山崎富栄：伊勢未知花

- ・相良（現代の読者）：相良千尋
- ・須藤（蟹田の友人S）：長谷川等
- ・越野たけ：今ゆき子、三上由美子（Wキャスト）
- ・中村の妻：平田彩乃
- ・太宰の妻（冒頭）：盛桜華、佐々木優（Wキャスト）
- ・須藤の妻：盛桜華、佐々木優（Wキャスト）
- ・兄嫁：田澤京子、後藤和恵（Wキャスト）
- ・母（芦野公園駅）：後藤和恵、田澤京子（Wキャスト）
- ・姉（芦野公園駅）：秀圓
- ・妹（芦野公園駅）：佐々木樹姫
- ・駅員（芦野公園駅）、漁師の男（小泊）：白鳥真生
- ・小泊の住人：後藤和恵、佐々木樹姫、秀圓
- ・昔語り：佐々木優、秀圓（Wキャスト）
- ・黒子：後藤天琉、佐藤礼治
- ・津島修治：伴彩水華
- ・一輪車（太宰が書いた小説たち）：
豊澤賢也、中畑佳翔、伴彩水華、田中伶旺、尾崎麗羽、
棟方翔也、古山七斗

スタッフ：・舞台監督：中村昭一郎

- ・照明：佐藤牧人
- ・音響：本多大公、工藤敢司
- ・大道具：鈴木徳人、石岡博之
- ・小道具：小野寺圭子
- ・衣裳：中村裕美子
- ・字幕：齋藤耕平
- ・制作補助：石上寧子、幸田野花、三浦雪絵

趣向：シーンに合わせて舞台上に一般財団法人小原流青森支部青年部による生け花を3種類設置。また、休憩時、演出の一環



公演風景



公演風景

で、劇中の宴会シーンで供されたメニューを含む軽食を出演者（演劇部員）が客席に配布。

4 チケット販売

(1) チケット販売場所

全国：ローソンチケット

青森市：成田本店しんまち店、サンロード青森、青森県立美術館ミュージアムショップ

弘前市：ヒロロ

五所川原市：ELM インフォメーション

八戸市：ラピア

(2) 事務局予約

電話、FAX、Eメールのいずれかの方法により、前売チケットの事務局予約を受け付けた。

5 各種サービス

(1) 託児サービス

各日、開場から終演まで、美術館図書室にて無料託児サービスを実施。

(2) 終演後の送迎サービス

各日、公演終演後に青森駅までの無料送迎を実施。

(3) カフェ「4匹の猫」臨時営業

各日、開場時間まで延長営業を実施。

6 広報宣伝、営業概要

(1) 記者発表

日時：6月20日（木）

場所：青森県立美術館アレコホール

出席者：

- ・出演俳優：川上麻衣子、新井和之
- ・美術館：青森県立美術館館長 杉本康雄、
青森県立美術館舞台芸術総監督 長谷川孝治

(2) 宣材物の作成配布

- ・チラシ（A4版／カラー）：120,000枚
- ・ポスター（B2版／カラー）：300枚

（告知先・告知方法）

- ・県内の小学校・中学校・高校の児童・生徒への配布。
- ・県内の大学・文化施設・公共施設・書店等への配布。

- ・パフォーミングアーツ推進実行委員会顧客へのダイレクトメールの送付。
- ・コンビニへのチラシ設置。
- ・JR、青い森鉄道、津軽鉄道の一部駅での掲示。
- ・青森市内の一部町内会への配布（新聞折り込み）。
- (3) その他
 - ・美術館ホームページ・Facebook・Twitterによる発信。
 - ・ラジオ番組への出演。
 - ・青森市、五所川原市の広報誌への掲載。
 - ・報道機関ヘリハースル及び当日の様様を取材依頼。



公演開催チラシ（オモテ）



公演開催チラシ（ウラ）

界を展開した。

主催：青森県立美術館、青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会

(2) 写真展

会期：2019年10月5日（土）－20日（日）

会場：青森県立美術館コミュニティギャラリー

時間：9:30 - 17:00

入場無料

入場者数：640名

(3) アーティストトーク「故郷とは」

写真展会期中、演劇「津軽」関係者によるアーティストトークを開催した。

出演：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）、串田明緒（写真家・文筆家）、斎藤歩（公益財団法人北海道演劇財団芸術監督）

日時：2019年10月6日（日）13:30

会場：青森県立美術館コミュニティギャラリー



写真展



アーティストトーク

7 太宰治生誕110年記念 演劇「津軽」関連事業 串田明緒写真展「故郷」

(1) 概要

青森県出身の写真家串田明緒氏が撮り下ろした演劇「津軽」の稽古や公演風景、出演者の素顔に加え、串田氏による東通村の寒立馬の写真・映像を展示し、趣の異なる二つの「故郷」の世

ドラマリーディングクラブ事業

1 ドラマリーディングクラブ

県立美術館に県民が積極的に参加できる環境を舞台芸術企画部門からアプローチする。

「青森県立美術館ドラマリーディングクラブ(2009年設立)」は、経験や技術の枠にとらわれない幅広い年齢層の県内在住者を参加対象に、オリジナルの戯曲や詩・小説、その他の文章を用いた朗読形式による公演を実施している。

例年、定期公演や県内小中高等学校での出前公演を開催しているが、美術館主催による各舞台芸術企画公演へのスタッフ参加や出演等の協力も行っている。

設立：平成21年度

参加条件：

- ・青森県立美術館での稽古に参加できること
- ・年齢・経験不問（未成年者は保護者の同意が必要）
- ・年間に最低1公演には参加できる
- ・交通費や食費など、活動に際して個人に係るものは全て自己負担

活動場所：

青森県立美術館施設内を基本とする。

募集期間：

募集定員に達するまで随時募集

定員：

50名（欠員が出た場合は補充）

参加料：

無料（交通費・食費等の個人に係るものは全て自己負担となる。）

選考方法：

書類選考とし、書類受理後に随時面談を行う。

稽古内容・日程：

- ・青森県立美術館パフォーマンスアート専門スタッフの指導のもと、オリジナルの戯曲や既成の詩・小説、その他の文章を使い、空間を意識しつつ朗読する。
- ・定期公演に向けた稽古を実施する。
- ・青森県立美術館企画サポート公演に向けた稽古を実施する。
- ・その他公演に向けた稽古を実施する。

2 定期公演



定期公演

(1) 公演概要

青森県立美術館ドラマリーディングクラブ定期公演
「仰臥漫録」(抄)

日時：2019年6月8日(土) 15:00 開演
(14:30 開場・受付開始)

会場：青森県立美術館シアター

席数：180席（自由席）

脚本・構成・演出・選曲：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

音響・照明：本多大公、加川絵理

写真・映像：齋藤耕平

出演者：金恵美子、田中昌子、會津悦子、小野寺圭子、福田寿枝、
菊地泰子、今ゆき子（青森県立美術館ドラマリーディングクラブ）

新井和之（ゲスト出演）

観客動員数：148名 ※うち招待31名

(2) 広報宣伝、営業概要

宣材物作成枚数：

- ・チラシ：(A4版/カラー) 10,000枚
- ・ポスター：(B2版/カラー) 100枚

広報：

- ・5月中旬からチラシ等配布開始。
- ・県内新聞・各市広報誌において公演告知。
- ・県内高等学校・大学、図書館、文化施設等を中心に宣材物を配布し、掲示を依頼。
- ・パフォーマンス推進実行委員会顧客へのダイレクトメールの送付。
- ・美術館ホームページ、Facebookでの公演告知。
- ・県広報広聴課 Facebookでの公演告知。
- ・ラジオ番組での公演告知。
- ・県内俳句・短歌団体、読み聞かせ団体への公演告知。
- ・出演者へのチケット先行販売を実施。
- ・シアター前に青森県近代文学館「陸羯南と正岡子規」展パネルを展示。

(3) チケット販売/小・中・高校生無料招待

チケット販売場所

青森市：成田本店しんまち店

青森県立美術館ミュージアムショップ

弘前市：ヒロロ

八戸市：ラピア

五所川原市：ELM インフォメーション

事務局予約：

電話、FAX、Eメールいずれかの方法により、前売りチケットの事務局予約を受け付けた。

また、小・中・高校生は先着 60 名まで無料招待を行った。

(4) 来場者サービス

託児サービス：

公演日の開演から終演まで、キッズルームにて無料託児サービスを実施。



公演開催チラシ (オモテ)



公演開催チラシ (ウラ)

3 出前公演

2013 年より、次代を担う多くの子ども達に舞台芸術への理解を深めてもらうことを目的に、県内各小中高等学校へのドラマリーディング出前公演を実施している。2019 年度は、五所川原市立栄小学校において、同校第 4 学年 P T A 事業の一環で、児童、保護者、教職員を対象としたドラマリーディング公演を上演した。

日時：2019 年 12 月 21 日 (土) 10:30 開演
(10:00 開場)

会場：五所川原市立栄小学校ホール

演目：「あらしのよるに」

(作 木村裕一／絵 あべ弘士)

構成・演出：長谷川孝治

(青森県立美術館舞台芸術総監督)

音響・照明：中村昭一郎、加川絵理

観客動員数：111 名



出前公演

音楽

アレコホール定期演奏会 2019 「シャガールを、弾く。」

1 事業概要

毎年好評をいただいている、アレコホールでの演奏会を本年度も開催。『アレコホール定期演奏会 2019「シャガールを、弾く。」』と題し、公演を実施した。

今回の公演では、ピアニストの高実希子氏とヴァイオリニストの三上亮氏が出演し、シャガールと同年代に活躍したロシアの作曲家プロコフィエフの楽曲などを演奏。バレエ作品「アレコ」で使用されたマルク・シャガール作の舞台背景画全4作品が展示されたアレコホールで、「シャガール」の世界が奏でられた。

日時：2019年11月23日（土・祝）

開演 18:00 開場 17:30 受付開始 17:00

会場：アレコホール

席数：200席（全席自由）

入場料金：前売一般 2,000円（当日 2,500円）

前売学生 1,000円（当日 1,500円）

前売ペア 3,000円（前売販売のみ）

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館

2 広報宣伝、営業概要

(1) 宣材物作成枚数：

チラシ（A4版／カラー）60,000枚

ポスター（B2版／カラー）150枚

(2) 広報：

（2019年9月下旬から宣材物配布開始）

- ・PA顧客へダイレクトメールを送付。
- ・青森県内の小学校・中学校・高等学校へのチラシ配布。
- ・青森県内の大学・文化施設・教育機関・道の駅・音楽教室・各商店街等を中心に広報物を配布し、掲示を依頼。
- ・市町村発行の広報誌への公演情報の掲載。
- ・青森県立美術館のホームページ・ブログ・Twitter・Facebook等、ウェブ上での公演情報の発信。
- ・青森県の広報枠を使用した、AM・FMラジオ番組での公演情報の発信。
- ・青森県立美術館サポートシップ倶楽部会員向けチラシを作成し、会員1名あたりチケット3枚まで500円割引を実施。

3 チケット販売／小・中・高校生 無料招待

チケット販売場所：

全 国：ローソンチケット

青森市：成田本店しんまち店、

青森県立美術館ミュージアムショップ

弘前市：ヒロロ

五所川原市：ELM インフォメーション

つがる市：イオンモールつがる柏インフォメーション

八戸市：ラピア

事務局予約：

電話、FAX、Eメールのいずれかの方法により、前売チケットの事務局予約を受け付けた。

小・中・高校生 無料招待：

小・中・高校生を各公演先着60名まで無料招待とした。

4 各種サービス

託児サービス：

公演の開場から終演まで、キッズルームにて無料託児サービスを実施。

終演後の送迎サービス：

公演終演後に青森駅までの無料送迎を実施。

カフェ「4匹の猫」臨時営業：

公演日は、17:30まで延長営業を実施。

5 各公演詳細

(1) 出演者（演奏者）：高 実希子（ピアノ）

三上 亮（ヴァイオリン）

(2) 演奏曲目：

J.S. バッハ

無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番より

シャコンヌ

演奏：三上亮

W.A. モーツァルト

フランスの歌「ああ、お母さん聞いて」による12の変奏曲

（きらきら星変奏曲）

演奏：高実希子

C. ドビュッシー

ベルガマスク組曲より「月の光」

演奏：高実希子、三上亮

M. ラヴェル

ヴァイオリンとピアノのためのソナタ 第2番 M.77
ト長調

第1楽章 Allegretto

第2楽章 Blues, moderato

第3楽章 Perpetuum mobile, Allegro

休憩 (20分)

S. プロコフィエフ

4つの小品より 悪魔的暗示 作品4-4

演奏：高実希子

S. ラフマニノフ

前奏曲 嬰ハ短調 作品3-2《鐘》

演奏：高実希子

G. ガーシュウィン

歌劇「ボーギーとベス」組曲より

It ain't necessarily so

～そんなことはどうでもいいさ～

演奏：高実希子、三上亮

S. プロコフィエフ

(L. バイヒ・M. フレッツベルガー編曲)

組曲「ロメオとジュリエット」作品64

1. 序奏 2. ジュリエット 3. 騎士の踊り

4. バルコニーの情景 5. カップルの踊り

6. マーキューシオ 7. 戦いとティボルトの死

演奏：高実希子、三上亮

【アンコール】

S. ラフマニノフ

ヴォカリーズ 作品34-14

演奏：高実希子、三上亮

リムスキー＝コルサコフ

熊蜂の飛行

演奏：高実希子、三上亮

(3) 観客動員 220人 (110%)

日付	有料	招待	合計
11/23	130	90	220
計			

6 演奏家プロフィール

高実希子

函館市出身。桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ専攻首席卒業。

(公財) ロームミュージックファンデーション奨学生として、

2008年パリ国立高等音楽院卒業。

21世紀ピアノコンクール第1位(2002年・日本)

ショパン国際ピアノコンクール inASIA 大学生部門最高位(2003年・日本)

イル・ド・フランス国際ピアノコンクールドビュッシー特別賞(2008年・フランス)

他、国内外で多数の受賞歴を持つ。

2007年カワイ表参道にて東京デビューリサイタル開催。

これまで2枚のピアノソロアルバムをリリースし、現在ソロ・室内楽において国内外で演奏活動を行い、パリ国立高等音楽院卒業生によるJACOBピアノ四重奏団のピアニストとして活動している。

2010、2011年フランス・エクサンプロヴァンス国際音楽祭出演。

2015年青森県立美術館にてソロリサイタル「COLORS vol.1」「COLORS vol.2」に出演。

2016年青森県立美術館開館10周年記念5台ピアノコンサート「北十字星からの贈りもの」に出演。

同年、モーツァルトが演奏したイタリア・ヴェローナマフェイアーナホールでアジア人初のソロリサイタルとして成功を収める。

2017年東京デビュー10周年リサイタルを東京・カワイ表参道と、函館市芸術ホールにて開催。

2018年Hakodate Music Academy設立。

函館短期大学非常勤講師。

(公社)日本演奏連盟、函館音楽協会、北海道桐朋会、日本ショパン協会北海道支部函館地区各会員。

三上 亮

東京藝術大学音楽学部首席卒業後、アメリカ南メソディスト大学メドウズ音楽院、ローザンヌ高等音楽院、メニューイン国際音楽アカデミーで研鑽を積む。景山誠治、エドゥアルド・シュミーダー、ピエール・アモイヤル、アルベルト・リジー諸氏に師事。その間、安宅賞、日本音楽コンクール第2位、ブリテン国際ヴァイオリンコンクール特別賞、フォーヴァルスカラシップ・ストラディヴァリウスコンクール第2位など受賞。カメラータ・リジーや、カメラータ・ローザンヌのメンバーとしてスイス国内を拠点にヨーロッパ各地で演奏した。2007年ルーマニアエネスコ音楽祭にも出演しテレビ放映される。ローザンヌ室内管弦楽団、東京交響楽団などと共演。2007年に帰国後、札幌交響楽団コンサートマスター、東京藝術大学非常勤講師、日本音楽コンクール審査員など歴任。

2013年秋、巨匠ピアニスト、イェルク・デームス氏とデュオリサイタルを開催し、好評を博した。また2017年春は全国5都市でリサイタルツアーを行った。ローザンヌ室内管弦楽団、東京交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、札幌交響楽団などとコンチェルトを共演。

室内楽では、2008年に結成されたヴィルタス・クワルテットの第1ヴァイオリン奏者を務めている。第2回ウィーン・フィル&サントリー音楽復興祈念賞受賞。ベートーヴェンの作品を主に取り上げ、東京近郊での定期的な演奏会や札幌、仙台、また各

地でのラ・フォル・ジュルネに参加など意欲的に活動している。
 2017年、青森県立美術館にて開催されたアレコホール定期演奏会「Incontro」に出演。
 これまでに「ツィガーヌ」「奏」など5枚のCDをリリース。
 使用楽器は1628年製ニコロ・アマティ。



公演開催チラシ (オモテ)



公演開催チラシ (ウラ)

アレコホール特別演奏会 5台ピアノコンサート「10hands」

1 事業概要

シャガール作バレエ「アレコ」舞台背景画全4作品の展示に合わせ、アレコホール特別演奏会5台ピアノコンサート「10hands」を全2公演開催した。

今回の公演では、開館10周年を記念して4年前に開催した5台ピアノコンサートからさらに進化し、国内外で活躍する5名のピアニストがアレコホールに集結。5台と5人ならではの音の重なり、圧倒的なパワーや繊細なハーモニー、超絶技巧による演奏を繰り広げ、「アレコ」の世界観を表現した。

日時：2020年2月1日(土)・2日(日)

開演 18:00 開場 17:30 受付開始 17:00

会場：アレコホール

席数：205席(全席自由)

入場料金：前売一般 3,000円(当日 3,500円)

前売学生 2,000円(当日 2,500円)

前売ペア 5,000円(前売販売のみ)

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館

2 広報宣伝、営業概要

(1) 宣材物作成枚数：

チラシ(A4版/カラー) 80,000枚

ポスター(B2版/カラー) 150枚

(2) 広報：

(2019年12月中旬から宣材物配布開始)

- ・PA顧客へダイレクトメールを送付。
- ・青森県内の小学校・中学校・高等学校へのチラシ配布。
- ・青森県内の大学・文化施設・教育機関・道の駅・音楽教室・各商店街等を中心に広報物を配布し、掲示を依頼。
- ・市町村発行の広報誌への公演情報の掲載。
- ・青森県立美術館のホームページ等、ウェブ上での公演情報の発信。
- ・青森県の広報枠を使用した、コンビニエンスストア(ローソン県内全店)へのチラシ設置、FMラジオ番組での公演情報の発信。
- ・青森県立美術館サポートシップ倶楽部会員向けチラシを作成し、会員1名あたりチケット3枚まで500円割引を実施。

3 チケット販売/小・中・高校生 無料招待

チケット販売場所：

全 国：ローソンチケット

青森市：成田本店しんまち店、

青森県立美術館ミュージアムショップ

弘前市：ヒロロ、弘前大学生活協同組合

五所川原市：ELMインフォメーション

つがる市：イオンモールつがる柏インフォメーション

八戸市：ラビア

事務局予約：

電話、FAX、Eメールのいずれかの方法により、前売チケットの事務局予約を受け付けた。

小・中・高校生 無料招待：

小・中・高校生を各公演先着50名まで無料招待とした。

4 各種サービス

託児サービス：

各公演の開場から終演まで、キッズルームにて無料託児サービスを実施。

終演後の送迎サービス：

各公演終演後に青森駅までの無料送迎を実施。

カフェ「4匹の猫」臨時営業：

各公演日は、17:30まで延長営業を実施。

5 各公演詳細

(1) 出演者(演奏者)：高 実希子

村田 恵理

佐野 隆哉

佐藤 慎悟

崎谷 明弘

(2) 演奏曲目：

W.A. モーツァルト

ピアノソナタ第11番 第3楽章「トルコ行進曲」

(G. アンダーソン編曲)

演奏：高実希子、村田恵理、佐野隆哉、佐藤慎悟、崎谷明弘

C. ドビュッシー

ベルガマスク組曲より 月の光

(G. アンダーソン編曲)

演奏：高実希子、佐野隆哉、崎谷明弘

W. ルトスワフスキ

パガニーニの主題による変奏曲

演奏：佐藤慎悟、高実希子

W.A. モーツァルト

2台のピアノのための協奏曲 変ホ長調 K365 より
第1楽章

演奏：村田恵理、高実希子、佐藤慎悟

休憩(20分)

C.F. グノー＝J.S. バッハ

アヴェ・マリア(N.J. タン編曲)

演奏：高実希子、村田恵理、佐野隆哉、佐藤慎悟、崎谷明弘

F. リスト

「ドン・ジョヴァンニ」の回想 S.656

演奏：佐野隆哉、崎谷明弘

C.C. サン・サーンス

死の舞踏 Op.40

演奏：高実希子、村田恵理、佐野隆哉、佐藤慎悟、崎谷明弘

【アンコール】

リムスキー=コルサコフ

熊蜂の飛行

演奏：高実希子、村田恵理、佐野隆哉、佐藤慎悟、崎谷明弘

(3) 観客動員 398人 (97%)

日付	有料	招待	合計
2/1	118	64	182
2/2	151	65	216
計	269	129	398

(定数各日 205)

6 演奏家プロフィール

高実希子

北海道函館市出身。桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学首席、パリ国立高等音楽院卒業。ショパン国際ピアノコンクール inASIA 大学生部門最高位他、国内外での受賞歴多数。2016年、モーツァルトが演奏したことで有名なイタリア・マフェイアーナホールでアジア人初のソロリサイタルを開催し好評を博す。現在ソロ・室内楽において国内外で演奏活動を行う。

村田 恵理

東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。英国王立音楽院大学院課程ディプロマコース卒業。第26回イタリア・セニガリア国際青少年ピアノコンクール第4位。第8回東京音楽コンクールピアノ部門入選。現在は県内外にて演奏活動を行う他、NHK文化センター弘前教室にて演奏講座「ピアノ音楽紀行」を開講している。ピアノ個人教室「エリピアノアカデミー」主宰。

佐野 隆哉

東京藝術大学大学院修士課程、パリ国立高等音楽院修了。日本音楽コンクール第2位、ショパン国際ディプロマなど、国内外での受賞歴多数。国内はもとより、フランス、ヨーロッパ各地でソロ・室内楽奏者として活躍中。演奏活動の傍ら、国立音楽大学、都立総合芸術高校で後進の指導にあたっている。ダイナミックにして繊細。色彩感と叙情性に満ちた実力派ピアニスト。

佐藤 慎悟

八戸市生まれ。昭和音楽大学ピアノ演奏家コース首席卒業。国立ローマ・サンタ・チェチリア音楽院アカデミアに入学後、数々の国際コンクールで第1位受賞。インターナショナル・アーツ・アカデミーピアノ演奏家コース満場一致で首席修了。帰国後は

自宅でピアノ教室を主宰。ソロ活動や合唱団、室内楽、声楽や器楽の各ソリストとの共演にも力を入れ活動中。

崎谷 明弘

博士（音楽）。次世代正統派の担い手として期待されている。パリ国立高等音楽院でJ.ルヴィエ氏、東京藝術大学大学院修士課程にて迫昭嘉氏に師事、共に首席で修了。世界で最も権威あるWFIMC加盟の3ピアノコンクールで入賞（ブゾニ3位・サンタンデル入賞・ハエン賞優勝）。CDにベートーヴェン：ピアノソナタシリーズ等。2019年、オペラ指揮者デビュー。



公演開催チラシ（オモテ）



公演開催チラシ（ウラ）

映画

「特集・黒澤明」

1 事業概要

11月8日(金)から10日(日)の3日間に「特集・黒澤明」と題し、歴史的傑作の数々を生み出した名匠・黒澤明監督の作品を35ミリフィルムで上映した。

上映作品は、ヴェネチア国際映画祭で金獅子賞を受賞した『羅生門』や、俳優・三船敏郎の出世作であり後の【黒澤×三船】黄金コンビを産むきっかけとなった『酔いどれ天使』に、『我が青春に悔なし』『天国と地獄』の計4作品。

なお、本上映会は文化庁と国立映画アーカイブが、広く国民に優れた映画鑑賞の機会を提供するため日本各地の公立文化施設と連携・協力し、所蔵映画フィルムの巡回上映を全国の会場で実施している「優秀映画鑑賞推進事業」の一環としての上映となる。

公演名：青森県立美術館 映画上映

「特集・黒澤明」

会場：シアター

席数：180席(全席自由)

開催日：2019年11月8日(金) - 10日(日)

計3日間

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館、文化庁、国立映画アーカイブ

特別協賛：木下グループ

協力：株式会社オーエムシー

2 広報宣伝、営業概要

(1) 宣材物作成枚数

チラシ(B5版/白黒) 20,000枚

ポスター(B2版/白黒) 100枚

(2) 広報

(2019年9月下旬から宣材物配布開始)

- ・PA顧客へダイレクトメールの送付。
- ・青森県立美術館のホームページ・ブログ・Twitter・Facebook等、ウェブ上での公演情報の発信。
- ・イベント情報サイト(Walkerplus)への公演情報の掲載。
- ・青森県内の文化施設・教育機関・道の駅・各商店等を中心に広報物を配布し、掲示・周知を依頼。
- ・青森県の広報枠を使用したFMラジオでの開催情報の発信。
- ・県内映画館、各映画上映会での上映会広報物の掲示・配布。(有

料スペース含む)

- ・県内8町村の広報誌へ上映会情報の掲載。
- ・新聞3紙に上映会情報の掲載。
- ・青森県立美術館サポートシップ倶楽部会員向けチラシを作成し、会員1人あたりチケット3枚まで前売料金から各500円割引を実施。
- ・青森市内一部地区において、上映会チラシの新聞折り込みを実施。

3 入場料金・チケット販売

(1) 1日券

(11/8 上映) 前売 800円

(11/9 上映) 前売 1,000円

(11/10 上映) 前売 1,000円

※当日は各200円増し

※日時指定で当日の全上映作品鑑賞可

(2) 通し券

前売のみ 1,500円

※当日販売なし

※上映会期間中の全上映作品鑑賞可

(3) ラスト1本券

500円

※当日受付のみで販売

(販売は最終回上映の20分前から)

※日時指定で各日の最終回上映作品のみ鑑賞可

【1日券 通し券 販売プレイガイド】

青森市：成田本店しんまち店

青森県立美術館ミュージアムショップ

弘前市：ヒロロ

五所川原市：ELM インフォメーション

つがる市：イオンモールつがる柏インフォメーション

【予約受付】

青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会事務局
(青森県立美術館内)

電話：017-783-5243 (平日9:00 - 17:00)

FAX：017-783-5244

Eメール：eiga@aomori-museum.jp

4 公演詳細

(1) 上映作品

『我が青春に悔なし』(1946年・黒澤明監督)

『酔いどれ天使』(1948年・黒澤明監督)

『羅生門』(1950年・黒澤明監督)

『天国と地獄』(1963年・黒澤明監督)

計4作品(全作品35ミリフィルム上映)

(2) 開催スケジュール

2019年11月8日(金)

10:15 上映 『酔いどれ天使』

13:00 上映 『天国と地獄』

2019年11月9日(土)

09:50 上映 『天国と地獄』

13:10 上映 『羅生門』

14:50 上映 『我が青春に悔なし』

2019年11月10日(日)

10:15 上映 『羅生門』

12:45 上映 『我が青春に悔なし』

14:50 上映 『酔いどれ天使』

※各日初回上映の10分前開場

(3) 観客動員数 446人(全8上映)

【内訳】 (カッコ内は上数字に含まれる招待者数)

作品名	上映①	上映②	計
『我が青春に悔なし』	58 (3)	49 (1)	107 (4)
『酔いどれ天使』	61 (7)	61 (1)	122 (8)
『羅生門』	69 (3)	40 (6)	109 (9)
『天国と地獄』	61 (6)	47 (5)	108 (11)
計	249 (19)	197 (13)	446 (32)

公演開催チラシ (オモテ)

公演開催チラシ (ウラ)

サービス等

貸館

図書室

キッズルーム

博物館実習

サポートシップ倶楽部

貸館

使用施設について

(1) 使用目的

展覧会や作品の創作活動、映像、演劇及び音楽などの芸術活動の発表、練習の場として本県の芸術振興に資する使用であること。

(2) 使用料 (2019年10月1日改定)

① 展示施設を使用する場合

■ コミュニティギャラリー

室名 (面積)	使用料 (入場料等を徴収しない場合)		
	9:30 - 12:00	13:00 - 17:00	左記以外の時間帯
A (148.76㎡)	2,200円	3,520円	1時間 880円
B (60.47㎡)	900円	1,440円	1時間 360円
C (131.30㎡)	1,950円	3,120円	1時間 780円

- ※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とします。
- ※ 2 コミュニティギャラリーの1室が使用されている場合、他のコミュニティギャラリーが使用できない場合があります。

■ 企画展示室

室名 (面積)	使用料 (入場料等を徴収しない場合)		
	9:30 - 12:00	13:00 - 17:00	左記以外の時間帯
A (182.70㎡)	2,580円	4,120円	1時間 1,030円
B (140.39㎡)	2,080円	3,320円	1時間 830円
C (389.51㎡)	5,750円	9,200円	1時間 2,300円
D (228.06㎡)	3,380円	5,400円	1時間 1,350円
E (105.91㎡)	1,550円	2,480円	1時間 620円
映像室 (70.38㎡)	1,030円	1,640円	1時間 410円

- ※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とします。
- ※ 2 企画展示室の使用については、原則として県立美術館との共催事業に限ります。

② シアター等を使用する場合

室名 (面積)	使用料 (入場料等を徴収しない場合)
シアター (220席) (348.20㎡)	1時間 2,500円
映写室 (36.36㎡)	1時間 260円
アナウンスブース (6.35㎡)	1時間 50円
ワークショップA (124.38㎡)	1時間 930円
ワークショップB (185.28㎡)	1時間 1,350円
暗室 (22.45㎡)	1時間 160円
スタジオ (100.98㎡)	1時間 750円
映像編集室 (24.77㎡)	1時間 180円
スタジオ映写室 (28.88㎡)	1時間 210円

- ※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とします。
- ※ 2 暗室は、ワークショップAを利用する場合又はワークショップAが利用されていない場合に使用できます。
- ※ 3 映写室、アナウンスブースは、シアターを利用する場合、使用できます。
- ※ 4 映像編集室、スタジオ映写室は、スタジオを利用する場合、使用できます。
- ※ 5 シアター借用時は映写室も併せて借用いただきます。

(3) 使用期間

① 展示施設

- ・コミュニティギャラリーは、原則として、月曜日始まり、日曜日終わりの1週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き5週間を超えることはできません。
- ・企画展示室については、原則として、1週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き5週間を超えることはできません。

② シアター等

- ・1時間単位での使用期間とし、同一の利用者について原則として引き続き10日を超えることはできません。

* 美術館のすべての施設において

- ・美術館の休館日は、原則として使用できません。(準備、撤去作業の場合は除く。)
- ・毎年度日数を定めて開催している展覧会や上記使用期間では開催目的が達成されない場合において必要と認められるときは、使用期間を変更できるものとします。

(4) 使用時間

- ① 美術館の施設使用時間は、美術館の開館時間〔9時30分から17時まで(6月～9月は、9時から18時まで)〕とします。なお、施設使用上やむを得ない理由があると認められる場合には、閉館後、1時間単位で20時まで延長することができません。開館時間前の使用については、御相談ください。
- ② 施設使用時間には、展覧会等の準備の時間及び撤収の時間も含まれます。(延長した場合であっても20時には撤収が完了していなければなりません。)
- ③ 展示施設は、9時30分から12時、13時から17時の使用区分とし、それ以外は1時間単位での使用とします。
- ④ シアター等は、1時間単位での使用とします。

■コミュニティギャラリー、企画展示室、シアター、スタジオほか

(単位：人)

使用期間	使用者	催事名	使用施設	入場者数
5/19	三上 裕美	コスプレ撮影会	コミュニティギャラリーB	9
6/2 - 6/3	株式会社パディーズ	青森スタイリストアワード2019	コミュニティギャラリーABC、スタジオ、シアター、映写室	153
6/6 - 6/9	奥崎 文一	第4回フォトグループ3g写真展	コミュニティギャラリーC	223
6/12 - 6/25	石澤 暁夫	伊藤二子×石澤暁夫スーパーコラボ展	コミュニティギャラリーABC	1,246
6/30 - 7/7	蒔田 沙枝	MANIMANIKO ミニチュアフード巡回展	コミュニティギャラリーB	157
7/1 - 7/8	特定非営利活動法人岩手未来機構	川口まどか原画展	コミュニティギャラリーA	157
7/6 - 7/7	株式会社47PLANNING	ダイニングアウト レセプション	ワークショップB	80
7/9 - 7/15	柳谷 暁彦	柳谷暁彦作品展	コミュニティギャラリーB	115
9/23 - 9/25	一般社団法人青森県文化振興会議	第60回青森県美術展覧会「県展2019」(審査)	コミュニティギャラリーABC	97
9/25 - 9/30	株式会社マエダ	青い森のキコリ写真展	コミュニティギャラリーC	186
9/27 - 9/29	ひろさき芸術舞踏実行委員会	DREAMER 8 期生公演 銀河鉄道の夜	シアター、映写室	168
9/28 - 9/29	社会福祉法人平舘福祉会	エコル作品展	コミュニティギャラリーA	138
10/23 - 11/4	一般社団法人青森県文化振興会議	第60回青森県美術展覧会「県展2019」	コミュニティギャラリーABC	2,880
11/7 - 11/10	クリーニングデイ津軽実行委員会	私のイッピン展	コミュニティギャラリーABC	371
11/12 - 11/18	特定非営利活動法人岩手未来機構	アナ・ダブツオ展	コミュニティギャラリーA	201
11/21 - 11/24	伊藤 寛	津軽三十六分の三十三景と絵画教室展	コミュニティギャラリーAC	300
11/22 - 11/24	村上 あさ子	津軽裂織教室作品展	コミュニティギャラリーB	220
11/29 - 12/1	MOA 美術館青森児童作品展実行委員会	第31回 MOA 美術館青森児童作品展	コミュニティギャラリーABC、シアター、映写室	1,649
12/7 - 12/9	株式会社エフエム青森	Aomrelation2019	シアター、映写室	217
12/20 - 12/22	神 美香	子どもあとりえブランタン展覧会	コミュニティギャラリーA	300
1/9 - 1/12	青森市中学校教育研究会美術部会	第33回青森県中学校選抜美術展	コミュニティギャラリーABC	544
1/21 - 1/30	社会福祉法人あーと	北海道・東北アール・ブリュット合同展	コミュニティギャラリーABC	428
1/31 - 2/3	青森県高等学校文化連盟美術部東青支部	第55回東青地区美術展及び東青支部講習会	コミュニティギャラリーABC	260
2/6 - 2/9	和久 尚史	グラフィックデザイナーの1年展	コミュニティギャラリーABC	500
2/12	寺尾 春香	写真撮影	コミュニティギャラリーC	2
2/16	船橋 萌	新町坂46ダンス撮影	スタジオ	15
3/14	Blooming's 代表 畑井 希美	Blooming's ダンス動画撮影	スタジオ	10
3/29	三上 裕美	撮影会	コミュニティギャラリーB	2

合計 10,628 人

図書室

概要

図書室は、館の美術情報センターとしての機能を担い、その機能のうち美術に関する図書資料情報を収集、整理、保存、提供することで美術の普及を図ることを目的として、一般開放している。

具体的には、美術に関する専門ライブラリとして、来館者に対し、当館所蔵作品・作家に関するものをはじめ、美術に関する知識を深める図書資料情報の提供、閲覧、美術及び図書資料に関する相談受付（レファレンス）、他美術館等の展覧会情報の提供等を行っている。

設備：図書閲覧席 20席

開館日・開室時間：美術館開館日の10:00 - 16:00

図書資料の収集方針

「青森県立美術館作品収蔵基本方針」に準じ、1) 近・現代の青森県出身作家及びゆかりのある作家に関するもの、2) 青森県以外の近・現代の美術状況に対応するために必要な優れた美術作品に関するもの、3) 今に生きる県民の心の原点に関わり、未来に資するもの、4) 1 - 3を理解するために必要なもの、を購入および寄贈により収集した。

蔵書数（令和元年度3月末現在）

- ・美術図書 5,922冊
 - ・デザイン・建築関係図書 481冊
 - ・写真関係図書 620冊
 - ・絵本・イラスト関係図書 1,209冊
 - ・民俗・歴史関係図書 549冊
 - ・音楽・映画・舞台関係図書 1,004冊
 - ・展覧会カタログ 14,716冊
 - ・その他（自然科学、文学など） 2,196冊
 - ・雑誌（約60タイトル） 11,746冊
※継続購入は14タイトル
- 計 38,443冊

サービス

図書資料閲覧

美術に関する映像ソフトの鑑賞

美術に関する図書資料に係る相談受付（レファレンス）

当館に関する情報の掲載誌の閲覧

実績

開室日数：320日

利用者数：3,542人

レファレンス利用件数：19件

令和元年度図書室利用実績

	開室日数(日)	入室者数(人)		レファレンス	
	月計	月計	1日平均	月計	1日平均
4月	28	293	10.5	1	0.04
5月	29	397	13.7	0	0.00
6月	28	259	9.3	2	0.07
7月	25	355	14.2	1	0.04
8月	30	776	25.9	2	0.07
9月	25	284	11.4	0	0.00
10月	29	175	6.0	8	0.28
11月	28	243	8.7	4	0.14
12月	20	158	7.9	1	0.05
1月	28	192	6.9	0	0.00
2月	26	182	7.0	0	0.00
3月	24	228	9.5	0	0.00
計	320	3,542	11.1	19	0.06

事業

1 美術館事業への支援・事業との連携

当館で行う常設展示及び企画展示と連携し、開催期間中、所蔵図書資料のうち展示に関連する資料を展示用書架にて紹介した。

2 他の美術館・関係団体等との連携

「新着カタログコーナー」にて、新しく受け入れた他美術館の展覧会カタログを継続的に紹介した。

キッズルーム

概要

絵本やお絵かき、積み木などを親子で楽しむことを通じて、子どもたちの美術への関心を高めることを目的として、地下1階「キッズルーム」を、来館者の多い土日祝日と企画展開催時の平日に無料で開放している。

「キッズルーム」は、約600冊の絵本をはじめとして、スイスのnaef（ネフ）社製やおもり木製玩具研究会「わらはんど」製作の色や形の美しい積み木やお絵かきを自由に楽しめる空間となっている。

利用実績

開室時間：土日祝日及び企画展開催時の平日 10:00 - 15:00

令和元年度キッズルーム利用実績

	開室日数(日)		入室者数(人)		平均
	月計	子ども	おとな	月計	
4月	10	82	99	181	18.1
5月	29	153	184	337	11.6
6月	24	130	154	284	11.8
7月	5	41	41	82	16.4
8月	0	0	0	0	0.0
9月	5	54	50	104	20.8
10月	25	75	94	169	6.8
11月	28	98	128	226	8.1
12月	7	32	44	76	10.9
1月	9	42	46	88	9.8
2月	11	58	64	122	11.1
3月	10	62	68	130	13.0
計	163	827	972	1,799	11.0

博物館実習

概要

博物館法施行規則第1条に定められた学芸員資格取得に関する博物館実習を実施した。

実施内容：美術館における諸活動（展示・収蔵・教育普及等）

期間：2019年8月24日（土）－8月28日（水）

実習指導：青森県立美術館職員他

実習生：8名

北海道教育大学岩見沢校（2名）、秋田公立美術大学（1名）、群馬県立女子大学（1名）、中央大学（1名）、富山大学（1名）、新潟大学（1名）、八洲学園大学（1名）

プログラム

令和元年度 博物館（美術館）学芸員実習日程

第1日目 8月24日（土）

- ・オリエンテーション
- ・青森県立美術館の概要について／施設見学1
- ・学芸員の仕事について
- ・美術館のコレクション形成について
- ・施設見学2／バックヤード作品移動・作業動線
- ・実習日誌作成

第2日目 8月25日（日）

- ・美術館の施設およびサイン計画について
- ・展覧会とアートイベントを体験しよう（子どものための建築展）
- ・来館者対応と美術館のホスピタリティについて
- ・展示室での監視ポジションの紹介とふるまい方研究
- ・監視員ヘルプについてみる
- ・報告会
- ・実習日誌作成

第3日目 8月26日（月）

- ・作品の保存・管理について
- ・作品の取扱いおよび調書作成（日本画、油彩画、立体、紙作品）
- ・美術館の教育普及活動について
- ・美術館におけるパフォーミングアーツ活動
- ・実習日誌作成

第4日目 8月27日（火）

- ・展覧会の企画と実施1
- ・展覧会の企画と実施2：実技
- ・[演習] 展覧会を企画してみよう1－テーマ設定、作品リストの完成
- ・[演習] 展覧会を企画してみよう2－普及活動の検討（展覧会関連イベント見学を含む）
- ・実習日誌作成

第5日目 8月28日（水）

- ・[演習] 展覧会を企画してみよう3－展示プラン作成
- ・[演習] 展覧会を企画してみよう4－展示上の留意点
- ・[演習] 企画した展覧会を発表してみよう（発表＋講評）
- ・実習日誌作成

サポートシップ倶楽部

概要

青森県立美術館の活動に協力するとともに広く県民の美術その他の芸術文化の向上に寄与するために平成27年度（平成28年3月）に発足した任意団体。

会員の区分と年会費

一般会員

成人会員：3,000円、学生会員（高校生以上）：2,000円、
法人会員：30,000円

特別会員（総会出席）

法人会員：一口100,000円

会員数（令和2年3月31日現在）

一般会員：成人会員121名、学生会員1名、法人会員3団体
特別会員：21法人（65口）

特典

会員への情報提供

一般会員

常設展観覧料無料観覧（法人会員は3名まで同時観覧可能）
企画展観覧料無料招待券配布のほか、いつでも団体料金で観覧可
ミュージアムショップ割引
カフェ割引
等

特別会員

企画展内覧会・レセプション招待
等

令和元年度事業報告

1 美術館活動への支援事業

(1) 美術品購入及び寄贈

野坂徹作品5点を購入し、青森県立美術館へ寄贈した。

(2) 美術資料の充実

美術品寄付のための積み立て。

(3) 美術館ファンの拡大

一般会員の会員特典（観覧料無料）をアピールし、観覧者数の増加を図った。延べ観覧者数467名。

2 県民の美術その他の芸術文化の向上に寄与するための事業

(1) 展覧会関連の講演会・ワークショップ等への協賛等

① 「アルヴァ・アアルト—もう一つの自然」展関連事業への協賛

○「記念講演会『フィンランドの風土とアアルト建築の光』」
令和元年5月11日（土）14:00 - 15:30 /
青森県立美術館シアター

講師 小泉隆（九州産業大学建築都市工学部教授）

② 「太宰治生誕110年記念 演劇『津軽』」事業の共催

○「太宰治生誕110年記念 演劇『津軽』」

原作：太宰治

脚本・演出：長谷川孝治

（青森県立美術館舞台芸術総監督）

出演：新井和之、川上麻衣子、李丹、青森県立美術館
演劇部、豊田児童センター—輪車クラブほか

令和元年9月13日（金）—16日（月・祝）

18:30 - 21:00 / 青森県立美術館野外特設ステージ

③ 「子どものための建築と空間展」関連事業への協賛

○「展覧会記念対談会『子どものための建築、空間とは』」

令和元年7月28日（日）14:00 - 15:30 /

青森県立美術館展示室H

青木淳（建築家、京都市京セラ美術館館長）

長澤悟（同展監修者、東洋大学名誉教授、教育環境研究所所長）

○「東京子ども図書館スタッフによる出張おはなし会」

・大人のためのおはなし会

令和元年8月31日（土）14:00 - 15:30 /

青森県立図書館集会室

・子どものためのおはなし会

令和元年9月1日（日）11:00 - 12:00 /

青森県立図書館児童閲覧室

おはなしコーナー

○「アカデミック・トーク『羽仁もと子が築いた生き方の教育』」

令和元年 8月24日(土) 10:00 - 11:30 /
八戸ポータルミュージアムはっち2Fシアター2
講師 福田竜(自由学園明日館マネージャー)、
岡本潤(千葉幼稚園園長)、
板倉容子(青森県立美術館学芸員)

④「青森 EARTH2019:いのち耕す場所ー農業がひらくアートの未来」展関連事業への協賛

○「連続講座『美術館堆肥化計画』」

- ・令和元年 11月16日(土) /
青森県立美術館ワークショップA
10:00 - 12:00
講師 石渡博明(安藤昌益の会事務局長)
13:30 - 16:30
講師 東千茅(農耕者・雑誌「つち式」主宰)
- ・令和元年 11月17日(日) /
青森県立美術館ワークショップA
11:00 - 12:00
講師 山内輝雄(農家・「昌益村」村長)
13:30 - 16:30
講師 安藤昌益勉強会
- ・令和元年 11月30日(土) /
青森県立美術館ワークショップA
13:30 - 16:30
講師 オル太(アーティストコレクティブ)、
榎木野衣(美術批評家)、
山内明美(歴史社会学者)

- 第1号議案 平成30年度事業報告の件
- 第2号議案 平成30年度収支決算の件
- 第3号議案 令和元年度事業計画(案)の件
- 第4号議案 令和元年度収支予算(案)の件

④報告 総会での購入作品贈呈の件

(2) 第1回総会

①日時 令和元年 5月31日(金) 11:00 - 11:30

②場所 ラ・プラス青い森2階 カメリア

③議事

- 第1号議案 平成30年度事業報告の件
- 第2号議案 平成30年度収支決算の件
- 第3号議案 令和元年度事業計画(案)の件
- 第4号議案 令和元年度収支予算(案)の件

④購入作品贈呈

(3) 第2回理事会

①日時 令和元年 12月6日(金) 10:25 - 10:50

②場所 ラ・プラス青い森3階 プリムラ

③議事 報告事項 令和元年度事業中間報告について

(2) 視察研修(参加者20名)

「生誕110年・太宰治&大地の画家・常田健のふるさとをたずねて」

令和元年 11月2日(土) 9:00 - 16:50

- ①生誕110年を迎えた太宰治の生家である「太宰治記念館・斜陽館」と太宰の疎開先で多くの作品を執筆した「太宰治疎開の家(旧津島家新座敷)」をボランティアの解説とともに観覧。
- ②浪岡でリンゴ農家を営む傍ら、田畑で黙々と働く農民を描き続けた大地の画家で知られる常田健の「常田健土蔵のアトリエ美術館」を常田健記念財団の高橋理事長の解説とともに観覧。
- ③釉薬を一切使わずに焼き締めの手法で独特の風合いをそなえる「津軽金山焼」のギャラリー及び工房をスタッフの解説とともに見学。

4 理事会及び総会の開催について

(1) 第1回理事会

①日時 令和元年 5月31日(金) 10:30 - 10:50

②場所 ラ・プラス青い森3階 プリムラ

③議事

資料

広報

広聴

入館者数

運営予算・決算

組織

関係規程等

施設設備概要

広報

県の広報媒体を活用した広報活動や、Twitter・Facebook等のソーシャルメディアネットワークによる活動を展開した。

(1) 県広報による実績

- ・青森放送（RAB ラジオ）「県広報タイム」
- ・エフエム青森「あおもり・ふぁん」
- ・東奥日報、デーリー東北、陸奥新報「広報あおもりけん」
- ・広報広聴課 Facebook「県政トピックス」
- ・「コンビニ等から県政情報の発信！」

(2) ソーシャルメディアネットワーク

- ・Twitter
アカウント：aomori_museum_of_art@aomorikenbi
- ・Facebook
アカウント：aomori.museum
- ・instagram
アカウント：aomorikenbi

(3) ホームページ

URL：http://www.aomori-museum.jp

年間アクセス数（2019.4 - 2020.3）：465,778 件

(4) 雑誌等掲載実績（主なもの、順不同）

- ・美術手帖
- ・rakra
- ・まっぶる
- ・るるぶ
- ・ことりっぶ
- ・東北じゃらん
- ・大人の休日倶楽部
- ・美術の窓
- ・ピース函館
- ・和楽
- ・美術展ぴあ
- ・arch
- ・月刊美術
- ・ポパイ
- ・すばる ほか多数

広聴

青森県立美術館アドバイザー・ボード

青森県立美術館のより良い運営を推進するため、青森県立美術館の運営に関して専門的及び県民の立場から必要な助言等を行う第三者委員会を設置。

アドバイザー（順不同）

座長 建島 哲（全国美術館会議会長・多摩美術大学学長・
埼玉県立近代美術館館長）

三上 満良（東北芸術工科大学講師、宮城県美術館
元副館長）

山田 泰子（八戸市新美術館建設推進室室長）

蜷川 有紀（美術家・女優）

三澤 一実（武蔵野美術大学教授）

大嶋 憲通（株式会社リンクステーション代表取締役
社長）

花田 玲子（県民代表）

松下 三恵（県民代表）

会議開催状況

第1回

開催日：2016年3月19日（土）

会場：青森県立美術館

第2回

開催日：2017年2月9日（木）

会場：青森県立美術館

第3回

開催日：2018年3月12日（月）

会場：青森県立美術館

第4回

開催日：2019年2月28日（木）

会場：青森県立美術館

第5回

開催日：2020年3月19日（木）

会場：青森県立美術館

入館者数

(単位：人)

		H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度 ①	R元年度 ②	増減 ②-①
常設展	一般観覧者	193,501	89,229	109,609	190,672	233,192	141,904	177,266	179,793	73,541	137,198	92,714	125,342	134,453	92,807	△ 41,646
	スクール免除	12,685	6,968	6,668	9,098	11,574	6,777	5,798	3,712	3,845	3,530	3,295	2,448	2,612	1,898	△ 714
	常設展計	206,186	96,197	116,277	199,770	244,766	148,681	183,064	183,505	77,386	140,728	96,009	127,790	137,065	94,705	△ 42,360
企画展	シャガール展	192,918														
	縄文と現代展	14,894														
	工藤甲人展	1,680	10,950													
	旅順博物館展		30,065													
	舞台芸術の世界展		6,282													
	棟方志功・崔榮林展		4,156													
	寺山修司展			9,533												
	大ナボレオン展			46,609												
	小島一郎展			8,660												
	ウィーン展				36,884											
	(特別展 太宰治と美術展)					(23,191)										
	馬場のぼる展				25,464											
	ラブラブショー				5,160											
	ローマ展					45,622										
	ロボット展					25,076										
	芸術の青森展					3,530										
	印象派展						105,758									
	今和次郎展						4,807									
	フィンランド展							31,876								
	Art and Air 展							18,267								
	奈良美智展							80,275								
	種差展								16,807							
	横尾忠則展								10,516							
	日本の民家展								5,115							
	工藤哲巳展									5,056						
	美少女展									33,866						
	関野準一郎展									8,158						
	成田亨展										18,257					
	化け物展										32,984					
	「青森EARTH2015 みちの奥へ」展示										3,022					
	棟方志功展											17,427				
	日展												19,094			
青森EARTH2016 根と路												11,190				
澤田教一展												10,195				
ラブラブショー 2展													10,962			
遙かなるルネサンス展													40,188			
近代洋画展													6,762			
シャガール三次元の世界展													4,057	14,665		
フランスと日本展														31,543		
めがねと旅する美術展														16,867		
アルヴァ・アアルト展															12,858	
子どものための建築と空間展															13,431	
青森EARTH2019:いのちの絆す場所															5,944	
企画展計		209,492	51,453	64,802	67,508	74,228	110,565	130,418	32,438	47,080	54,263	57,906	61,969	63,075	32,233	△ 30,842
教育普及	学校団体受入	18,775	9,905	9,242	7,087	7,272	7,368	6,310	5,792	3,974	4,065	4,158	2,687	3,762	2,265	△ 1,497
	出前講座	1,196	1,587	1,122	1,119	537	1,250	1,022	1,245	383						0
	普及プログラム	2,300	2,148	2,873	886	718	11,763	2,565	2,744	1,575	557	96	851	1,692	568	△ 1,124
	展示関係プログラム			625	1,526	7,546	930	909	1,738	932	757	1,688	482	549	541	△ 8
	その他	500		464	266	399	387	351	136	440	393	411	1,161	285	281	△ 4
教育普及計	22,771	13,640	14,326	10,884	16,472	21,698	11,157	11,655	7,304	5,772	6,353	5,181	6,288	3,655	△ 2,633	
パフォーマンス	演劇	2,170	1,821	1,516	1,333	1,085	2,962	3,468	5,255	2,258	2,140	2,163	3,054	835	2,101	1,266
	ダンス			1,419	1,089	520			339	699	662	490	632	602		△ 602
	音楽	1,559	471	1,583	1,959	970	979	1,133	810	469	479	469	428	573	629	56
	映画	975	1,954	1,584	685				240	991	503	1,024	818	1,993	446	△ 1,547
パフォーマンス計	4,704	4,246	6,102	5,066	2,575	3,941	4,601	6,644	4,417	3,784	4,146	4,932	4,003	3,176	△ 827	
貸館	10,268	26,481	194,807	104,625	144,520	20,735	33,410	126,284	26,192	71,045	58,931	28,185	47,790	11,421	△ 36,369	
図書館	2,552	7,727	12,910	10,012	7,864	6,561	10,688	6,818	4,662	4,307	6,557	3,467	4,474	3,542	△ 932	
キッズルーム		2,850	3,690	3,127	3,555	20,501	15,889	4,267	2,602	3,118	3,545	2,738	3,015	1,799	△ 1,216	
合計	455,973	202,594	412,914	400,992	493,980	332,682	389,227	371,611	169,643	283,017	233,447	234,262	265,710	150,531	△ 115,179	

※ キッズルームは平成19年4月28日からオープン
 ※ 特別展太宰治と美術展入館者数は常設展入館者数に含む

運営予算・決算

令和元年度

一般会計予算額

(単位：千円)

事業名	収入	科目	支出	細目	説明
美術館費	43,706	使用料及び手数料	168,468	職員費	人件費
	0	国庫支出金	608,288	美術館運営管理費	管理運営費、調査研究費、美術資料収集費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーミングアーツ事業費 他
	105	財産収入	976	公園管理費	青森県総合運動公園管理費
	26,219	繰入金			
	106,043	諸収入			
	149,000	県債			
	452,659	一般財源			
合計	777,732		777,732		

令和元年度

一般会計決算額

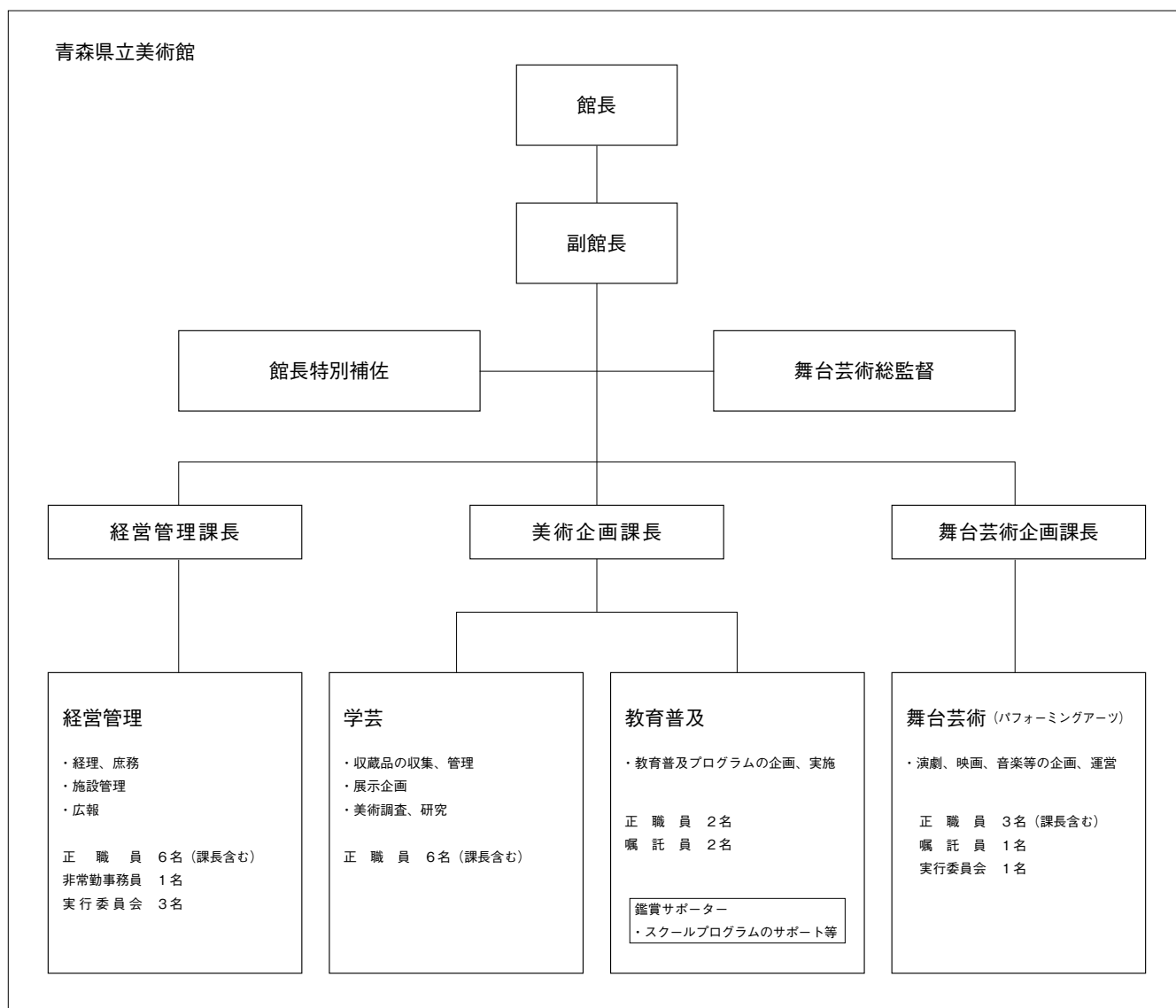
(単位：千円)

事業名	収入	科目	支出	細目	説明
美術館費	40,037	使用料及び手数料	173,070	職員費	人件費
	0	国庫支出金	548,534	美術館運営管理費	管理運営費、調査研究費、美術資料収集費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーミングアーツ事業費 他
	105	財産収入	967	公園管理費	青森県総合運動公園管理費
	59,447	繰入金			
	60,968	諸収入			
	111,000	県債			
	451,014	一般財源			
合計	722,571		722,571		

組織

- 県立美術館の運営は、アドバイザー・ボードからの助言を得ながら行っている。
 - 館長、県職員（非常勤含む）21人、嘱託員3人の計24人が美術館運営にあっている。
- このほか、企画展実行委員会職員3名、パフォーミングアーツ実行委員会職員1名が配置されている。

（令和元年4月1日現在）



関係規程等

青森県立美術館条例

(設置)

第一条 美術その他の芸術の鑑賞及び学習の機会並びに創作活動の場の提供を行うことにより、県民の芸術に関する活動への参画を支援し、もって文化の振興を図るため、青森市に青森県立美術館（以下「美術館」という。）を設置する。

(業務)

第二条 美術館は、次に掲げる業務を行う。

- 一 美術品その他の芸術に関する資料（以下「美術品等」という。）の収集、保管及び展示に関すること。
- 二 美術品等の利用に関し必要な説明、助言及び指導に関すること。
- 三 美術品等に関する専門的、技術的な調査研究に関すること。
- 四 美術品等に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の作成及び配布に関すること。
- 五 美術その他の芸術に関する講演会、講習会、映写会、研究会、公演会等の開催に関すること。
- 六 美術その他の芸術に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 七 美術その他の芸術に関する創作活動の場の提供に関すること。
- 八 その他県民の芸術に関する活動への参画を支援するために必要な業務

(使用の承認)

第三条 別表第二号又は第三号に掲げる場合において、美術館の施設を使用しようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

(使用料)

第四条 美術館の施設を使用する者（以下「使用者」という。）は、別表に定める使用料を納入しなければならない。

2 知事は、特別の理由があると認めるときは、前項の使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用の制限等)

第五条 知事は、使用者が次の各号のいずれかに該当する場合は、当該使用者の美術館の使用を拒み、その使用の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

- 一 他の使用者に迷惑をかけ、又はそのおそれがあるとき。
- 二 美術館の施設、設備等をき損し、若しくは汚損し、又はそれらのおそれがあるとき。
- 三 この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

2 知事は、前項に規定する場合のほか、美術館の管理運営上支障があると認めるときは、美術館の使用を制限することができる。

(委任)

第六条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

附則 この条例は、規則で定める日から施行する。

別表（第三条、第四条関係）

一 美術品等の観覧のための使用の場合

区分	金額（一回につき）
常設展の観覧	一人につき 千円を超えない範囲内で知事が定める額
企画展の観覧	知事がその都度定める額

二 展示施設の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

区分	九時三十分から 十二時まで	十三時から 十七時まで	九時三十分以前、 十二時から十三時 まで及び十七時以降
コミュニティギャラリーA	二千三百十円	三千四百円	八百五十円
コミュニティギャラリーB	八百八十円	千四百円	三百五十円
コミュニティギャラリーC	千八百八十円	三千円	七百五十円
展示室A	二千五百円	四千円	千円
展示室B	二千円	三千二百円	八百円
展示室C	五千五百円	八千八百円	二千二百円
展示室D	三千二百五十円	五千二百円	千三百円
展示室E	千五百円	二千四百円	六百円
映像室	千円	千六百円	四百円

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合は、この場合の使用料の額の二倍に相当する額

三 シアター等の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

区分	金額（一時間につき）
シアター	二千四百円
映写室	二百六十円
アナウンスブース	五十円
ワークショップA	九百円
ワークショップB	千三百円
暗室	百六十円
スタジオ	七百二十円
映像編集室	百八十円
スタジオ映写室	二百十円

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合は、この場合の使用料の額の二倍に相当する額

四 食堂施設又は売店施設の使用の場合

知事が定める額

青森県告示第 五百二十五 号

青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号）別表第四号の規定により、青森県立美術館の食堂施設及び売店施設の使用料の額を次のとおり定める。

平成十八年七月十二日

青森県知事 三村申吾

区分	金額（一年につき）
食堂施設	八十三万四千八百円
売店施設	六十六万五千六百円

備考 使用期間が一年に満たないとき、又は使用期間に一年に満たない端数があるときは、その全期間又は端数部分について日割で計算する。

青森県立美術館規則

（趣旨）

第一条 この規則は、青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号。以下「条例」という。）第六条の規定に基づき、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（開館時間）

第二条 美術館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時まで（六月一日から九月三十日までの期間にあっては、午前九時から午後六時まで）とする。

2 美術館の副館長（以下「副館長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の開館時間を変更することができる。

第三条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

一 毎月第二月曜日及び第四月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第七十八号）に規定する休日にあたるときは、その翌日）

二 十二月二十七日から同月三十一日までの日

2 副館長は、必要があると認めるときは、前項の休館日に開館し、又は同項の休館日以外の日に休館することができる。

（使用料の承認の手続）

第四条 条例第三条の規定による使用の承認（以下「使用の承認」という。）を受けようとする者は、使用申込書を知事に提出しなければならない。

2 知事は、使用の承認をしたときは、当該使用の承認を受けた者に使用承認書を交付するものとする。

（使用料の免除の申請）

第五条 条例第四条第二項の規定による使用料の免除を受けようとする者は、免除申請書を知事に提出しなければならない。

（使用の承認の取消し等）

第六条 副館長は、美術館の施設を使用する者（以下「使用者」という。）が不正な手段により使用の承認を受けたと認めるときは、その使用の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

（原状回復等）

第七条 使用者は、故意又は重大な過失により美術館の施設、設備、美術品その他の芸術に関する資料等をき損し、又は汚損したときは、原状に復し、又は現品若しくはそれに相当する代価をもって弁償しなければならない。

附則

この規則は、平成十八年七月十三日から施行する。

附則

この規則は、平成二十七年四月一日から施行する。

青森県立美術館管理規程

（趣旨）

第1条 この規程は、青森県立美術館条例（平成17年10月青森県条例第69号。以下「条例」という。）及び青森県立美術館規則（平成18年7月青森県規則第72号。以下「規則」という。）に定めるもののほか、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（観覧券の交付）

第2条 条例別表第1号に定める使用料を納入した者に対し、観覧券を交付するものとする。

（使用の承認）

第3条 規則第4条第1項に規定する使用申込書の様式は、第1号様式とする。

2 規則第4条第2項に規定する使用承認書の様式は、第2号様式とする。

3 規則第4条に規定する使用承認の手続きに関し必要な事項は、副館長が別に定める。

（使用料の納付）

第4条 使用の許可を受けた者は、納入通知書により指定する日までに使用料を納入しなければならない。

（使用料の還付）

第5条 納付された使用料は、還付しない。ただし、天災その他利用者の責めによらない理由により美術館を使用できなくなった場合は、この限りではない。

2 前項ただし書きにより使用料の還付を受けようとする者は、使用料還付請求書（第3号様式）を副館長に提出しなければならない。

（使用料等の免除）

第6条 副館長は、条例別表第1号に規定する常設展の観覧が次の各号のいずれかに該当するときは、規則第5条の規定により使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 教育課程に基づく学習活動として観覧する小学校、中学校、中等教育学校前期課程及び特別支援学校の児童、生徒及び引率する教職員が観覧するとき 使用料の全部の額

二 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設に入所している少年及び引率する当該施設の職員が観覧するとき 使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条

第4項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人が観覧するとき（ただし、免除する付添人は、当該障害者一人につき一人までとする。）使用料の全部の額

四 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律123号）第45条第2項の規定による精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者、療育手帳の交付を受けている知的障害者及びこれらの付添人が観覧するとき（ただし、免除する付添人は、当該障害者一人につき一人までとする。）使用料の全部の額

五 前各号に掲げるもののほか、副館長が特別の理由があると認めるとき 使用料の全部の額又は一部の額

2 前項第1号、第2号及び第5号に規定する常設展の使用料の免除を受けようとする者は、常設展の観覧使用料免除申請書（第4号様式）を副館長に提出しなければならない。

3 副館長は、条例別表第2号又は第3号に掲げる施設の使用が美術館の目的にふさわしい資料展示、講習会、研究会等のためであり、かつ、次の各号のいずれかに該当するときは使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 学校教育法（昭和22年法律26号）第1条に規定する学校が教育課程に基づく学習活動として使用するとき 使用料の全部の額

二 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設に入所している少年を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

四 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律123号）第45条第2項の規定による精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及び療育手帳の交付を受けている知的障害者とこれらの付添人を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

五 美術館を構成員とする実行委員会等が主催して使用するとき 副館長が事案に即して相当と認める額又は使用料の全額

六 芸術の振興を目的として活動している団体が主体となつて、美術館と共催し使用するとき 使用料の2分の1に相当する額を基本として副館長が事案に即して相当と認める額

七 前各号に掲げる場合のほか、副館長が特別の理由があると認めるとき 副館長が定める額

4 前項に規定する施設の使用料の免除を受けようとする者は、施設使用料免除申請書（第5号様式）を副館長に提出しなければならない。

（美術品等の貸出）

第7条 副館長は、別に定めるところにより美術館の資料を貸し出すことができる。

（美術品等の寄託又は寄贈）

第8条 副館長は、別に定めるところにより美術資料の寄託又

は寄贈を受けることができる。

（美術資料の特別観覧）

第9条 副館長は、美術館に収蔵されている美術資料について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術資料の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をさせることができる。

2 前項に規定する特別観覧をしようとする者は、特別観覧承認申請書（第6号様式）を副館長に提出しなければならない。

附則

この規定は、平成18年7月13日から施行する。

この規程は、平成19年6月25日から施行する。

この規定は、平成21年1月19日から施行する。

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

青森県立美術館アドバイザー・ボード設置要綱

（設 置）

第1 青森県立美術館（以下「美術館」という。）のより良い運営を推進するため、青森県立美術館アドバイザー・ボード（以下「アドバイザー・ボード」という。）を設置する。

（所 掌）

第2 アドバイザー・ボードは、美術館の運営に関して必要な助言等を行う。

（構 成）

第3 アドバイザー・ボードは、8名以内のアドバイザーをもって組織する。

2 アドバイザーは、学識経験を有する者その他適当と認められる者から知事が委嘱する。

3 アドバイザー・ボードに座長を置き、アドバイザーの互選により選出する。

4 アドバイザーに欠員を生じた場合の補欠のアドバイザーの任期は、前任者の残任期間とする。

（任 期）

第4 アドバイザーの任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

（会 議）

第5 アドバイザー・ボードは、青森県立美術館長が招集する。

2 アドバイザー・ボードの議長は、座長が務める。

3 座長に事故があるときは、座長が指示するアドバイザーがその職務を代理する。

（庶 務）

第6 アドバイザー・ボードの庶務は、美術館において処理する。

（その他）

第7 この要綱に定めるもののほか、アドバイザー・ボードの運営に関し必要な事項は、美術館が別に定める。

附 則

この要綱は、平成27年8月20日から施行する。

施設設備概要

建設概要

施設名称 青森県立美術館
所在地 青森市大字安田字近野 185
主用途 美術館
事業主体 青森県
設計監理 青木淳建築計画事務所
構造 金箱構造設計事務所
設備 森村設計
音響 永田音響設計
土系素材 I N A X
施工 建築：竹中・西松・奥村・北斗特定建設工事共同企業体
 強電：きんでん・五十嵐・野呂特定建設工事共同企業体
 弱電：奈良・高田特定建設工事共同企業体
 空調：高砂・青木・佐藤設備特定建設工事共同企業体
 衛生：芝管・五戸特定建設工事共同企業体
 昇降機：三菱電機株式会社
面積 敷地面積：129,536.37㎡
 建築面積：7,223.07㎡
 延床面積：21,222.19㎡
 地下2階：4,736.15㎡
 地下1階：3,965.11㎡
 1階：5,339.02㎡
 2階：2,403.81㎡
 3階（機械エリア）：4,778.10㎡
 建ぺい率：5.58%
 容積率：16.38%
階数 地下2階 地上3階
寸法 最高高：16,160 mm
 軒高：15,150 mm
 階高：地下2階 2,300 - 19,000 mm
 地下1階 2,500 - 7,500 mm
 1階 2,700 - 11,000 mm
 2階 2,500 - 4,000 mm
 主なスパン：3,000 mm × 3,000 mm
地域・地区 都市計画区域内 市街化区域
構造 鉄骨鉄筋コンクリート造（地下1・2階）
 鉄骨造（地上1 - 3階）
 杭・基礎：杭基礎（PHC-ST 杭）600 φ・700 φ、

（PHC 杭）600 φ
空調設備 A H U ・定風量単一ダクト方式、一部 F C U、空冷パッケージ方式
 熱源：冷温水発生機（320USRt、280USRt）、加湿用蒸気ボイラ、空冷チラー（87USRt）
照明設備 スポットライト及び蛍光灯（調光設備・紫外線カット付）
消火設備 屋内消火栓、スプリンクラー、不活性ガス（窒素）消火、加圧式粉末 ABC 消火器
 設備項目：自火報・防排煙設備、屋内消火栓設備、スプリンクラー設備（開放型、予作動型）、窒素ガス消火設備（一部展示室、収蔵庫、熱源機械室）
排煙設備 機械排煙設備（3系統）
防犯設備 開館時、常時警備員巡回。展覧会開催中は会場内に監視員を置く。展示室内には監視カメラを設置し、監視室にて監視。
衛生設備 給水：受水槽（42 t）+加圧給水ポンプユニット方式
 給湯：局所式（電気温水器）、ガス湯沸器（厨房）
 排水：ポンプアップ排水
電気設備 受電方式：高圧電力3φ3W 6,600V 1回線受電（業務用電力+融雪電力）
 設備容量：2,650 kVA
 契約電力：830 kW
 予備電源：非常用発電設備 500 kVA、直流電源設備（非常照明用）
 設備項目：受変電設備、自家発電設備、幹線設備、動力設備、電灯設備、展示調光設備、避雷設備、外構設備、電話設備、情報設備、インターホン設備、誘導支援設備、テレビ共同受信設備、監視カメラ設備、機械警備設備、放送設備、中央監視設備、外構設備、演出照明設備（シアター、スタジオ）、演出音響設備、映写設備（シアター）
昇降機 荷物用エレベータ1台 乗用エレベータ8台
設計期間 1999年12月 - 2002年3月
施工期間 2002年12月 - 2005年9月
外部仕上げ 屋根：ウレタン塗膜防水
 外壁：煉瓦+アクリルシリコン塗装
 外構：コンクリート舗装ほうき目仕上げ

内部仕上げ

展示室（白）

床：カラーモルタル金こて押え $t = 20 \text{ mm}$ + 防塵
防汚塗装

壁：合板 $t = 15 \text{ mm} \times 2$ + プラスターボード $t = 12 \text{ mm}$ + 全面寒冷紗パテ処理 + EP

天井：合板 $t = 12 \text{ mm}$ + プラスターボード $t = 9 \text{ mm}$
+ EP

展示室（土）

床：タタキ $t = 50 \text{ mm}$

壁：版築 $t = 200 \text{ mm}$

天井：合板 $t = 12 \text{ mm}$ + プラスターボード $t = 9 \text{ mm}$
+ EP

コミュニティホール

床：クリフローリング $t = 15 \text{ mm}$

壁：プラスターボード $12 \text{ mm} \times 2$ + スタッコ

天井：人工木材ローズウッド練り付け
シアター

床：フェルト $t = 8 \text{ mm}$ + カーペット $t = 7 \text{ mm}$

壁：プラスターボード $t = 15 \text{ mm}$ + グラスウール
ボード + エキスパンドメタル $t = 6 \text{ mm}$ （樹脂
コーティング処理）

天井：グラスウール + プラスターボード $t = 15 \text{ mm}$
+ エキスパンドメタル $t = 6 \text{ mm}$ （樹脂コー
ティング処理）

オフィス

床：システム根太ユニット $600 \text{ mm} \times 600 \text{ mm}$ +
コンパネ $t = 12 \text{ mm}$ + クリフローリング $t =$
 15 mm

壁：プラスターボード $t = 12 \text{ mm} \times 2$ + EP

天井：プラスターボード $t = 12 \text{ mm}$ + 吸音板 $t = 12$
 mm + EP

アクセス

- JR 新青森駅から車で約 10 分
- 青森駅から車で約 20 分
- 青森空港から車で約 20 分
- 東北縦貫自動車道青森 I.C. から車で約 5 分
- (八戸方面から) 青森自動車道青森中央 I.C. から車で約 10 分
- 市営バス 青森駅前 6 番バス停から三内丸山遺跡行き
「県立美術館前」下車 (所要時間約 20 分)
- ルートバスねぶたん号新青森駅東口バス停から乗車
「県立美術館前」下車 (所要時間約 10 分)



青森県立美術館年報

令和元年度

編集・発行：青森県立美術館

青森市安田字近野 185 038-0021

017-783-3000

表紙デザイン：菊地敦己

印刷：青森オフセット印刷株式会社

発行日：2021 年 1 月